

地理空間情報の利用等に関する 実態調査 報告書

2025年3月

国土地理院

目次

調査概要	3
調査結果のポイント	6
調査結果	17
回答者の属性	18
地理空間情報の鮮度について	20
地理空間情報の3次元化について	31
国土地理院の提供する地図等について	35
実社会における地理空間情報の浸透について	43
地理空間情報の利用に関する実態について	54
地理空間情報の利用に関する要望について	62

調査概要

調査概要

1. 調査目的

基本測量に関する長期計画（令和6年4月1日）に示される「地図情報の鮮度」と「3次元化の推進」に関して、国土地理院が整備・提供している地理空間情報の利用やニーズ等を調査しその実態を把握することを目的とする

2. 調査方法

オンラインアンケート

3. 調査期間

令和6年12月6日～令和7年1月13日

4. 調査対象者

地理空間情報の活用に関する地域連携協議会および地理院地図パートナーネットワークに参画する個人 約1,500人

5. 有効回答数

352件

6. 回答の信頼性について

本調査の回収数に対して、統計的に十分な信頼性があることを確認した。

必要なサンプルサイズ（回答数）は次の式で求められる。

$$n = \frac{\frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2}}{1 + \left(\frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2 N}\right)}$$

ただし、N：母集団、Z：信頼水準、p：回答比率、e：許容誤差、n：必要なサンプルサイズである。Z：信頼水準は、一般的に社会調査の前提となる信頼水準95%（許容誤差5%）に対応する値として、1.96とする。また、p：回答比率については、統計学的に、誤差が最大となるp=0.5（回答比率50%）と設定する。

上記の条件より、母集団1,500の場合、信頼水準95%±5%を確保するのに必要なサンプル数は306^{注1}である。したがって、本調査における有効回答数352は信頼水準95%±5%の信頼性を確保するものである。

報告書を読む上での注意点

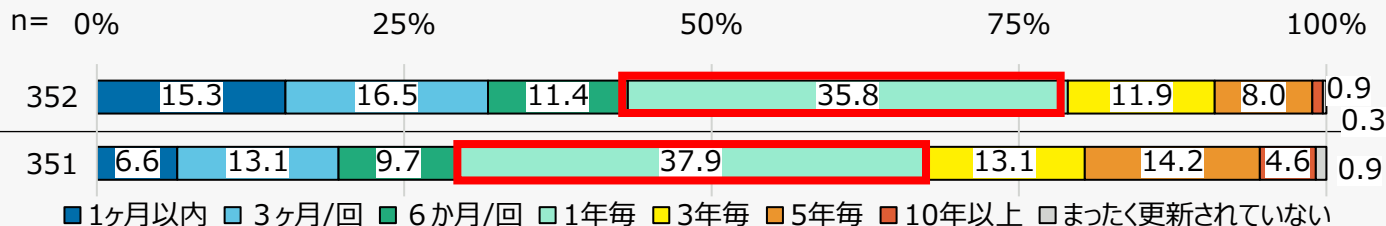
1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、比率算出の基数となる。
2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合がある。また、グラフの一部では回答数0（0.0%）を省略しているものがある。
3. 結果数値（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
4. クロス集計において、回答数が10未満の属性については、コメントを省略する場合がある。
5. 本アンケートの対象者は、地理空間情報に対して知見を有する方を対象としているため、本結果は幅広く国民のみなさまの意見が反映されたものではない。

調査結果のポイント

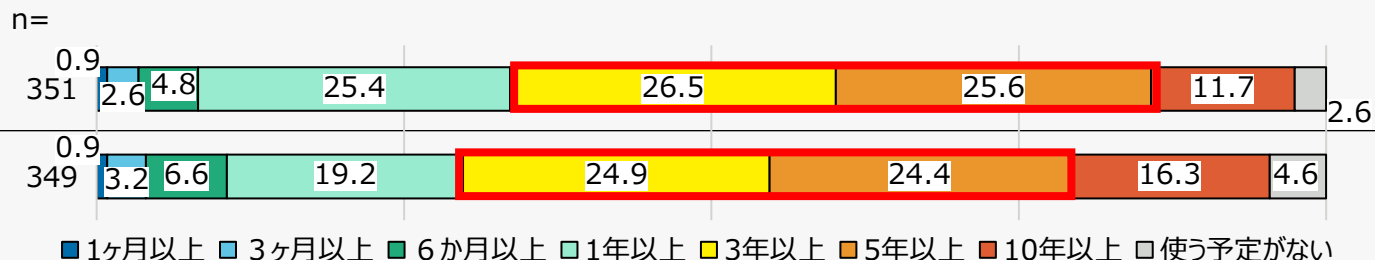
地理空間情報の鮮度について

- 電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報いずれについても、「1年毎」に更新されているという回答が3割を超える。一方、使用をためらう古さは「3年以上」と「5年以上」がいずれも25%前後で高く、**使用をためらわないレベルで更新されているという認識を持つ回答者が多い**と考えられる。

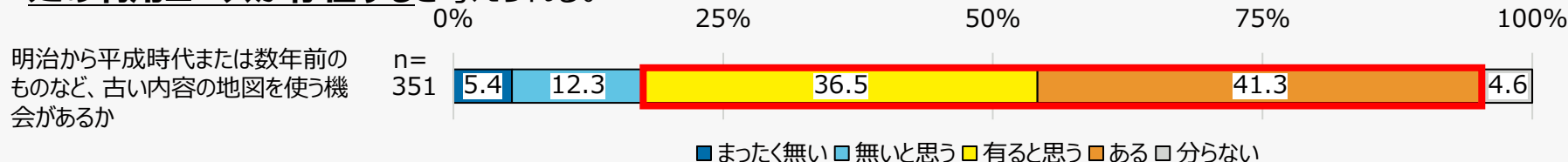
どのくらいの間隔で更新されてると
思うか



使用をためらう古さ

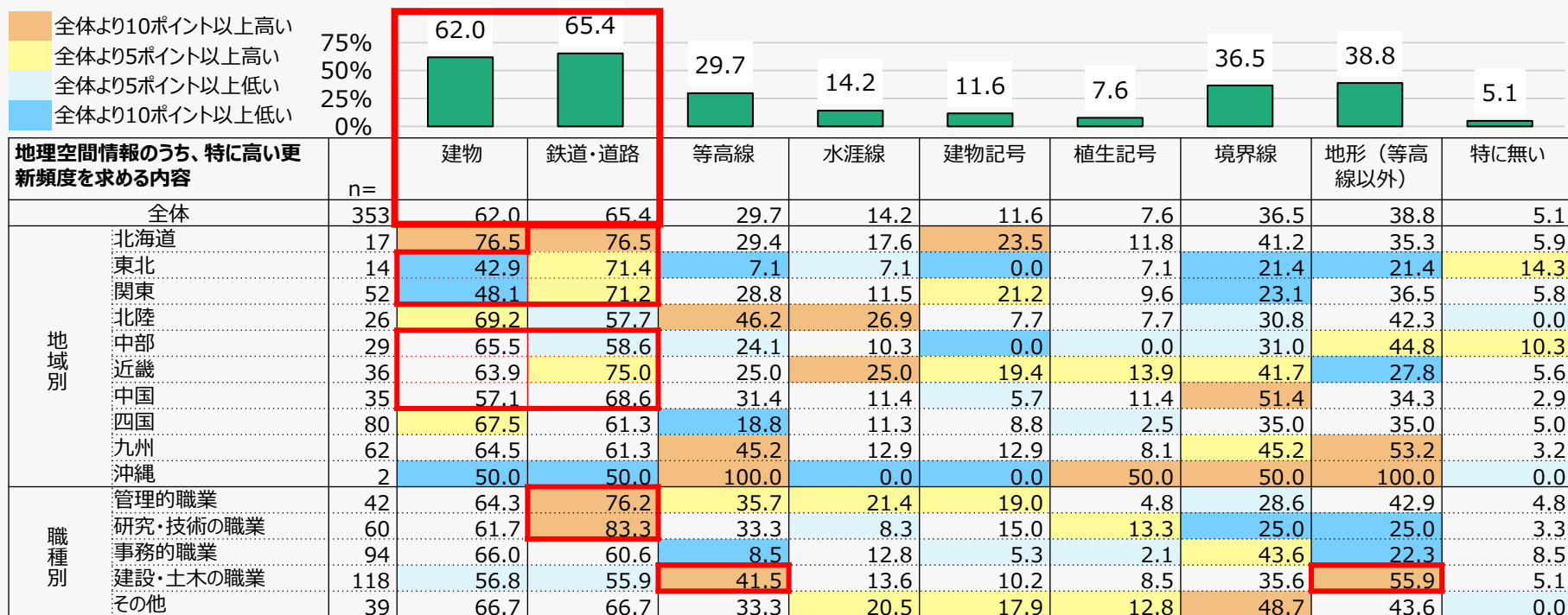


- 古い内容の地図を使う機会については、「ある」「有ると思う」の合計が77.8%と8割近く、**古い地図についても一定の利用ニーズが存在する**と考えられる。



地理空間情報の鮮度について

- 地理空間情報のうち、特に高い更新頻度を求める内容については、全体では、「**鉄道・道路**」が**65.4%**で最も高く、次いで「建物」（62.0%）も6割を超える。
- 地域別では、**北海道、東北、関東、近畿**で「**鉄道・道路**」が**70%を超え高い**。東北、関東、中部、近畿、中国では「建物」よりも「道路・鉄道」の方が10ポイント以上高い更新頻度が求められている。
- 職種別では、管理的職業、研究・技術の職業で「鉄道・道路」、建築・土木の職業では「等高線」と「地形（等高線以外）」がそれぞれが全体より10ポイント以上高い。



地理空間情報の3次元化について

- 地理空間情報の3次元化を特に望む地域について、全体では、「**都市域**」が**61.1%**と最も高く、次いで「**山間地域**」（53.7%）、「**農耕地**」（26.4%）となっている。地物については、全体では、「**建物**」が**58.0%**と最も高く、次いで「**鉄道・道路**」（46.0%）、「**等高線等の地形表現**」（44.3%）となっている。

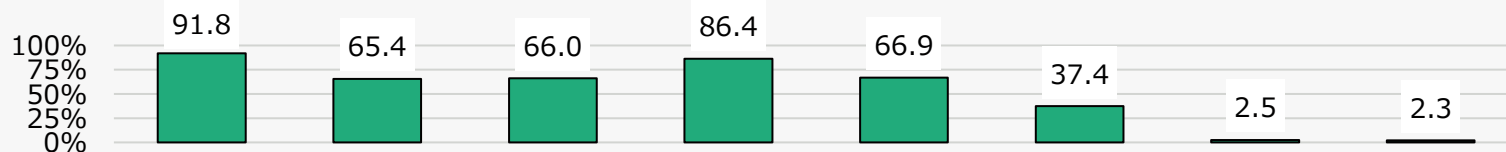
		n=	山間地域	都市域	農耕地	沿岸域	離島	特に無い
地理空間情報の3次元化を特に望む地域	全体	352	53.7	61.1	26.4	25.6	8.5	15.9
	北海道	17	58.8	64.7	41.2	29.4	11.8	17.6
	東北	14	50.0	57.1	35.7	7.1	0.0	14.3
	関東	52	53.8	57.7	11.5	23.1	7.7	15.4
	北陸	26	69.2	65.4	30.8	34.6	7.7	19.2
	中部	29	72.4	62.1	41.4	24.1	10.3	10.3
	近畿	36	50.0	63.9	27.8	36.1	11.1	13.9
	中国	35	54.3	68.6	37.1	28.6	5.7	5.7
	四国	80	37.5	53.8	18.8	25.0	1.3	28.8
	九州	61	60.7	67.2	27.9	19.7	16.4	8.2
	沖縄	2	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0

		n=	建物	鉄道・道路	等高線等の地形表現	水涯線	建物記号	植生記号	境界線	地形（等高線以外）	河川	特に無い
地理空間情報の3次元化を特に望む地物	全体	352	58.0	46.0	44.3	15.1	5.4	3.7	15.1	35.8	35.2	15.3
	北海道	17	70.6	41.2	35.3	17.6	11.8	5.9	11.8	17.6	29.4	11.8
	東北	13	38.5	46.2	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7	23.1	23.1
	関東	52	53.8	28.8	48.1	13.5	3.8	3.8	9.6	40.4	19.2	19.2
	北陸	26	53.8	38.5	61.5	23.1	7.7	3.8	19.2	53.8	50.0	7.7
	中部	29	55.2	48.3	44.8	17.2	0.0	0.0	17.2	44.8	27.6	13.8
	近畿	36	55.6	58.3	50.0	30.6	8.3	8.3	22.2	36.1	52.8	13.9
	中国	35	65.7	54.3	48.6	5.7	5.7	5.7	14.3	37.1	42.9	2.9
	四国	80	57.5	43.8	21.3	11.3	3.8	0.0	13.8	30.0	31.3	28.8
	九州	62	64.5	54.8	64.5	14.5	6.5	6.5	14.5	35.5	38.7	6.5
	沖縄	2	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	100.0	0.0

- 地域別では、**近畿で地域については「沿岸域」、地物については「鉄道・道路」、「水涯線」、「河川」が全体よりそれぞれ10ポイント以上高く、沿岸や河川などについて要望が多いことがわかる。**
- このほか、北陸で地域の「山間地域」、地物の「等高線等の地形表現」、「地形（等高線以外）」、「河川」が全体よりそれぞれ10ポイント以上高いなど、**地域ごとに特徴がみられる。**

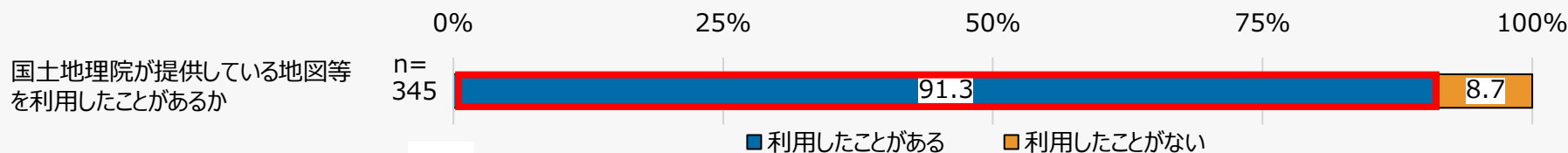
国土地理院の提供する地図等について

- 国土地理院の提供する地図等で知っているものは、全体では、「地理院地図（ウェブ地図）」が91.8%と最も高く、次いで「空中写真（航空写真）」（86.4%）、「地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）」（66.9%）、電子地形図（25000、50000）」（66.0%）、「基盤地図情報」（65.4%）となっている。**これらは概ね6割を超える認知度を獲得しているが、「主題図（火山、地震、水害）」は4割未満とやや低い。**



国土地理院の提供する地図等で知っているもの	n=	地理院地図（ウェブ地図）	基盤地図情報	電子地形図（25000、50000）	空中写真（航空写真）	地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）	主題図（火山、地震、水害）	その他	知らない
全体	353	91.8	65.4	66.0	86.4	66.9	37.4	2.5	2.3

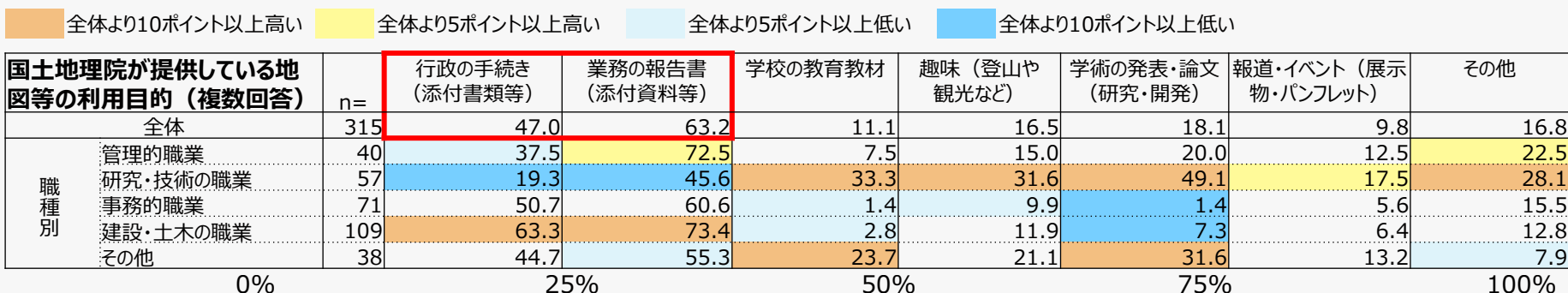
- 国土地理院の提供する地図等の利用経験については**91.3%が「利用したことがある」と回答**。利用したことがある地図等は、「地理院地図（ウェブ地図）」が87.9%と最も高く、次いで「空中写真（航空写真）」（69.3%）、「基盤地図情報」（55.9%）と続いており、**概ね認知度と同傾向である。**



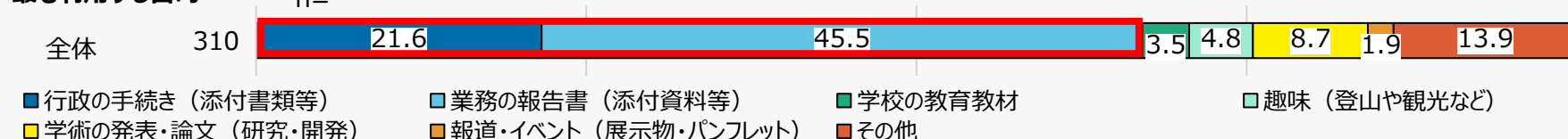
利用したことがある地図等	n=	地理院地図（ウェブ地図）	基盤地図情報	電子地形図（25000、50000）	空中写真（航空写真）	地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）	主題図（火山、地震、水害）	その他	知らない
全体	313	87.9	55.9	41.5	69.3	42.5	14.7	1.9	0.0

国土地理院の提供する地図等について

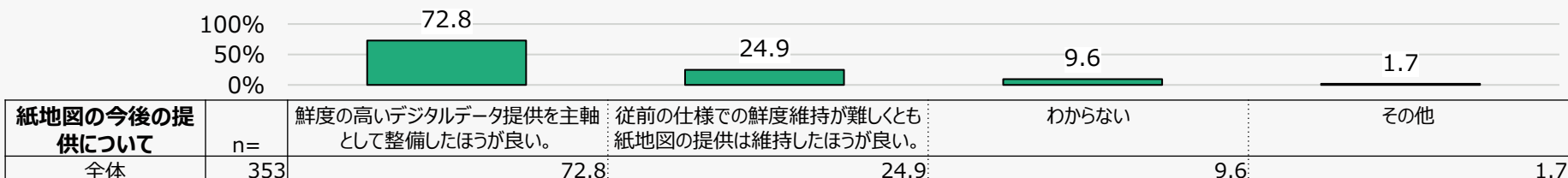
- 国土地理院が提供している地図等の利用目的（複数回答）は、「**業務の報告書（添付資料等）**」が**63.2%と最も高く**、次いで「行政の手続き（添付資料等）」（47.0%）となっている。
- 最も利用する目的でも「業務の報告書（添付資料等）」が45.5%と最も高く、次いで「行政の手続き（添付資料等）」（21.6%）の順となっており、**業務や行政手続きでの利用が多い**ことがわかる。
- 職種別では、建設・土木の職業で「業務の報告書（添付資料等）」、「行政の手続き（添付資料等）」が全体より10ポイント以上高い。



最も利用する目的

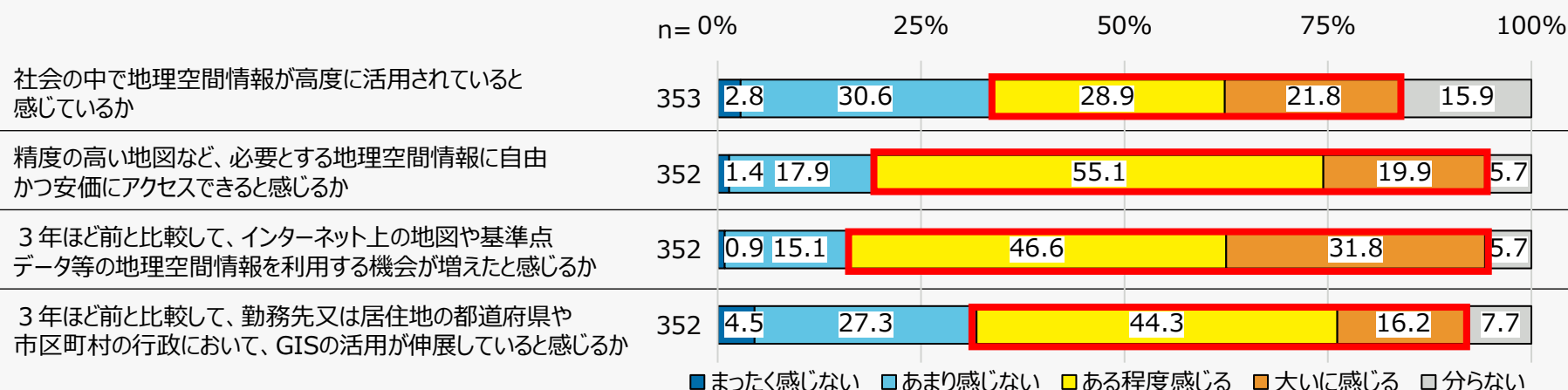


- 紙地図の今後の提供については、「**鮮度の高いデジタルデータ提供を主軸として整備したほうが良い。**」が72.8%と高く、**デジタルデータを主軸とすべきとする割合が高い**が、紙地図を維持したほうが良いとの意見も2割を超える。



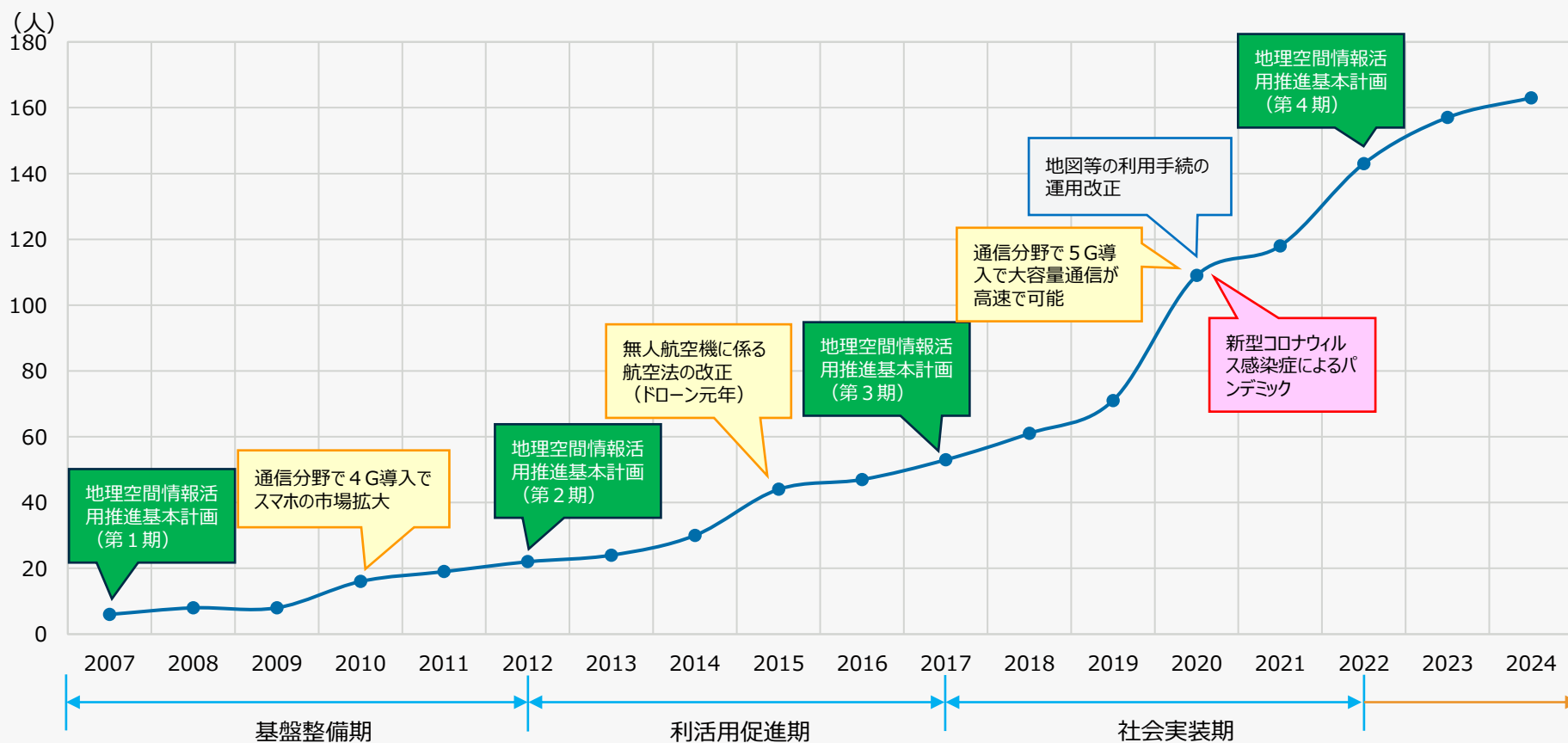
実社会における地理空間情報の浸透について

- ・ 実社会における地理空間情報の浸透について、以下の4項目に分けて「まったく感じない」～「大いに感じる」の4段階に「分からない」を加えた5つの選択肢で尋ねた。
- ・ 「ある程度感じる」と「大いに感じる」を合計した“感じる”の割合をみると、「社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じているか」では50.7%と約半数となる。
- ・ 一方、「精度の高い地図など、必要とする地理空間情報に自由かつ安価にアクセスできると感じるか」では“感じる”が75.0%となっており、**自由かつ安価なアクセスがより進んでいるとの評価となっている。**
- ・ 3年ほど前との比較において、「インターネット上の地図や基準点データ等の地理空間情報を利用する機会が増えたと感じるか」についても“感じる”が78.4%と、地理空間情報の利用機会が増えていると実感している割合が高いが、「勤務先又は居住地の都道府県や市区町村の行政において、GISの活用が伸展していると感じるか」については60.5%となっており、**行政での活用にはタイムラグがあると考えられる。**



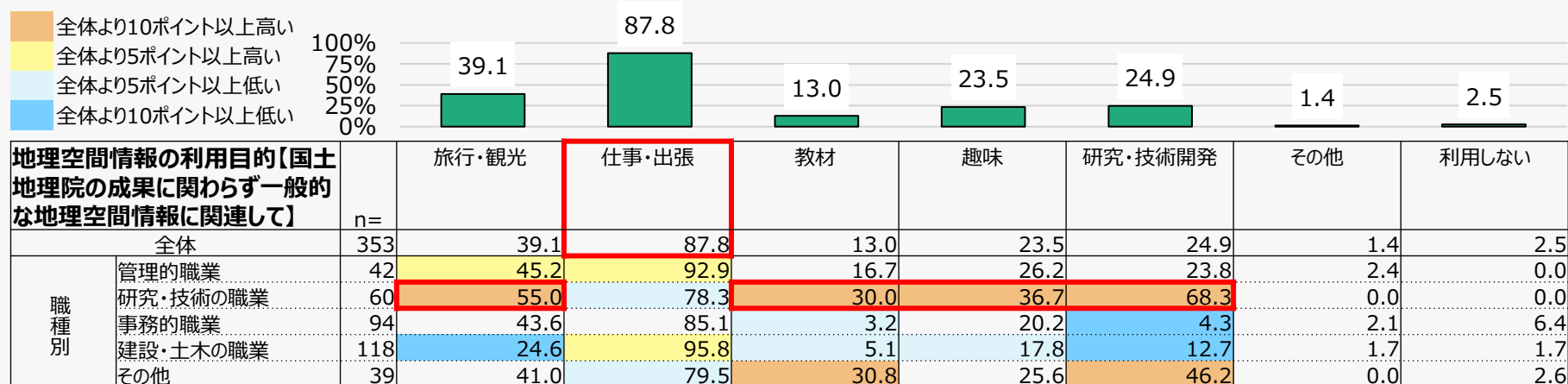
実社会における地理空間情報の浸透について

- ・ 実社会における地理空間情報の浸透に対する意識の変化の推移について、地理空間情報活用推進基本法（平成19年法律第63号）に基づく地理空間情報活用推進基本計画や社会情勢等を勘案すると、意識の変化のきっかけがあると考えられる。

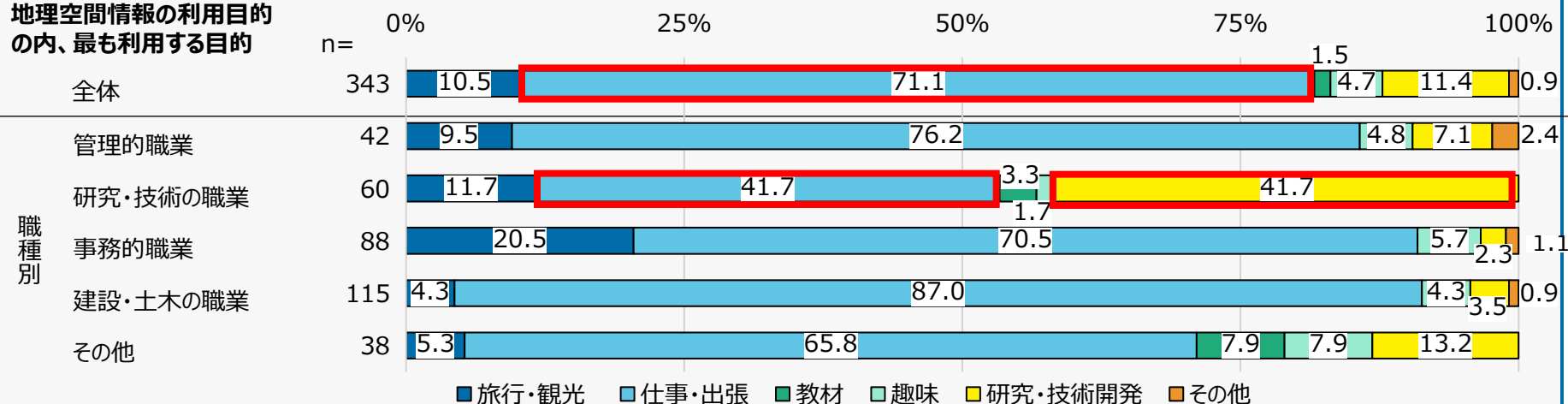


地理空間情報の利用に関する実態について

- 地理空間情報の利用目的については、「**仕事・出張**」が**87.8%**で高い。職種別では、研究・技術の職業で「旅行・観光」、「教材」、「趣味」、「研究・技術開発」が全体より10ポイント以上高い。
- 最も利用する目的でも同様に「仕事・出張」が高いが、**研究・技術の職業では「仕事・出張」と「研究・技術開発」がいずれも41.7%で同率**となっており多様な目的での利用が見られる。

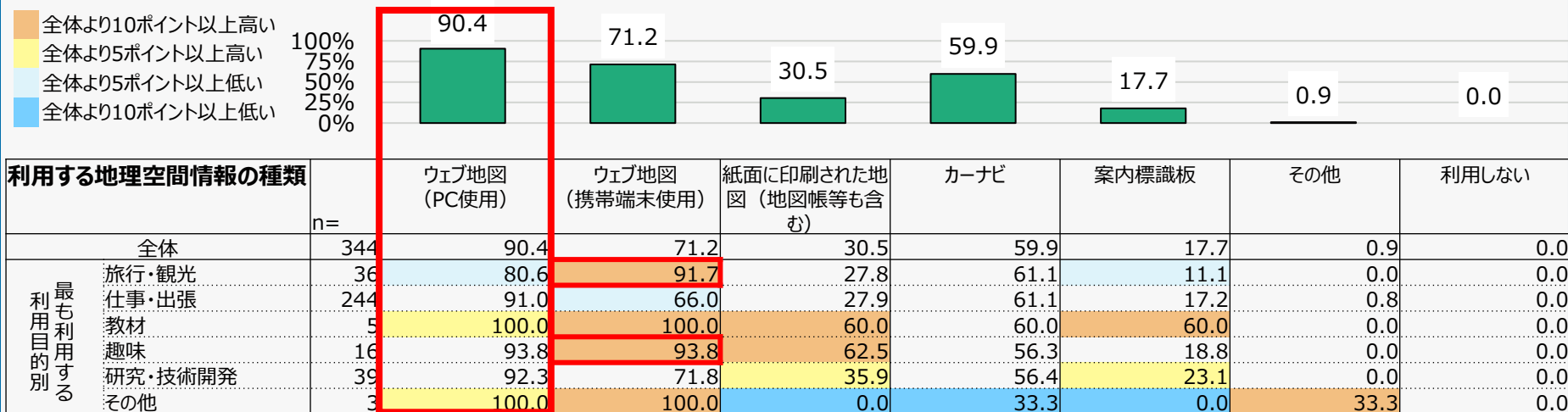


地理空間情報の利用目的の内、最も利用する目的

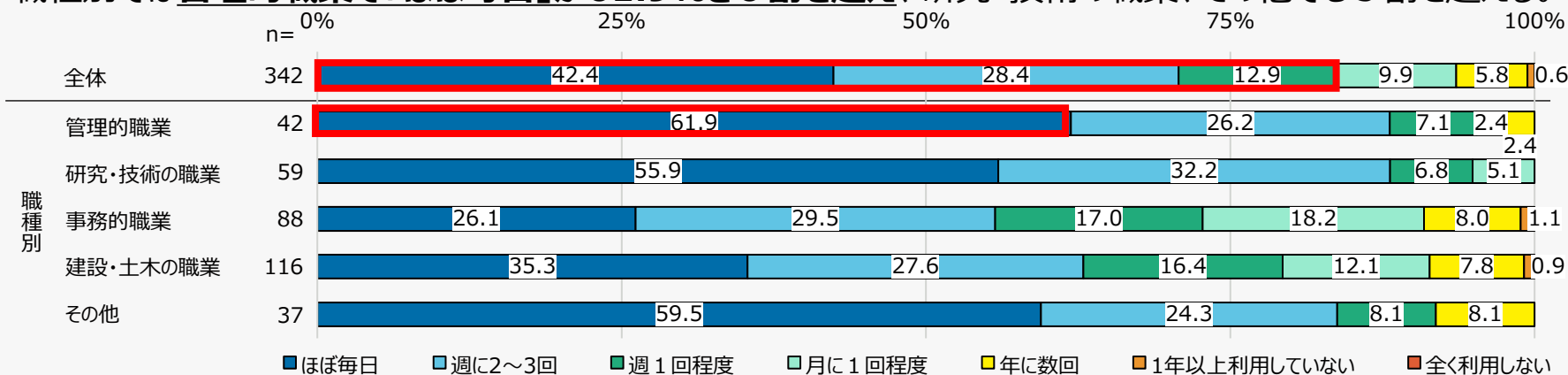


地理空間情報の利用に関する実態について

- 利用する地理空間情報の種類は、「**ウェブ地図（PC使用）**」が**90.4%**と最も高く、次いで「ウェブ地図（携帯端末使用）」（71.2%）、「カーナビ」（59.9%）と続く。最も利用する利用目的別では、**旅行・観光、趣味で「ウェブ地図（携帯端末使用）」**が全体より10ポイント以上高い。

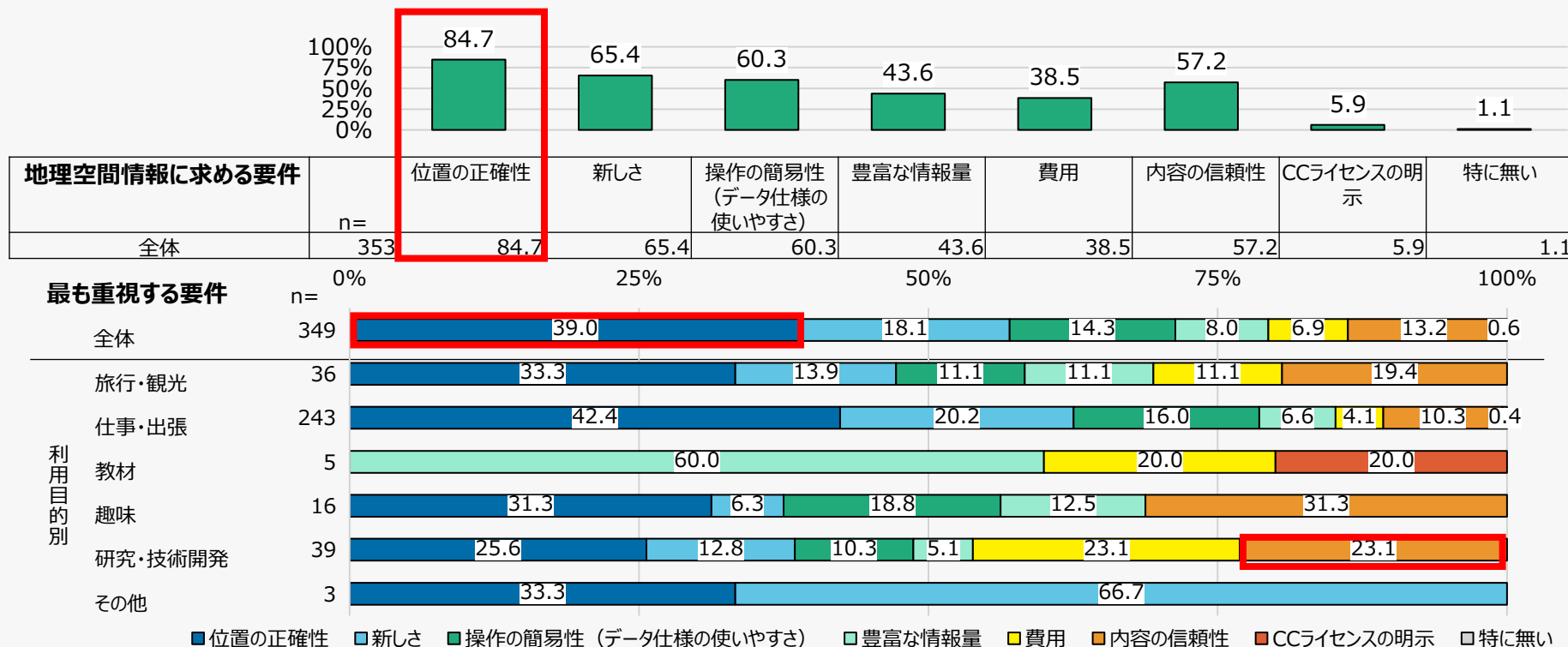


- 地理空間情報の利用頻度は、「**ほぼ毎日**」が42.4%と最も高く、**8割以上が“週1回程度以上”**となっている。職種別では**管理的職業で「ほぼ毎日」が61.9%と6割を超え**、研究・技術の職業、その他でも5割を超える。



地理空間情報の利用に関する要望について

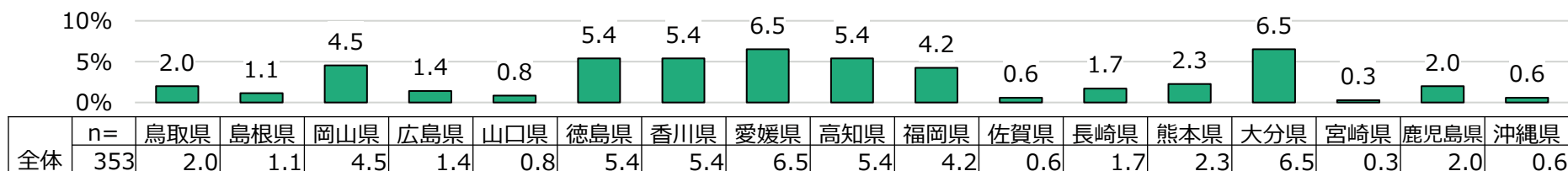
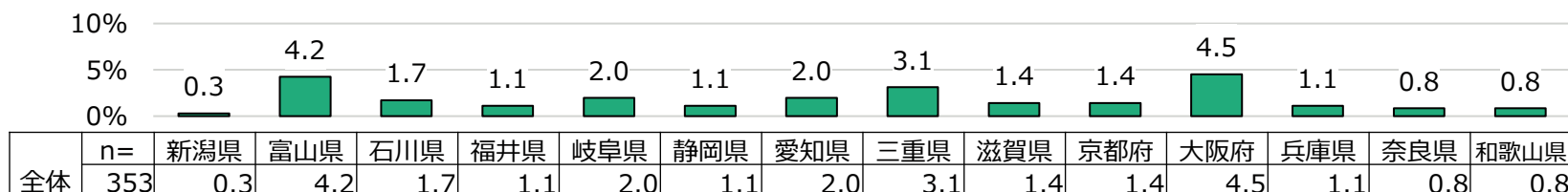
- 地理空間情報に求める要件について、「**位置の正確性**」が**84.7%**と最も高く、地域、職種、利用頻度、最も利用する利用目的別でも、「位置の正確性」が高くなっている。
- 最も重視する要件でも「**位置の正確性**」が**39.0%**で最も高い。最も利用する利用目的別の**研究・技術開発**では、「**費用**」が**23.1%**と他の利用目的と比べて高い。



調査結果

勤務先都道府県

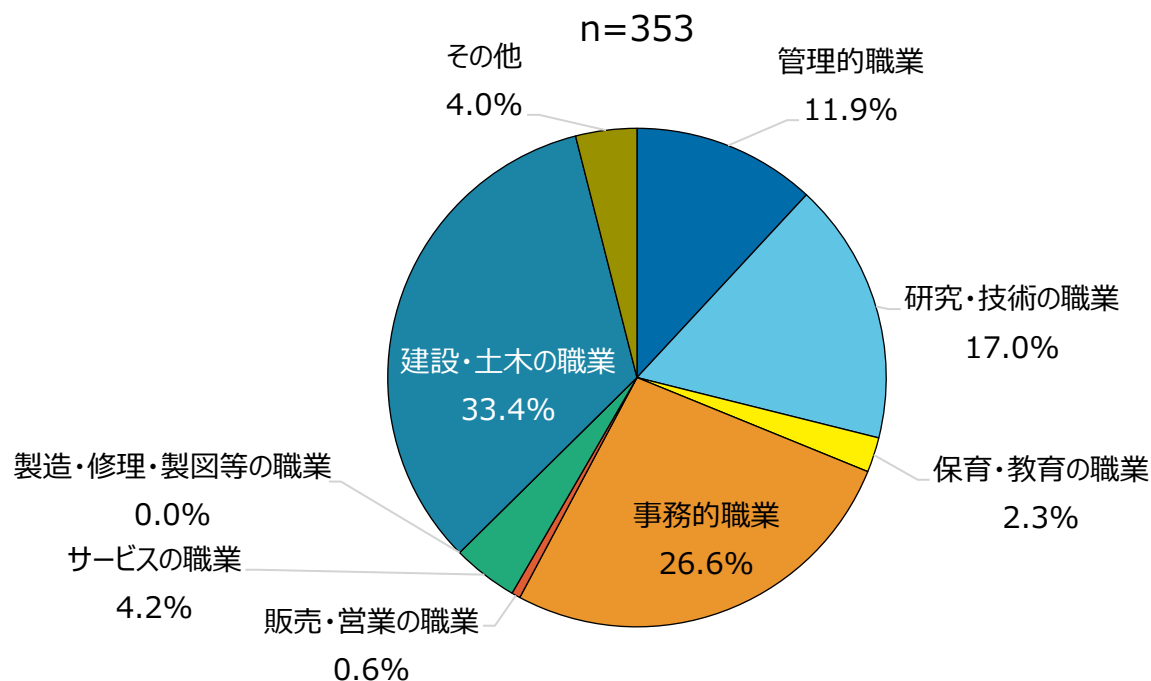
- 勤務先の都道府県については、「愛媛県」と「大分県」がいずれも6.5%で高く、次いで「徳島県」、「香川県」、「高知県」がいずれも5.4%、「北海道」が4.8%、「東京都」、「大阪府」、「岡山県」がいずれも4.5%などとなっている。
- 以降の地域別クロス集計においては、「青森県」から「福島県」を東北、「茨城県」から「長野県」を関東、「新潟県」から「福井県」を北陸、「静岡県」から「三重県」を中部、「滋賀県」から「和歌山県」を近畿、「鳥取県」から「山口県」を中国、「徳島県」から「香川県」を四国、「福岡県」から「鹿児島県」を九州として分析を行う。



問1 勤務先はどこですか。現在、勤務されていない方は居住地をお選びください。勤務先が複数ある方は、主な勤務先の都道府県をお選びください。

職種

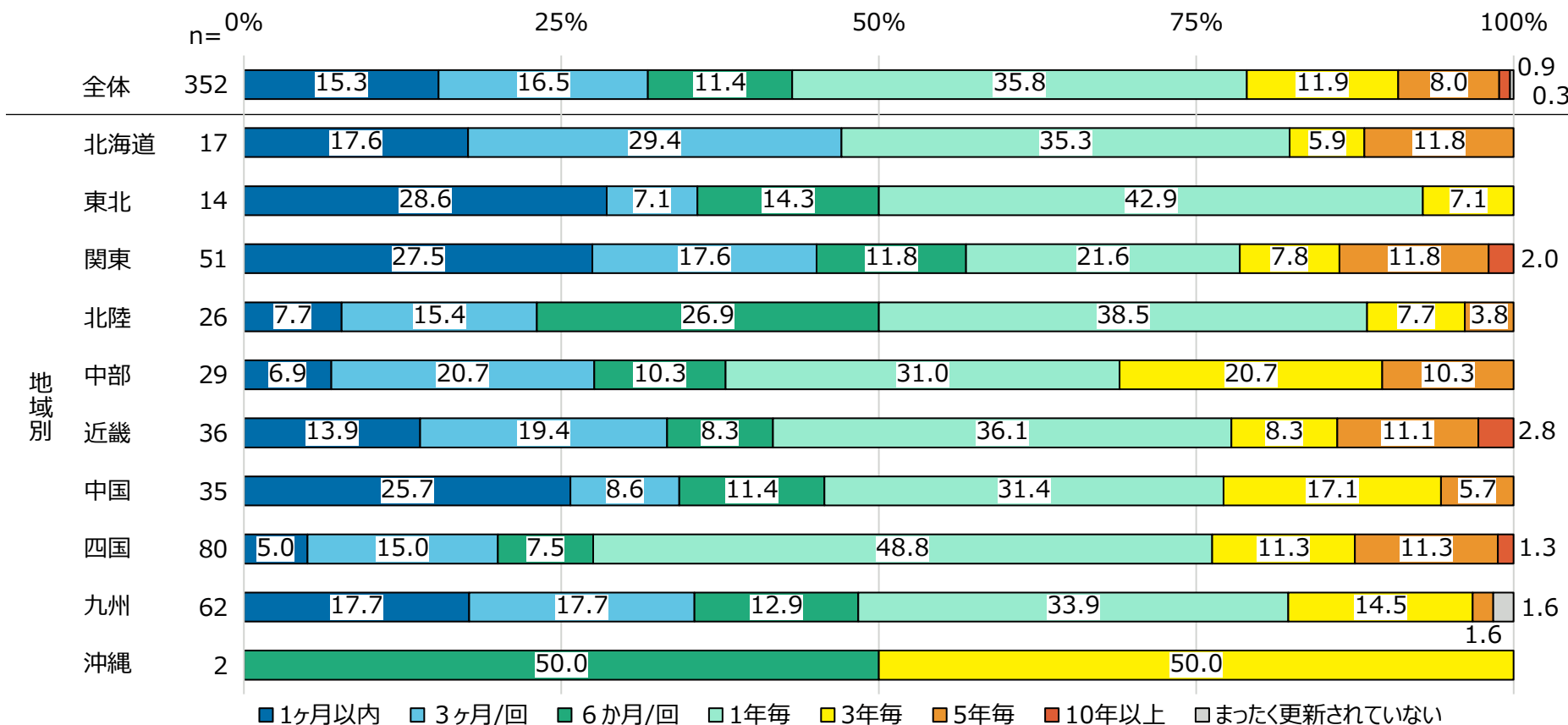
- 職種については「建設・土木の職業」が33.4%で最も高く、次いで「事務的職業」が26.6%、「研究・技術の職業」が17.0%、「管理的職業」が11.9%となっている。
- 以降の職種別クロス集計においては、回答数の少ない「保育・教育の職業」、「販売・営業の職業」、「サービスの職業」、「その他」をまとめて「その他」として分析を行う。



問2 職種は、何ですか。

問3 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図は、どのぐらいの間隔で更新されていると思うか（地域別）

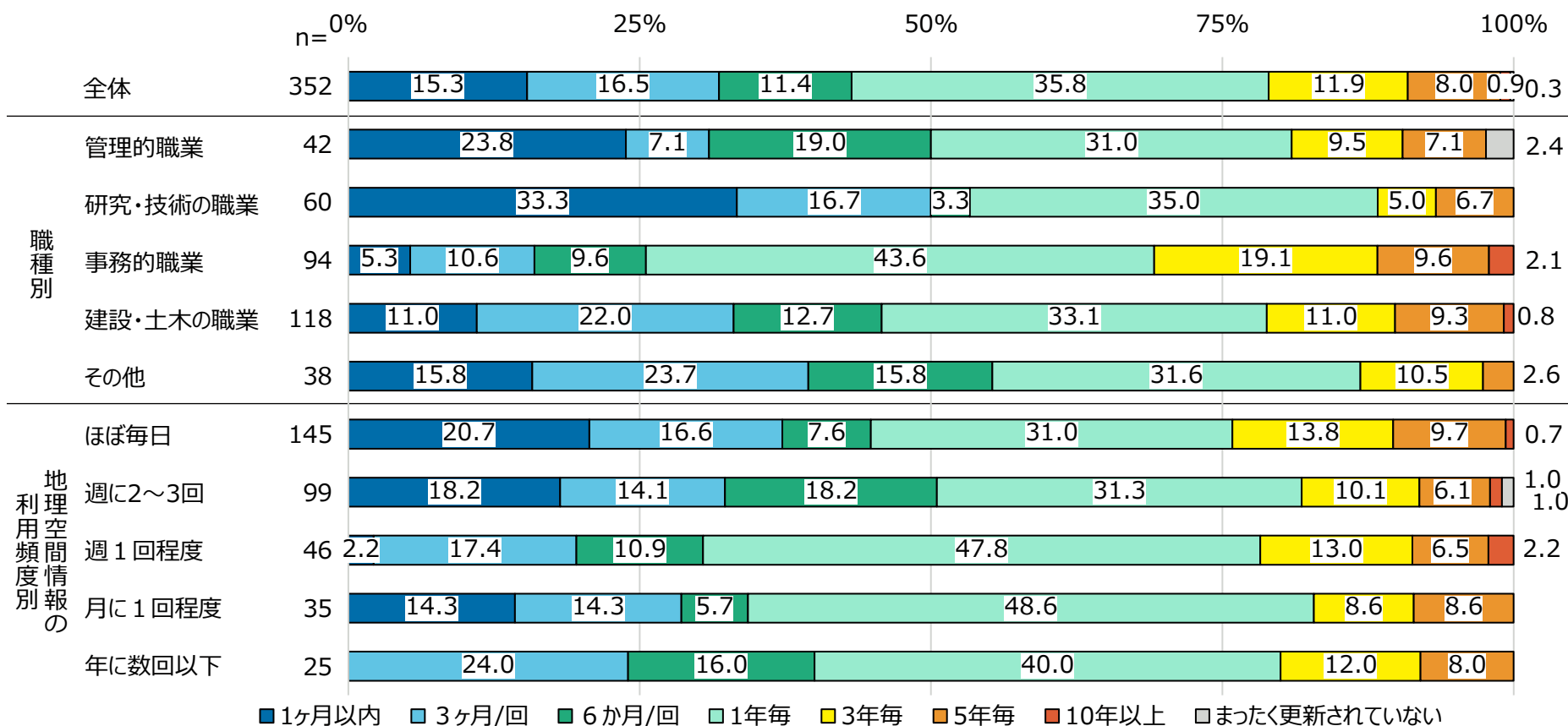
- 全体では、「1年毎」が35.8%と最も高く、次いで「3ヶ月/回」（16.5%）、「1ヶ月以内」（15.3%）と続く。
- 地域別では、四国で「1年毎」が48.8%と他の地域に比べて高い。また、北海道で「3ヶ月/回」が29.4%と他の地域に比べて高い。
- 東北、関東、中国では、「1ヶ月以内」が他の地域に比べて高い。



問3 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図は、どのぐらいの間隔で更新されていると思いますか。

問3 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図は、どのぐらいの間隔で更新されていると思うか（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

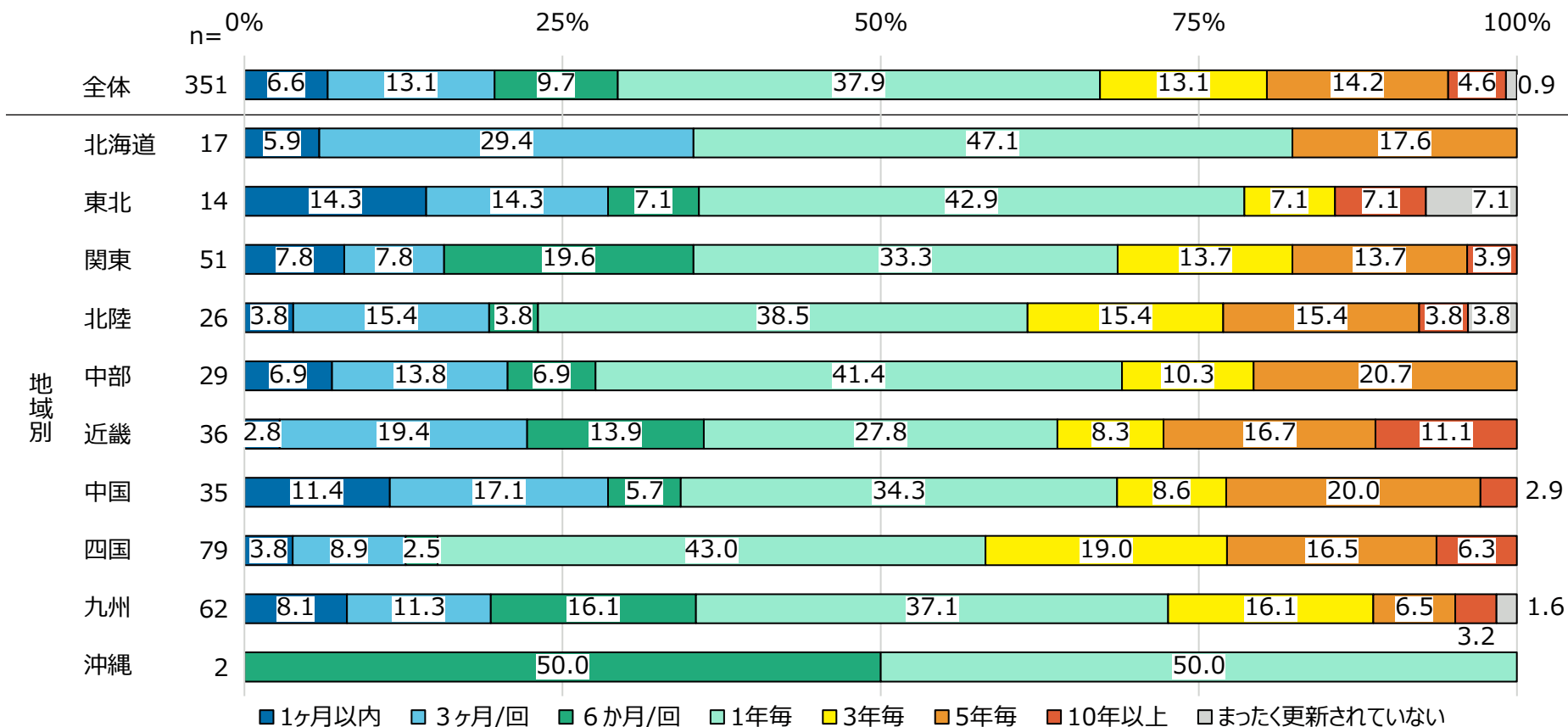
- ・ 職種別では、事務的職業で「1年毎」が43.6%と他の職種に比べて高い。研究・技術の職業では、「1ヶ月以内」が33.3%と他の職種に比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「1ヶ月以内/回」が20.7%と他の利用頻度と比べて高い。



問3 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図は、どのぐらいの間隔で更新されていると思いますか。

問4 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報は、どのくらいの間隔で更新されていると思うか（地域別）

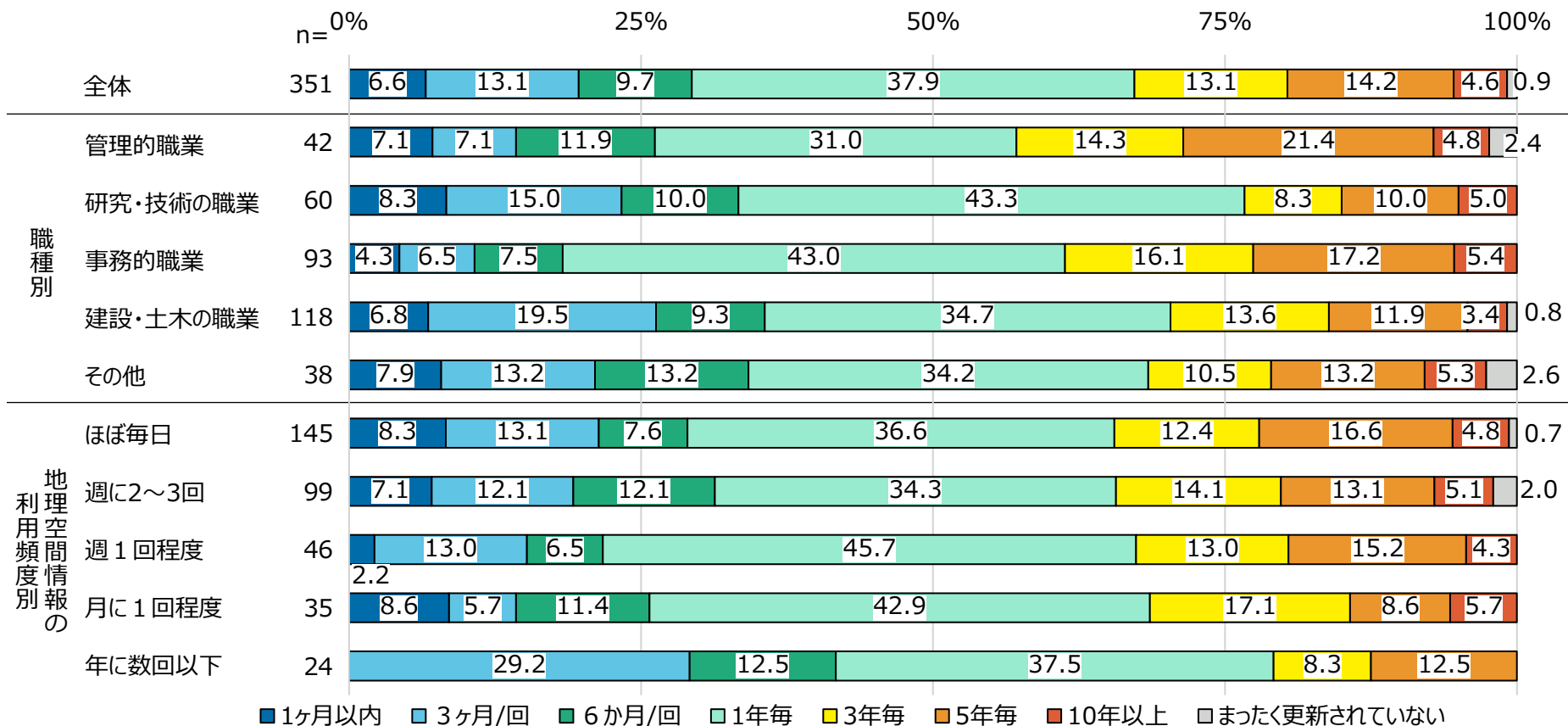
- 全体では、「1年毎」が37.9%と最も高く、次いで「5年毎」（14.2%）、「3ヶ月/回」、「3年毎」（13.1%）と続く。
- 地域別では、北海道、四国、東北で「1年毎」が他の地域と比べて高い。中部では、「5年毎」が20.7%と他の地域と比べて高い。四国では、「3年毎」が19.0%と他の地域と比べて高い。



問4 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報は、どのくらいの間隔で更新されていると思いますか。

問4 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報は、どのくらいの間隔で更新されていると思うか（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

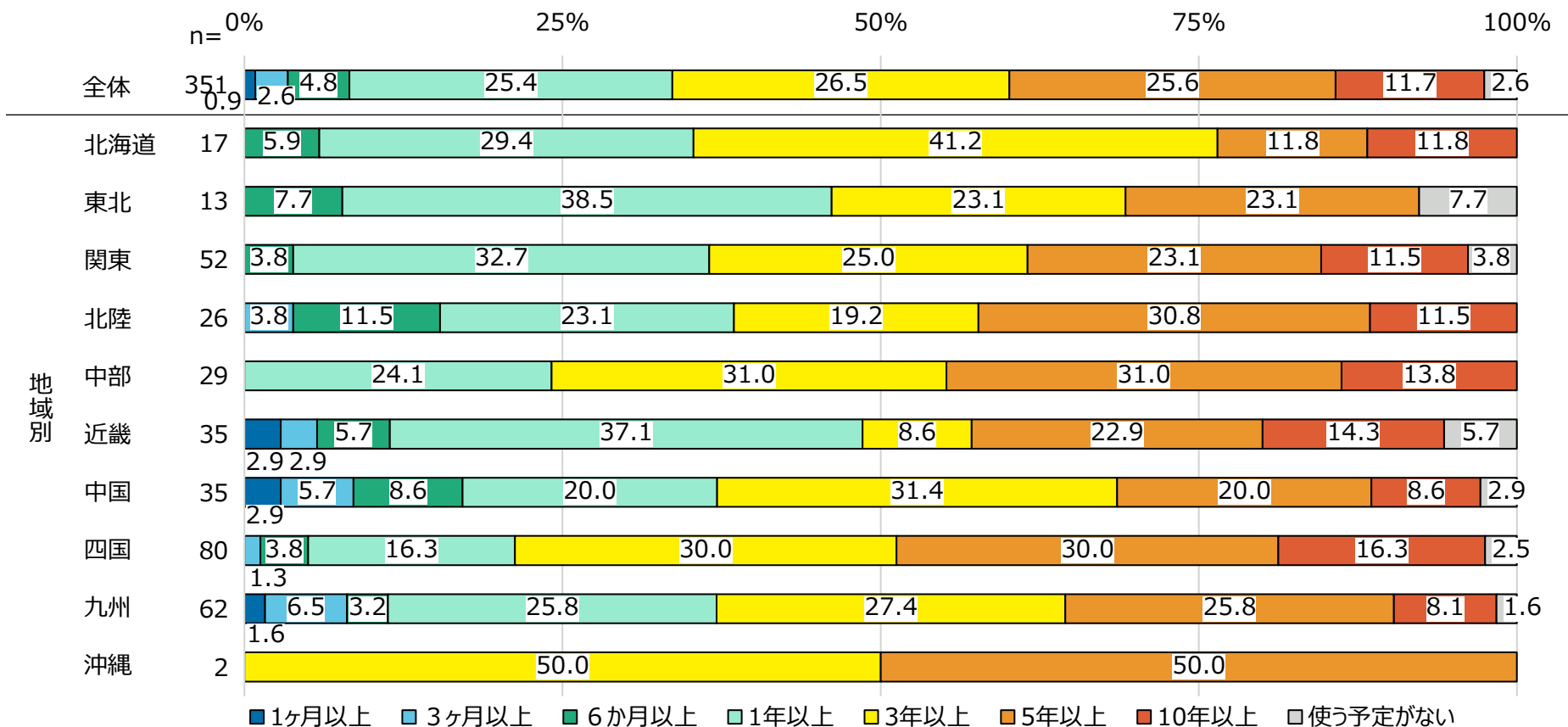
- ・ 職種別では、研究・技術の職業で「1年毎」が43.3%と他の職種と比べて高い。管理的職業では、「5年毎」が21.4%と他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、週1回程度で「1年毎」が45.7%と他の利用頻度と比べて高い。



問4 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報は、どのくらいの間隔で更新されていると思いますか。

問5 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図について、使用をためらう古さ（地域別）

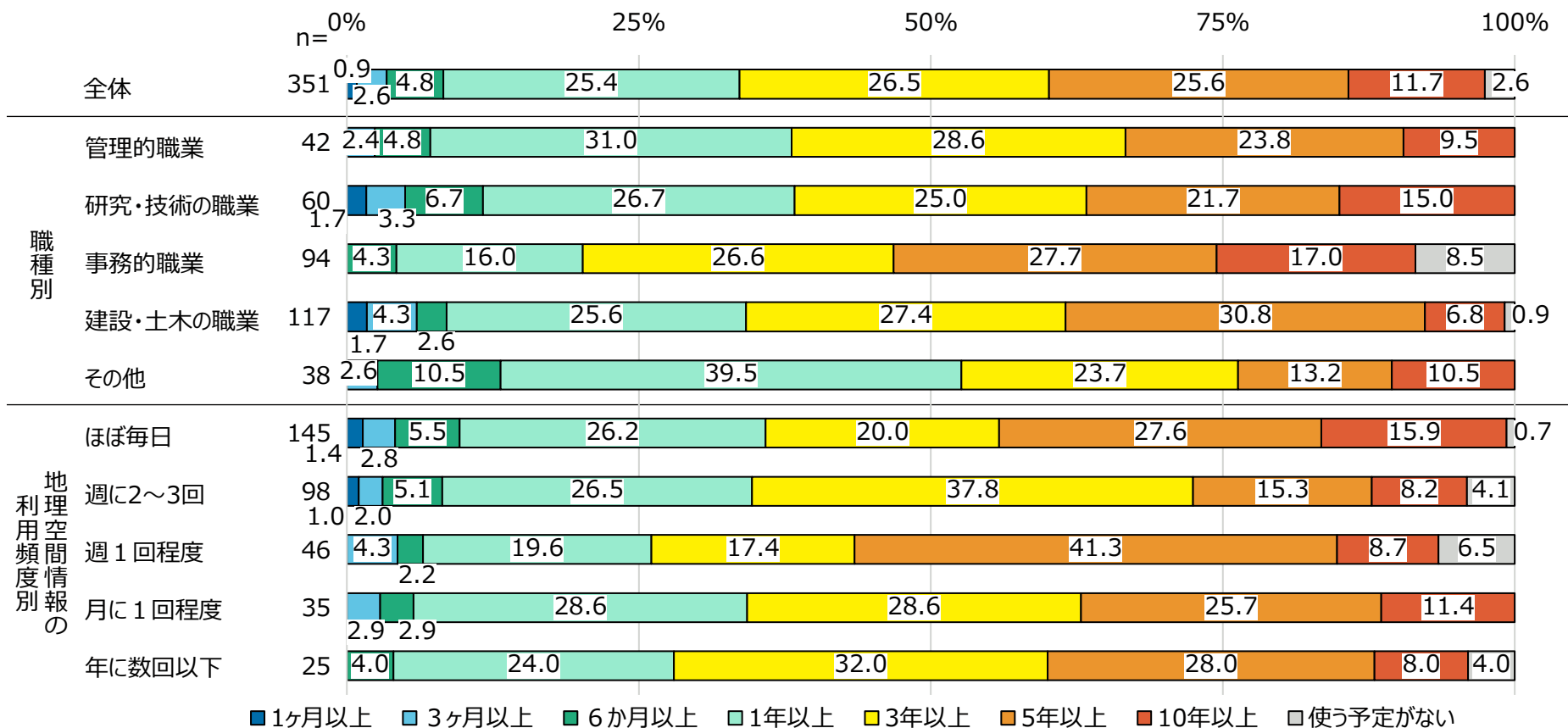
- 全体では、「3年以上」が26.5%で最も高く、次いで「5年以上」（25.6%）、「1年以上」（25.4%）と続く。
- 地域別では、北海道で「3年以上」が41.2%と他の地域と比べて高い。中部、北陸、四国では、「5年以上」が他の地域と比べて高い。東北、近畿では、「1年以上」が他の地域と比べて高い。



問5 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図が、どのくらい古いと、使用をためらいますか。

問5 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図について、使用をためらう古さ（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

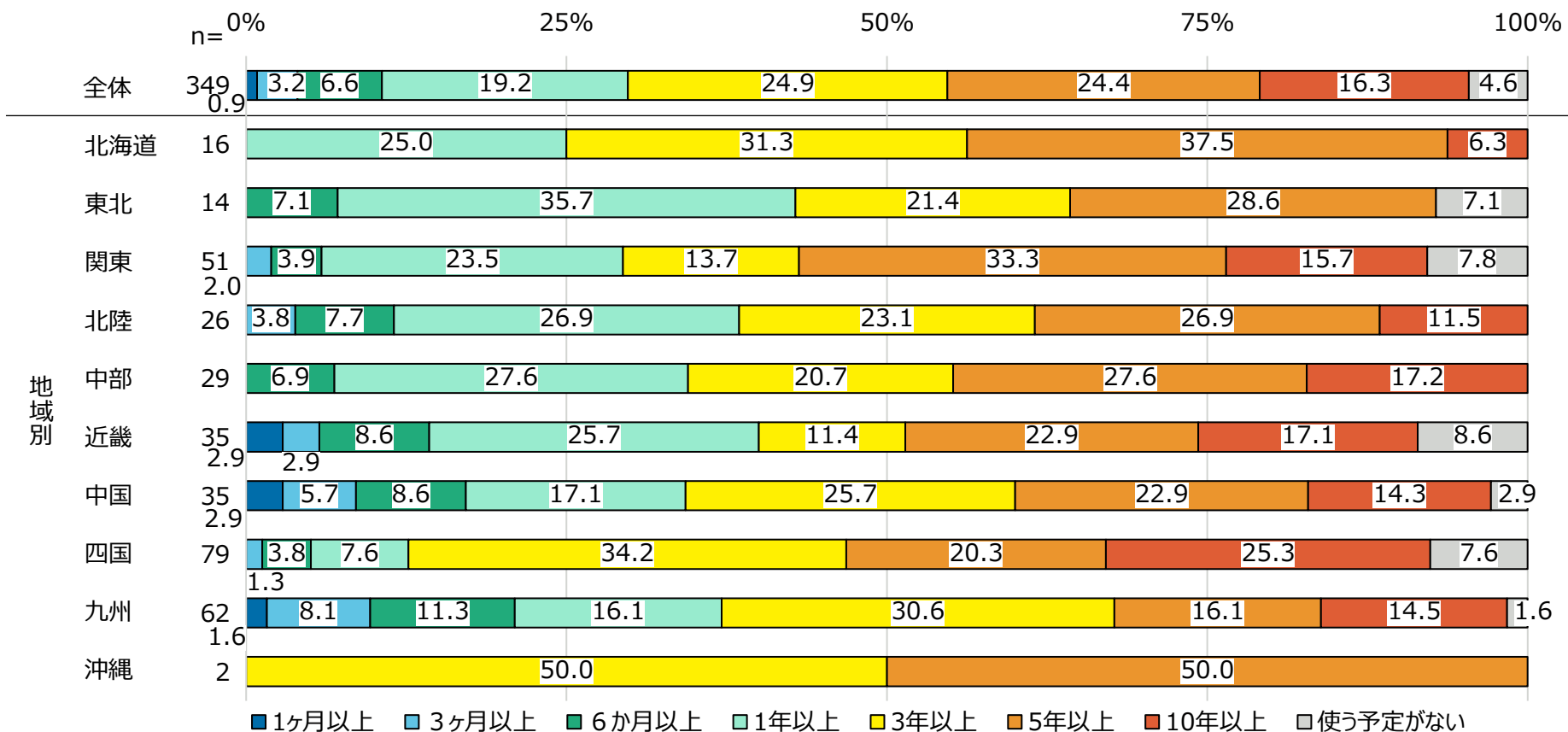
- ・ 職種別では、管理的職業およびその他で「1年以上」が他の職種と比べて高い。建設・土木の職業では、「5年以上」が30.8%と他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、週に2～3回で「3年以上」が37.8%と他の利用頻度と比べて高い。また、週1回程度で「5年以上」が41.3%と他の利用頻度と比べて高い。



問5 地理空間情報のうち、電子国土基本図（地理院地図）などの数値地図が、どのくらい古いと、使用をためらいますか。

問6 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報について、使用をためらう古さ（地域別）

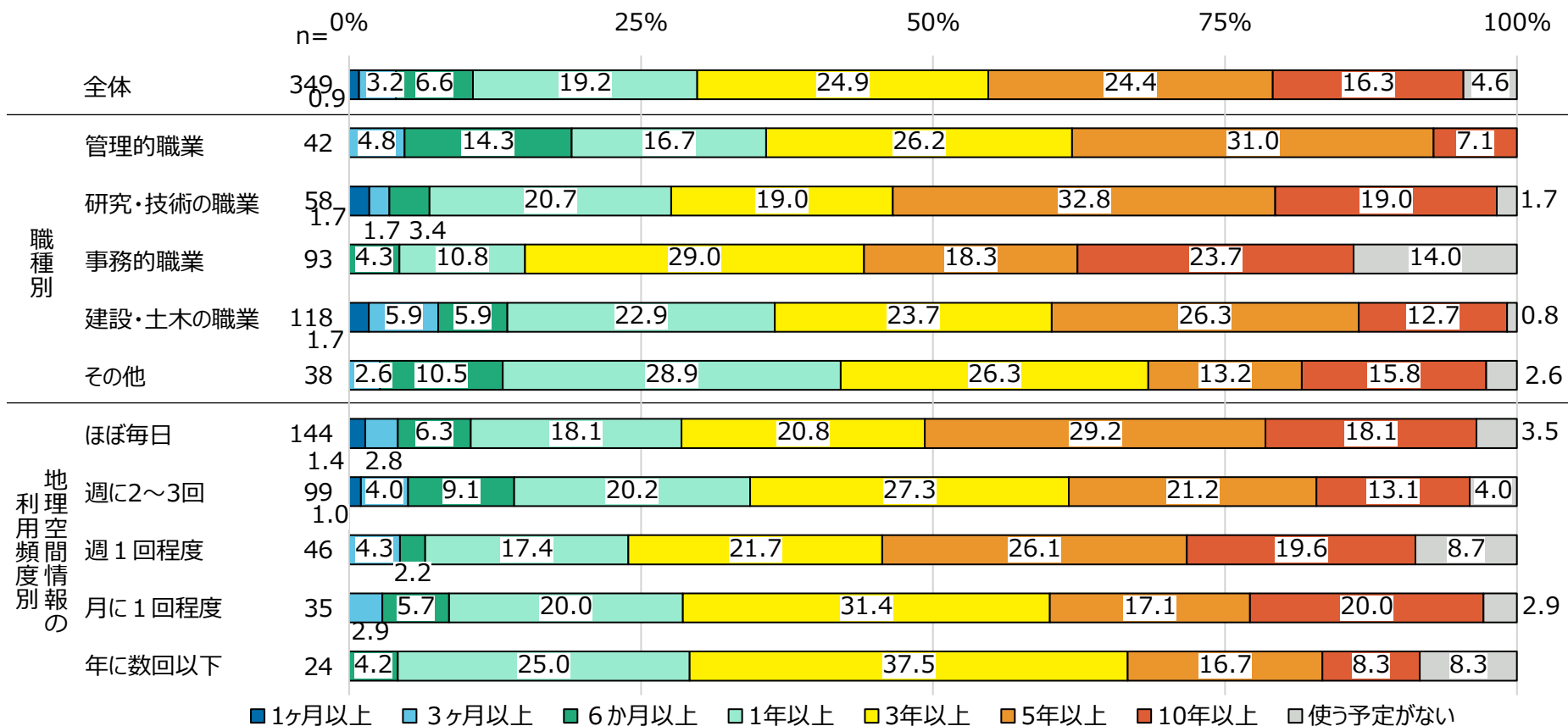
- 全体では、「3年以上」が24.9%で最も高く、次いで「5年以上」（24.4%）、「1年以上」（19.2%）と続く。「1ヶ月以上」から「1年以上」までの合計は29.9%となり、回答者の約3割が少なくとも1年以内に更新されていないと使用をためらうと回答。
- 地域別で「1ヶ月以上」から「1年以上」までの合計をみると、四国で12.7%と他の地域と比べて低い一方、北陸では38.4%、近畿で40.1%と高い。



問6 地理空間情報が、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報が、どのぐらい古いと、使用をためらいますか。

問6 地理空間情報のうち、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報について、使用をためらう古さ（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

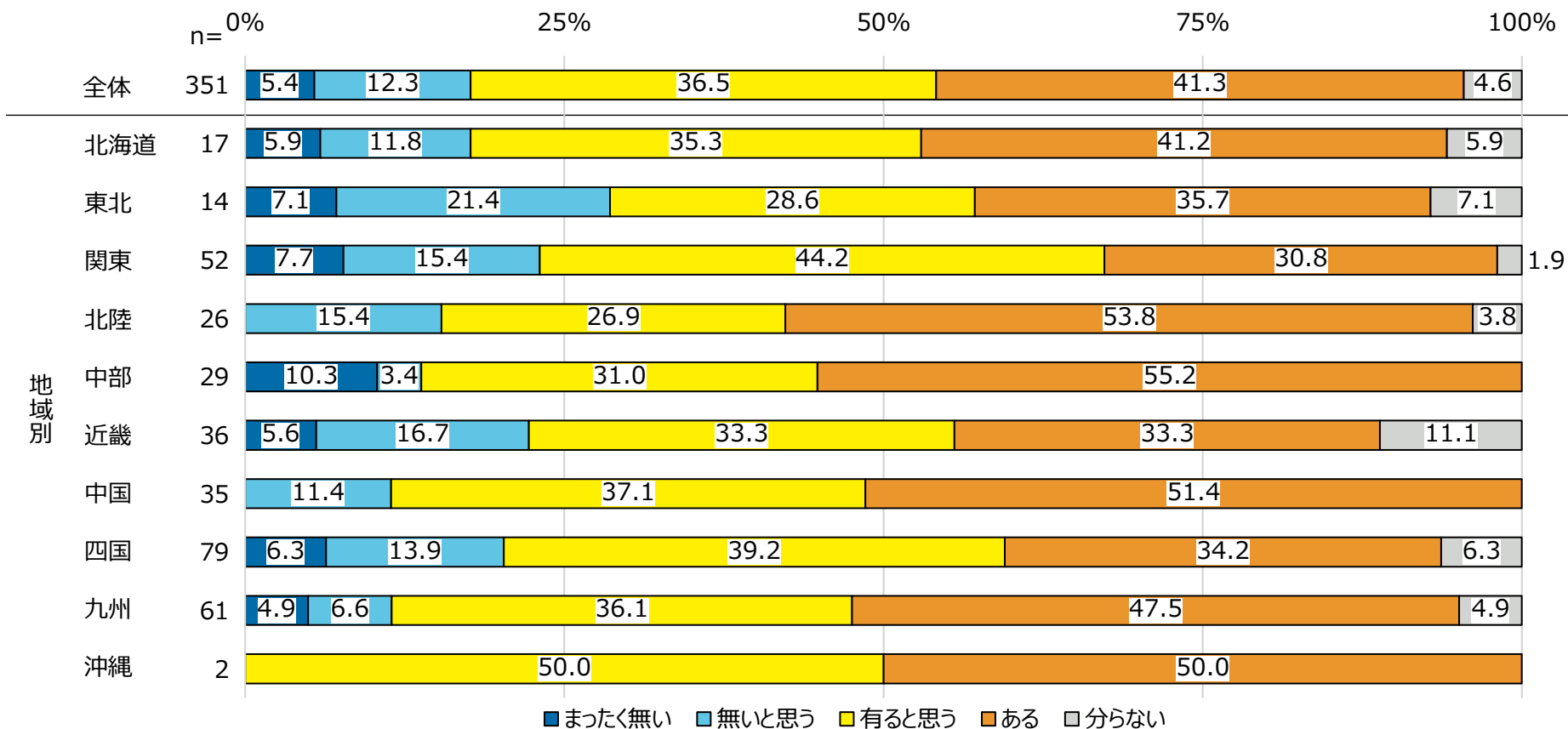
- ・ 職種別では、事務的職業で「3年以上」が29.0%と他の職種と比べて高い。管理的職業、研究・技術の職業では「5年以上」が他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「5年以上」が29.2%と他の利用頻度と比べて高い。一方、年に数回以下、月に1回程度では「3年以上」が他の利用頻度と比べて高い。



問6 地理空間情報が、水準点の標高値や数値標高モデルなど標高（高さ）に係る情報が、どのぐらい古いと、使用をためらいますか。

問7 地形図などの地図のうち、明治から平成時代または数年前のものなど、古い内容の地図を使う機会があるか（地域別）

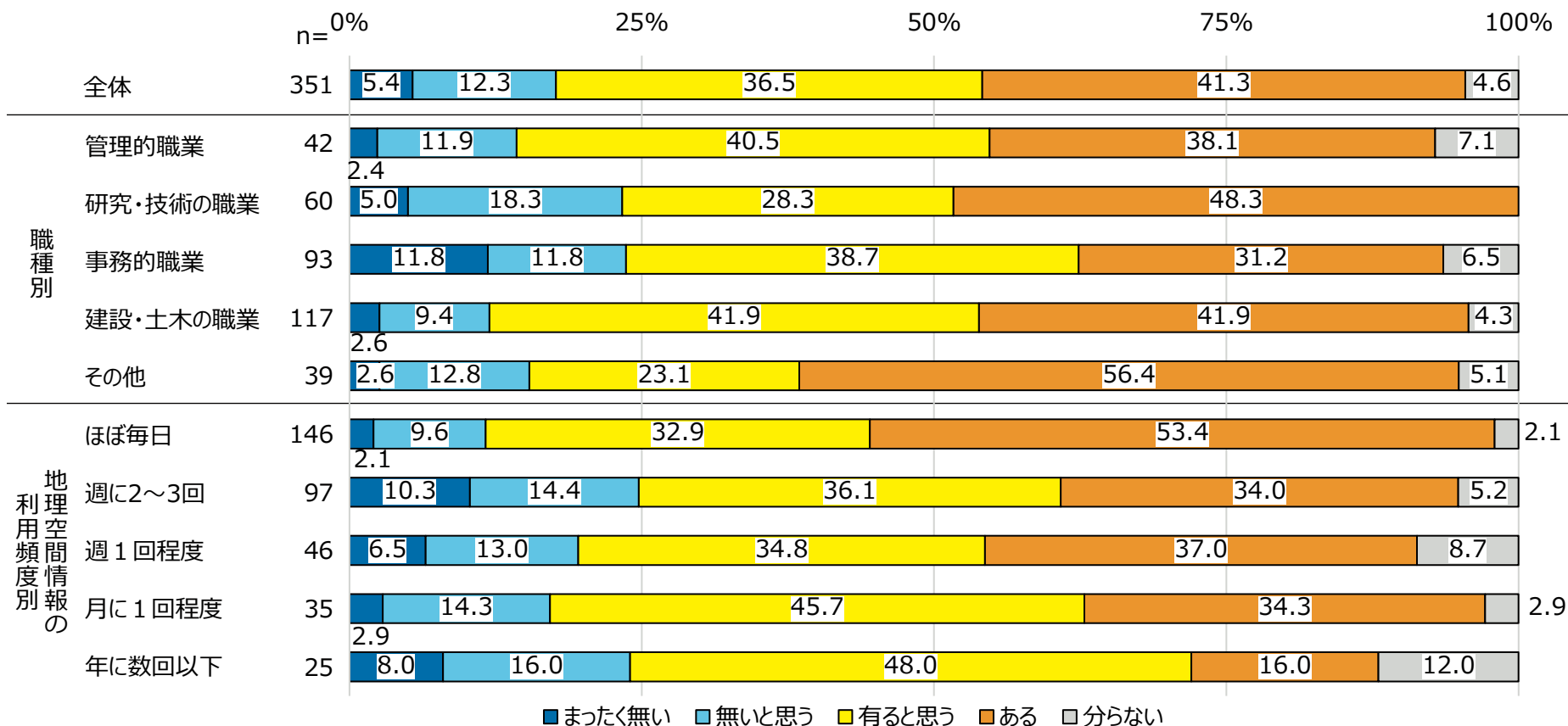
- 全体では、「ある」が41.3%で最も高く、「有ると思う」（36.5%）と合計すると77.8%と8割近い。
- 地域別では、中部、北陸、中国で「ある」が5割を超え、他の地域と比べて高い。一方、関東では「有ると思う」が44.2%と他の地域と比べて高い。



問7 地形図などの地図のうち、明治から平成時代または数年前のものなど、古い内容の地図を使う機会がありますか。

問7 地形図などの地図のうち、明治から平成時代または数年前のものなど、古い内容の地図を使う機会があるか（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

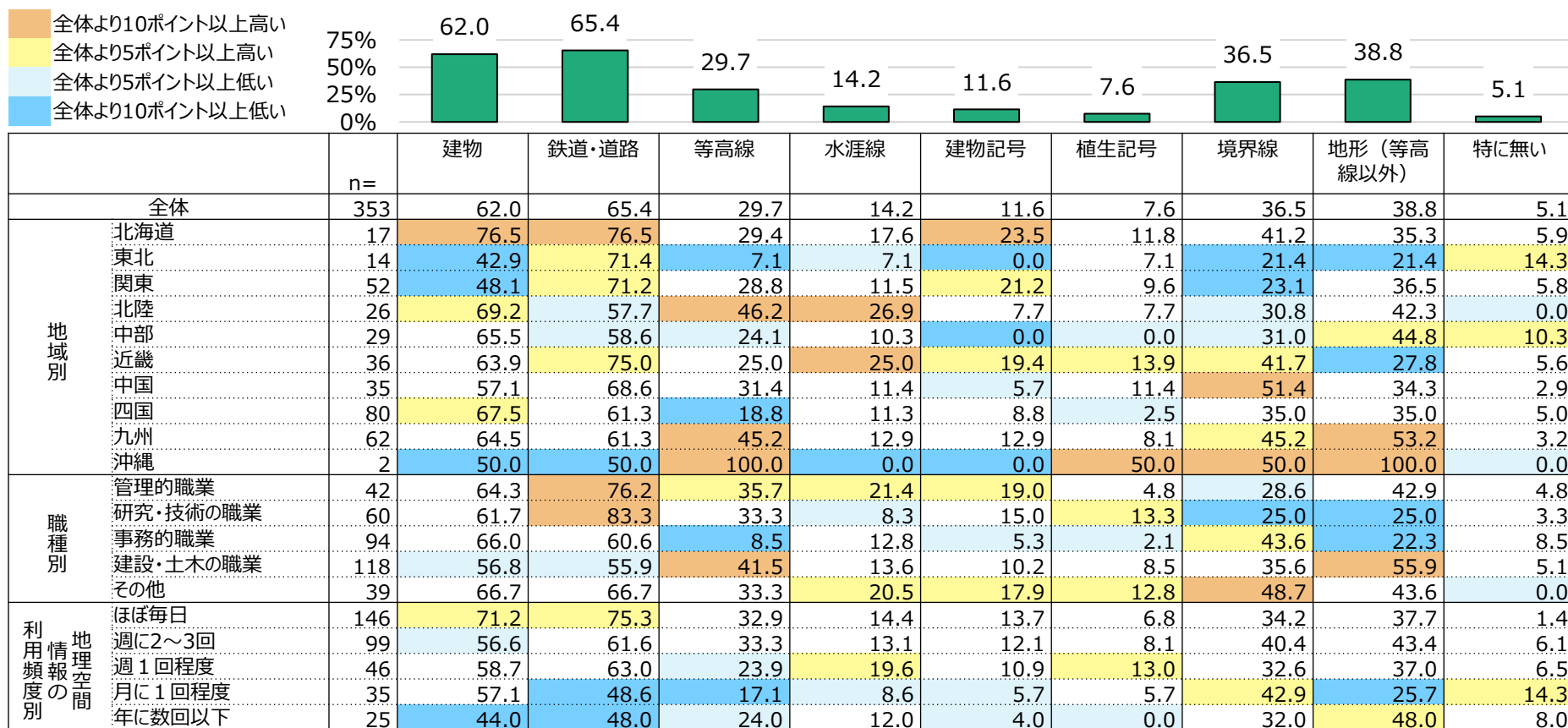
- ・ 職種別では、研究・技術の職業で「ある」が48.3%と他の職種と比べて高い。一方、建設・土木の職業で「有ると思う」が41.9%と他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「ある」が53.4%と他の利用頻度と比べて高い。一方、年に数回以下、月に1回程度では「有ると思う」が45%以上と他の利用頻度と比べて高い。



問7 地形図などの地図のうち、明治から平成時代または数年前のものなど、古い内容の地図を使う機会がありますか。

問 8 地理空間情報のうち、特に高い更新頻度を求める内容

- 全体では、「鉄道・道路」が65.4%で最も高く、次いで「建物」(62.0%)、「地形(等高線以外)」(38.8%)となっている。
- 地域別では、北海道、東北、関東、近畿で「鉄道・道路」が70%を超え高い。
- 職種別では、管理的職業、研究・技術の職業で「鉄道・道路」、建築・土木の職業では「等高線」と「地形(等高線以外)」がそれぞれが全体より10ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「建物」、「鉄道・道路」が全体より5ポイント以上高い。



問 8 地理空間情報のうち、特に高い更新頻度を求める内容は何ですか。選択肢から選んでください。(複数選択可)

問 9 地理空間情報の3次元化を特に望む地域

- 全体では、「都市域」が61.1%と最も高く、次いで「山間地域」（53.7%）、「農耕地」（26.4%）となっている。
- 地域別では、「山間地域」は北陸、中部、「農耕地」は北海道、中部、中国、「沿岸域」は近畿でそれぞれ全体より10ポイント以上高い。「都市域」は中国、九州で全体より5ポイント以上高い。
- 職種別では、研究・技術の職業で「特に無い」以外の項目いずれも全体より5ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、週に2～3回で「山間地域」、「農耕地」が全体より5ポイント以上高い。

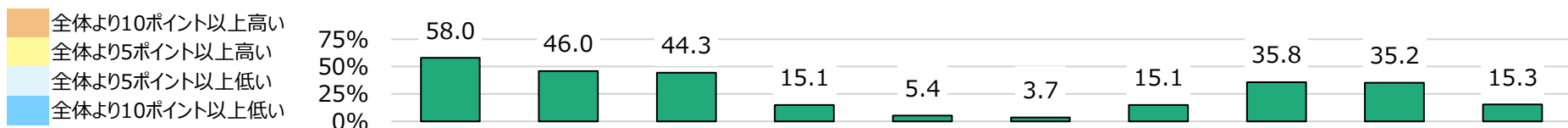


	n=	山間地域	都市域	農耕地	沿岸域	離島	特に無い
全体	352	53.7	61.1	26.4	25.6	8.5	15.9
地域別	北海道	58.8	64.7	41.2	29.4	11.8	17.6
	東北	50.0	57.1	35.7	7.1	0.0	14.3
	関東	53.8	57.7	11.5	23.1	7.7	15.4
	北陸	69.2	65.4	30.8	34.6	7.7	19.2
	中部	72.4	62.1	41.4	24.1	10.3	10.3
	近畿	50.0	63.9	27.8	36.1	11.1	13.9
	中国	54.3	68.6	37.1	28.6	5.7	5.7
	四国	37.5	53.8	18.8	25.0	1.3	28.8
	九州	60.7	67.2	27.9	19.7	16.4	8.2
	沖縄	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0
職種別	管理的職業	54.8	64.3	26.2	26.2	9.5	11.9
	研究・技術の職業	61.7	68.3	31.7	31.7	16.7	13.3
	事務的職業	40.4	52.1	17.0	21.3	4.3	25.5
	建設・土木の職業	58.1	59.0	29.1	24.8	6.0	13.7
	その他	59.0	74.4	33.3	28.2	12.8	7.7
利用頻度別	ほぼ毎日	51.4	64.4	24.0	27.4	11.0	13.0
	週に2～3回	61.6	60.6	33.3	29.3	9.1	17.2
	週1回程度	51.1	60.0	22.2	24.4	4.4	11.1
	月に1回程度	45.7	57.1	25.7	14.3	2.9	28.6
	年に数回以下	52.0	48.0	20.0	16.0	4.0	20.0

問 9 地理空間情報の3次元化を特に望む地域がありますか。選択肢から選んでください。（複数選択可） 参考：「3次元電子国土基本図の整備」については、3次元電子国土基本図の整備（講演資料）をご参照ください。

問10 地理空間情報のうち、3次元化を望む地物

- 全体では、「建物」が58.0%と最も高く、次いで「鉄道・道路」（46.0%）、「等高線等の地形表現」（44.3%）となっている。
- 地域別では、近畿で「鉄道・道路」、「水涯線」、「河川」が全体より10ポイント以上高い。北陸では「等高線等の地形表現」、「地形（等高線以外）」、「河川」が全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、建設・土木の職業で「等高線等の地形表現」、「地形（等高線以外）」が全体より10ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、月に1回程度で「鉄道・道路」が全体より5ポイント以上高い。

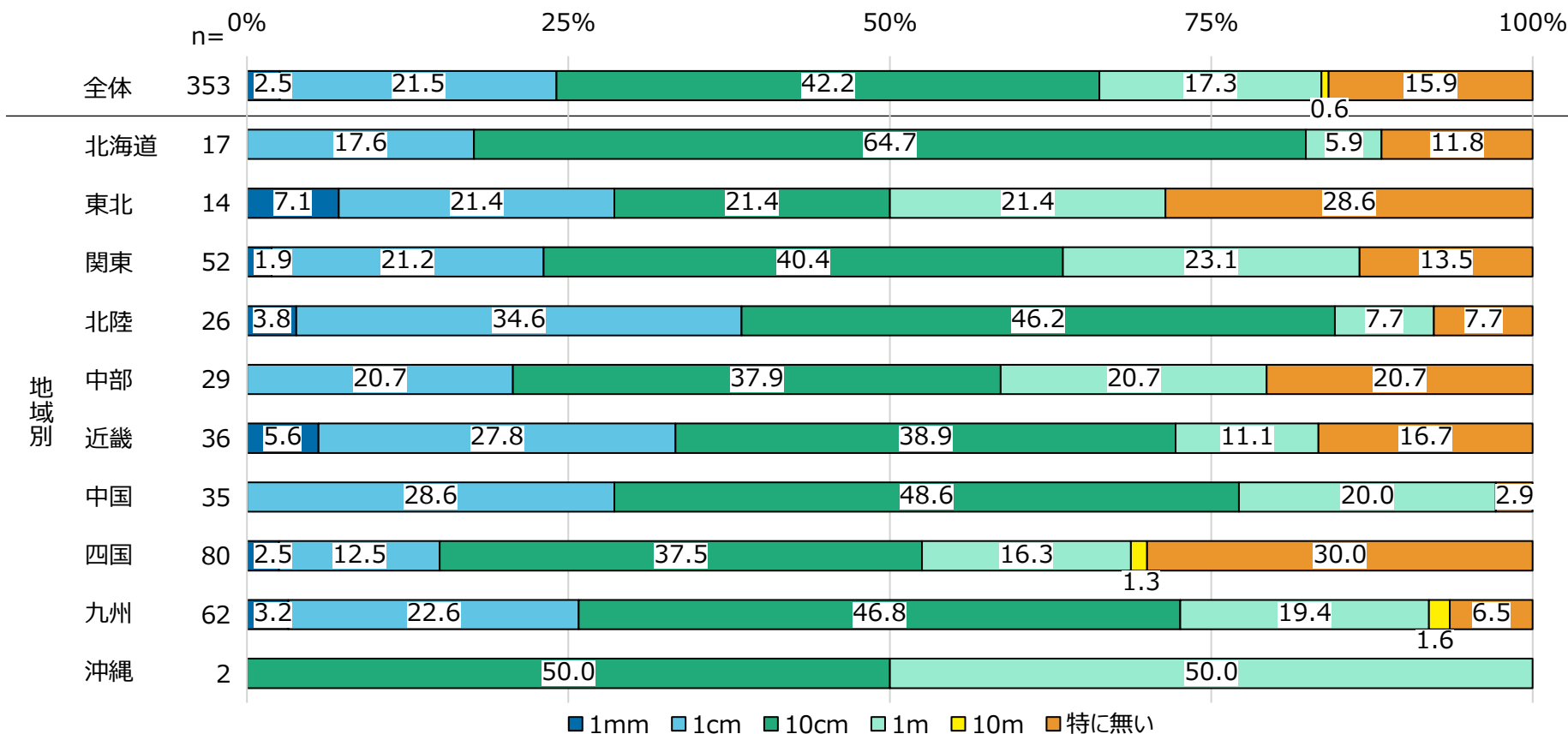


		n=	建物	鉄道・道路	等高線等の 地形表現	水涯線	建物記号	植生記号	境界線	地形（等高 線以外）	河川	特に無い
地域別	全体	352	58.0	46.0	44.3	15.1	5.4	3.7	15.1	35.8	35.2	15.3
	北海道	17	70.6	41.2	35.3	17.6	11.8	5.9	11.8	17.6	29.4	11.8
	東北	13	38.5	46.2	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7	23.1	23.1
	関東	52	53.8	28.8	48.1	13.5	3.8	3.8	9.6	40.4	19.2	19.2
	北陸	26	53.8	38.5	61.5	23.1	7.7	3.8	19.2	53.8	50.0	7.7
	中部	29	55.2	48.3	44.8	17.2	0.0	0.0	17.2	44.8	27.6	13.8
	近畿	36	55.6	58.3	50.0	30.6	8.3	8.3	22.2	36.1	52.8	13.9
	中国	35	65.7	54.3	48.6	5.7	5.7	5.7	14.3	37.1	42.9	2.9
	四国	80	57.5	43.8	21.3	11.3	3.8	0.0	13.8	30.0	31.3	28.8
	九州	62	64.5	54.8	64.5	14.5	6.5	6.5	14.5	35.5	38.7	6.5
	沖縄	2	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	100.0	0.0
職種別	管理的職業	41	63.4	41.5	48.8	24.4	4.9	2.4	14.6	36.6	39.0	9.8
	研究・技術の職業	60	61.7	48.3	48.3	13.3	6.7	8.3	6.7	31.7	25.0	18.3
	事務的職業	94	59.6	39.4	21.3	12.8	4.3	1.1	14.9	18.1	27.7	27.7
	建設・土木の職業	118	50.8	50.0	55.9	13.6	4.2	1.7	16.9	48.3	42.4	8.5
	その他	39	64.1	51.3	53.8	17.9	10.3	10.3	23.1	46.2	43.6	7.7
利用頻度別	ほぼ毎日	145	64.1	50.3	49.0	17.2	4.1	3.4	11.0	39.3	35.2	13.1
	週に2～3回	99	54.5	41.4	46.5	13.1	6.1	5.1	15.2	33.3	36.4	16.2
	週1回程度	46	52.2	37.0	41.3	13.0	6.5	2.2	13.0	37.0	37.0	13.0
	月に1回程度	35	54.3	51.4	37.1	14.3	5.7	2.9	28.6	34.3	34.3	20.0
	年に数回以下	25	52.0	48.0	20.0	12.0	4.0	0.0	20.0	28.0	28.0	24.0

問10 地理空間情報のうち、3次元化を望む地物がありますか。選択肢から選んでください。（複数選択可） 参考：「3次元電子国土基本図の整備」については、3次元電子国土基本図の整備（講演資料）をご参照ください。

問11 地理空間情報の3次元化に望む高さ方向の精度（地域別）

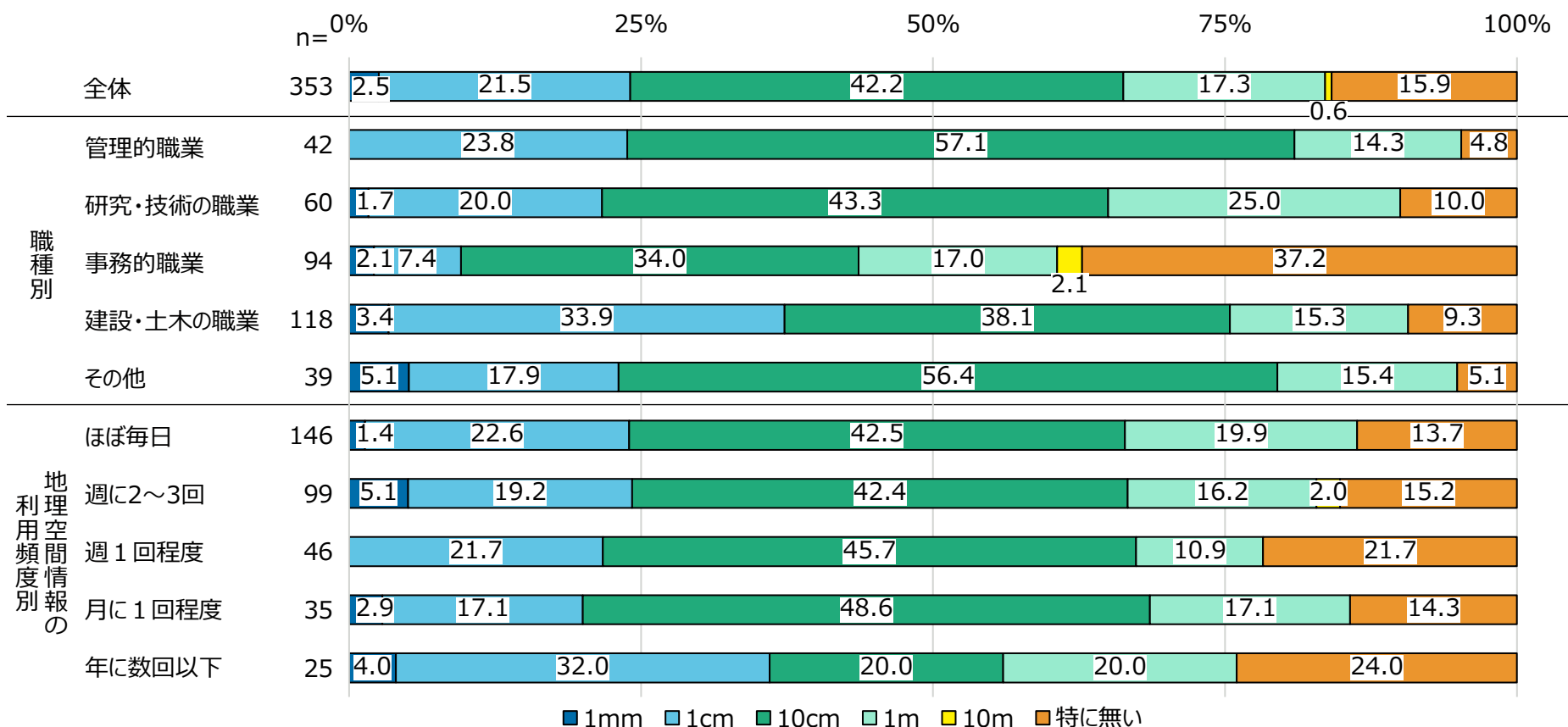
- 全体では、「10cm」が42.2%と最も高く、次いで「1cm」（21.5%）、「1m」（17.3%）と続く。
- 地域別では、北海道で「10cm」が64.7%と他の地域と比べて高い。一方、北陸では「1cm」が34.6%と他の地域と比べて高い。「1m」は東北、関東、中部で他の地域と比べて高い。



問11 地理空間情報の3次元化に望む高さ方向の精度は、どのぐらいですか。参考：「3次元電子国土基本図の整備」については、3次元電子国土基本図の整備（講演資料）をご参照ください。（地域別）

問11 地理空間情報の3次元化に望む高さ方向の精度（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

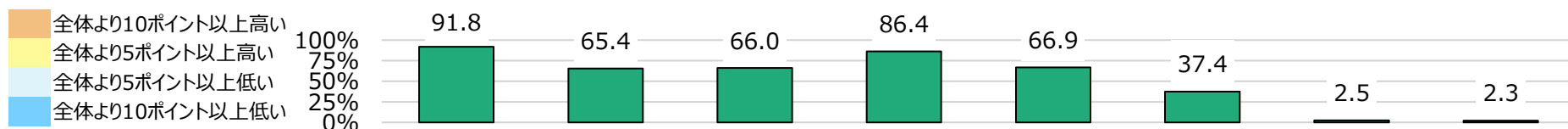
- ・ 職種別では、管理的職業で「10cm」が57.1%と他の職種と比べて高い。一方、建設・土木の職業では「1cm」が33.9%で他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、年に数回以下以外で「10cm」が4割を超えている。



問11 地理空間情報の3次元化に望む高さ方向の精度は、どのぐらいですか。 参考：「3次元電子国土基本図の整備」については、3次元電子国土基本図の整備（講演資料）をご参照ください。

問12 国土地理院が提供している地図等についてご存じのもの

- 全体では、「地理院地図（ウェブ地図）」が91.8%と最も高く、次いで「空中写真（航空写真）」（86.4%）、「地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）」（66.9%）となっている。
- 地域別では、北陸で「基盤地図情報」、「電子地形図（25000、50000）」、「空中写真（航空写真）」、「地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）」が全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、管理的職業、研究・技術の職業で「基盤地図情報」、「電子地形図（25000、50000）」、「地形図・地勢図（1万分の1、2万5千分の1、5万分の1、20万分の1）」、「主題図（火山、地震、水害）」が全体より10ポイント以上高い。

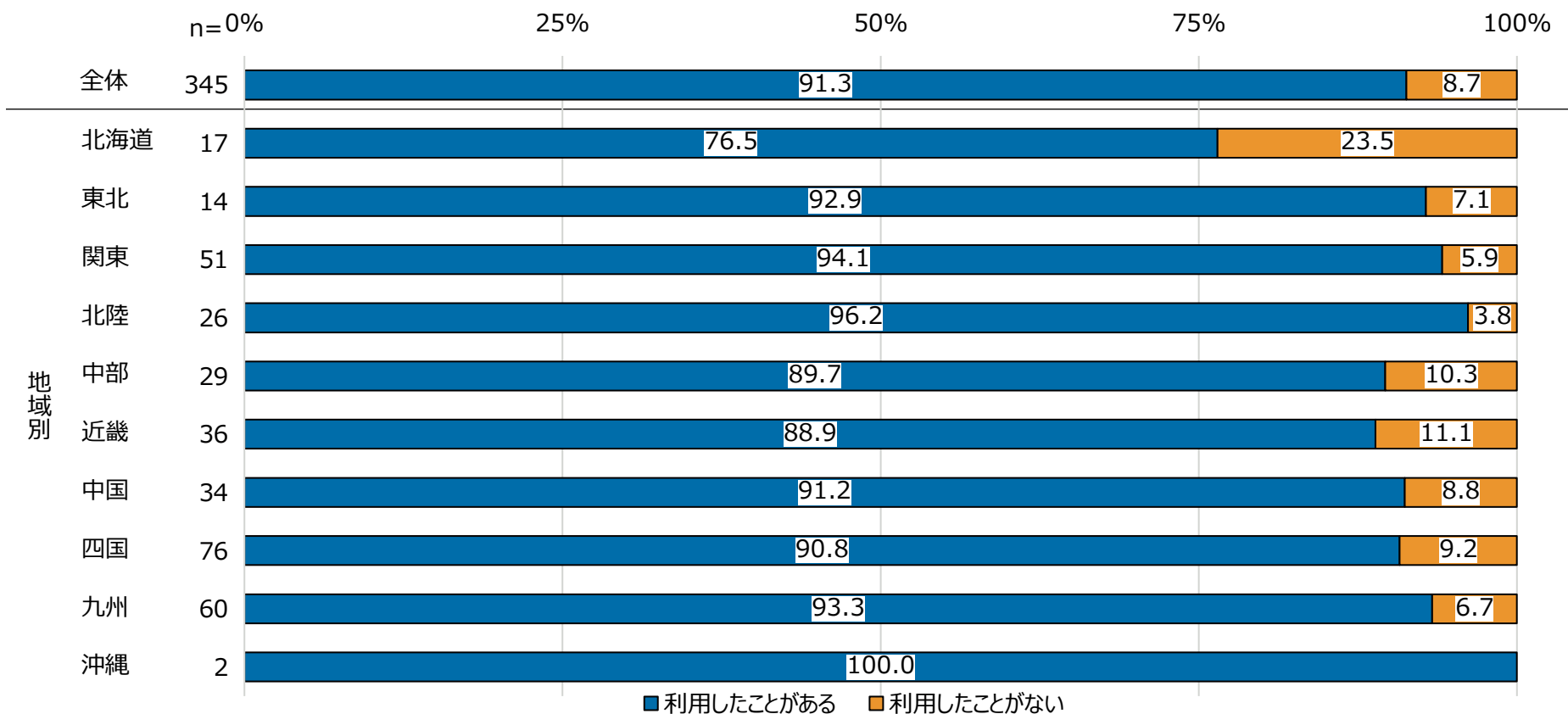


		n=	地理院地図 (ウェブ地図)	基盤地図情報	電子地形図 (25000、 50000)	空中写真 (航空写真)	地形図・地勢図 (1万分1、2万5 千分1、5万分1、 20万分1)	主題図（火山、 地震、水害）	その他	知らない
地域別	全体	353	91.8	65.4	66.0	86.4	66.9	37.4	2.5	2.3
	北海道	17	94.1	70.6	64.7	88.2	64.7	58.8	5.9	0.0
	東北	14	100.0	64.3	57.1	92.9	71.4	21.4	7.1	0.0
	関東	52	96.2	71.2	73.1	94.2	76.9	59.6	0.0	1.9
	北陸	26	100.0	84.6	80.8	100.0	88.5	46.2	0.0	0.0
	中部	29	82.8	72.4	75.9	82.8	65.5	31.0	0.0	0.0
	近畿	36	97.2	58.3	61.1	80.6	58.3	52.8	5.6	0.0
	中国	35	94.3	71.4	74.3	97.1	74.3	37.1	2.9	2.9
	四国	80	91.3	50.0	48.8	82.5	50.0	21.3	2.5	5.0
	九州	62	82.3	69.4	72.6	75.8	71.0	27.4	3.2	3.2
職種別	沖縄	2	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	管理的職業	42	92.9	81.0	83.3	92.9	81.0	57.1	4.8	0.0
	研究・技術の職業	60	95.0	88.3	80.0	93.3	83.3	71.7	3.3	0.0
	事務的職業	94	85.1	36.2	36.2	72.3	42.6	11.7	2.1	7.4
	建設・土木の職業	118	93.2	66.1	72.0	89.0	66.9	28.8	1.7	0.8
	その他	39	97.4	82.1	79.5	94.9	84.6	51.3	2.6	0.0
利用頻度の別	ほぼ毎日	146	97.3	82.9	77.4	93.2	76.7	54.8	4.1	1.4
	週に2～3回	99	91.9	63.6	64.6	85.9	66.7	35.4	2.0	2.0
	週1回程度	46	80.4	54.3	56.5	76.1	52.2	19.6	0.0	6.5
	月に1回程度	35	91.4	37.1	42.9	88.6	54.3	11.4	2.9	0.0
	年に数回以下	25	80.0	28.0	52.0	64.0	52.0	8.0	0.0	4.0

問12 国土地理院が提供している地図等についてご存じのものがあれば、すべて選んでください。（複数選択可）「その他」を選択した場合はご存じの地図等を具体的にお書きください。

問12-1 国土地理院が提供している地図等を利用したことがあるか（地域別）

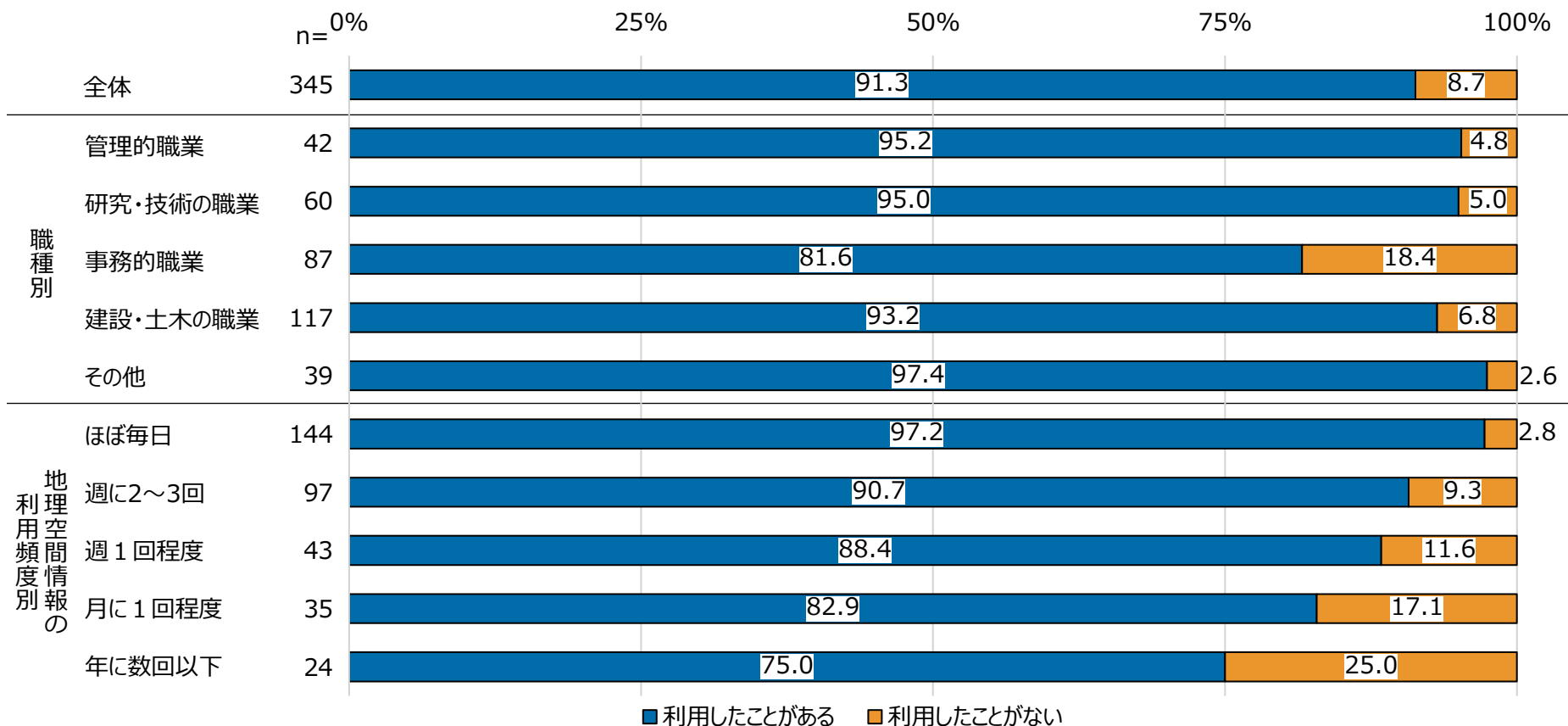
- 全体では、「利用したことがある」が91.3%と9割を超えている。
- 地域別では、北陸で「利用したことがある」が96.2%と他の地域と比べて高い。一方、北海道で「利用したことがある」が76.5%と他の地域と比べて低いが、いずれの地域においても利用経験がある割合が7割を超える。



問12-1 国土地理院が提供している地図等を利用したことがありますか。

問12-1 国土地理院が提供している地図等を利用したことがあるか (職種別／地理空間情報の利用頻度別)

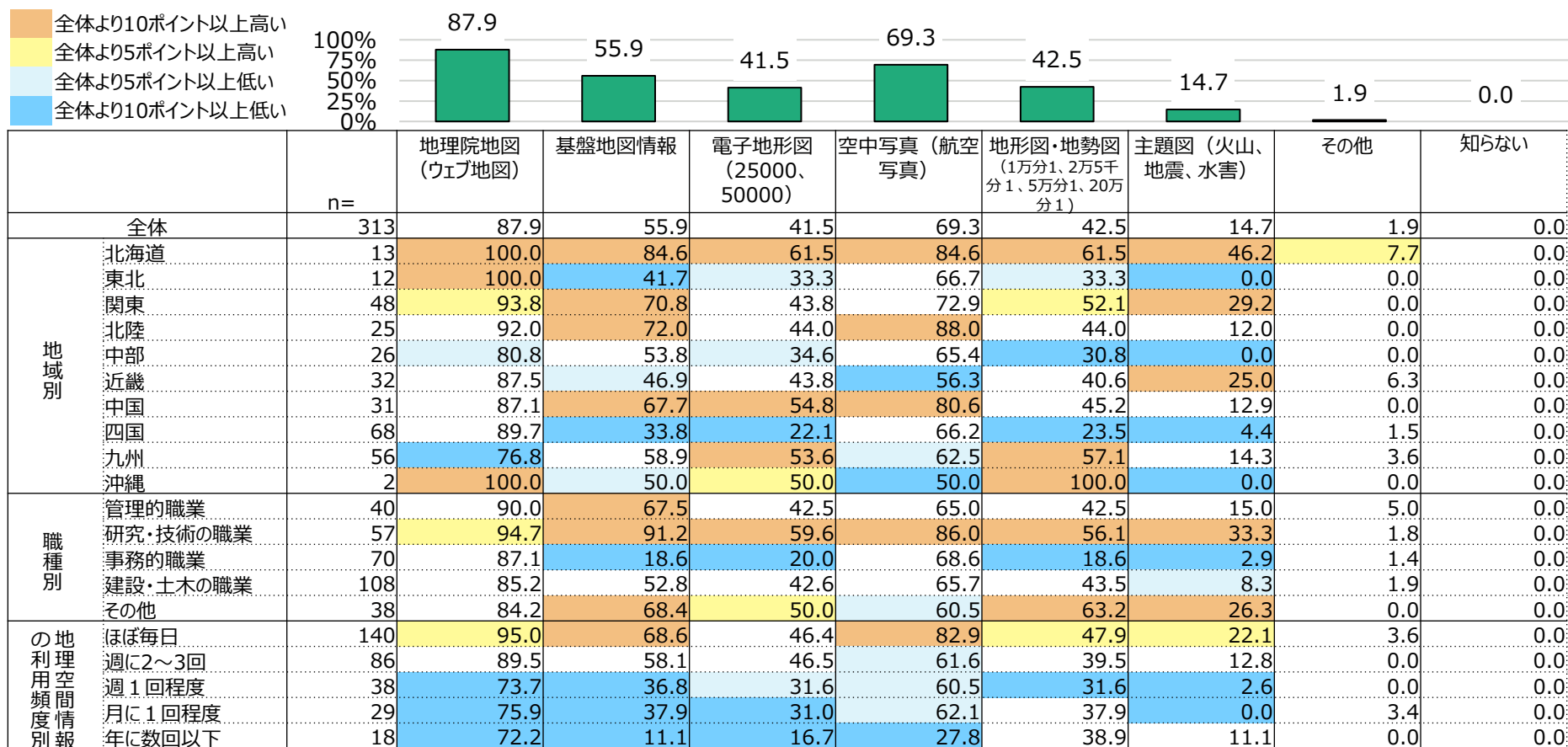
- ・ 職種別では、管理的職業、研究・技術の職業で「利用したことがある」が約95%と他の職種と比べて高い。一方、事務的職業では「利用したことがある」が81.6%と他の職種と比べて低い。職種によらず8割以上が利用経験がある。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、利用頻度が高くなるにつれて「利用したことがある」の割合も高くなっている。



問12-1 国土地理院が提供している地図等を利用したことがありますか。

問12-2 利用したことがある地図等

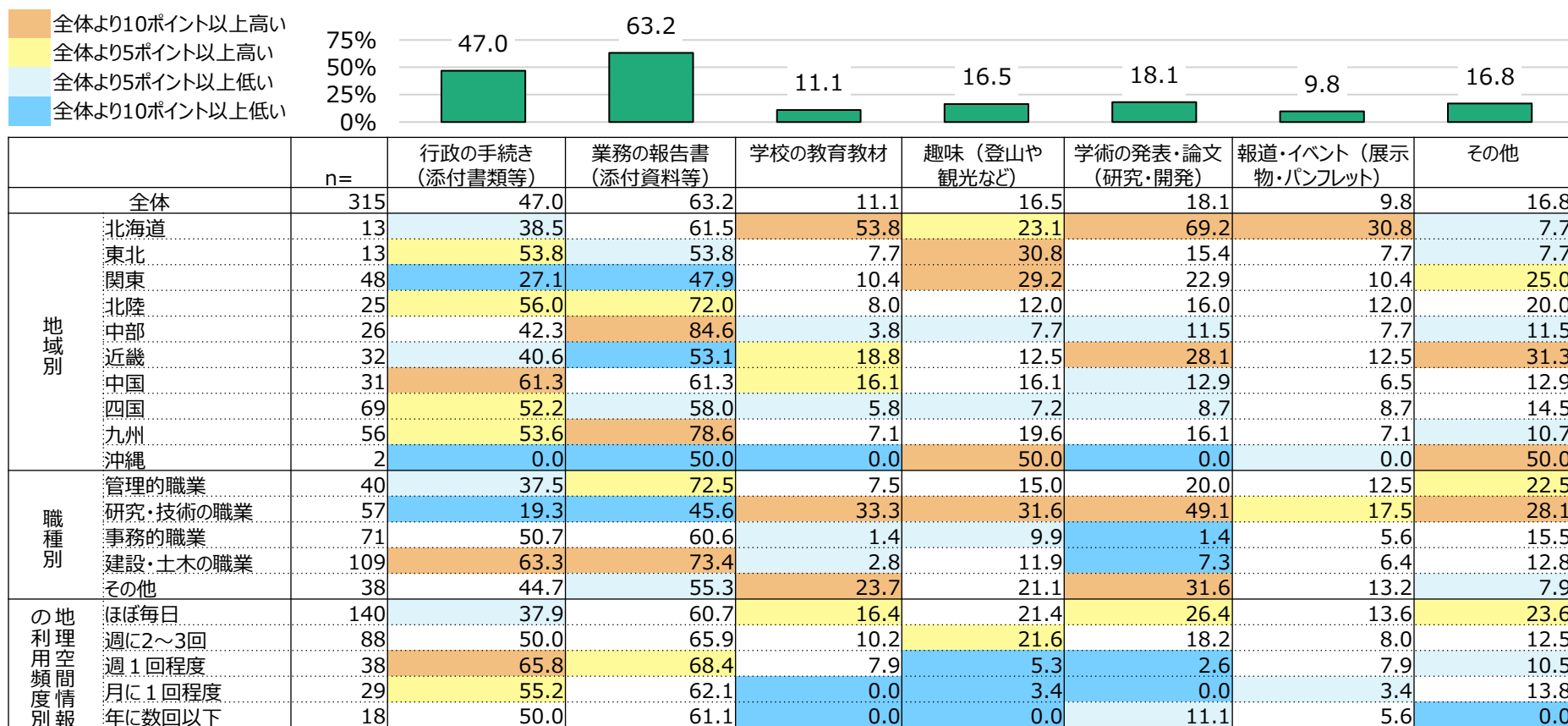
- 全体では、「地理院地図（ウェブ地図）」が87.9%と最も高く、次いで「空中写真（航空写真）」（69.3%）、「基盤地図情報」（55.9%）と続く。
- 地域別では、北海道で「その他」を除くすべての項目で全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、研究・技術の職業で「地理院地図（ウェブ地図）」、「その他」を除くすべての項目で全体より10ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「基盤地図情報」、「空中写真（航空写真）」で全体より10ポイント以上高い。



問12-2 利用したことがある地図等を選んでください。（複数選択可）「その他」を選択した場合は利用した地図等を具体的にお書きください。

問12-3 国土地理院が提供している地図等を利用したことがある場合の利用目的

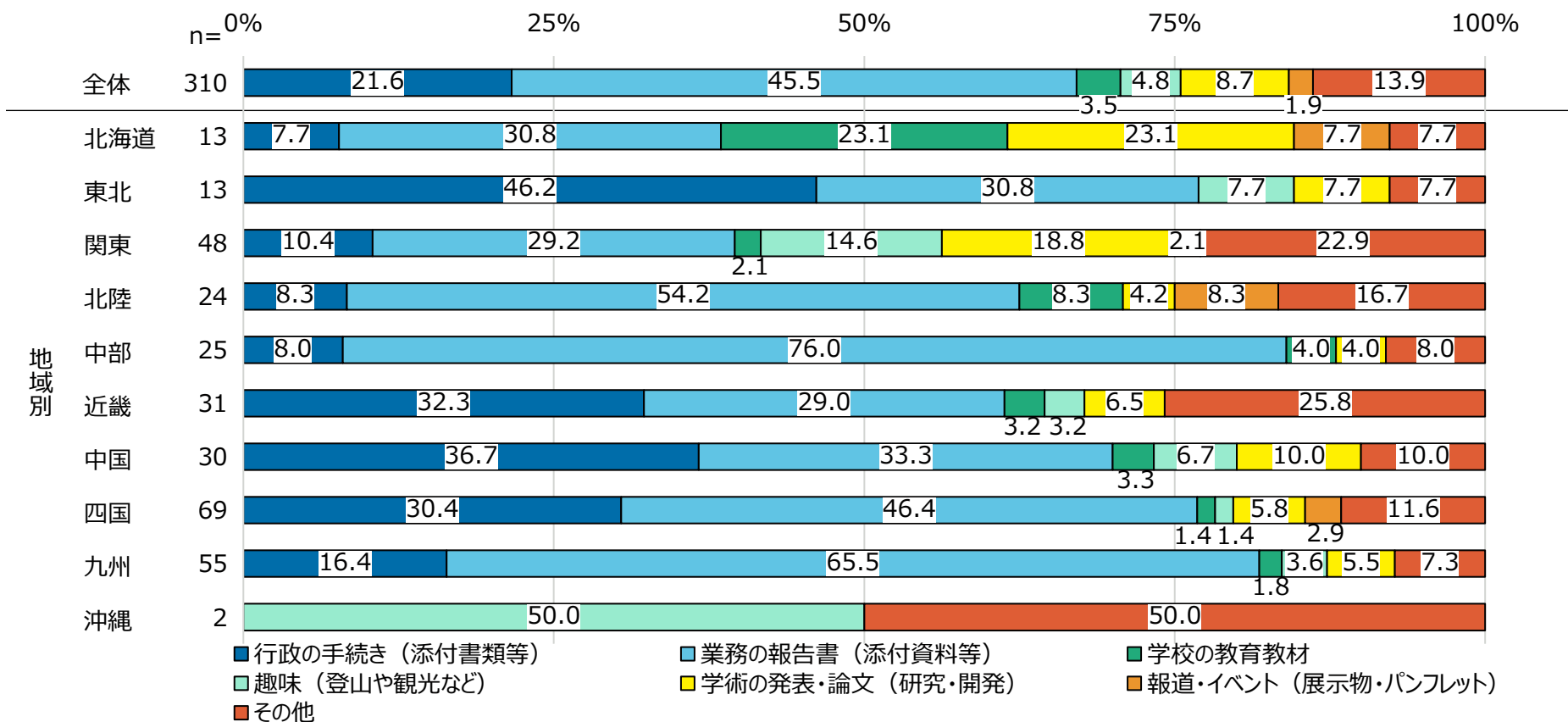
- 全体では、「業務の報告書（添付資料等）」が63.2%と最も高く、次いで「行政の手続き（添付資料等）」（47.0%）、「学術の発表・論文（研究・開発）」（18.1%）となっている。
- 地域別では、中部、九州で「業務の報告書（添付資料等）」が全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、建設・土木の職業で「業務の報告書（添付資料等）」、「行政の手続き（添付資料等）」が全体より10ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、週1回程度で「行政の手続き（添付資料等）」が全体より10ポイント以上高い。



問12-3 国土地理院が提供している地図等を利用したことがある場合、どのような目的で利用しましたか。（複数選択可）「その他」を選択した場合は地図等を利用した内容を具体的にお書きください。

問12-4 国土地理院が提供している地図等の利用目的の内、最も利用する目的（地域別）

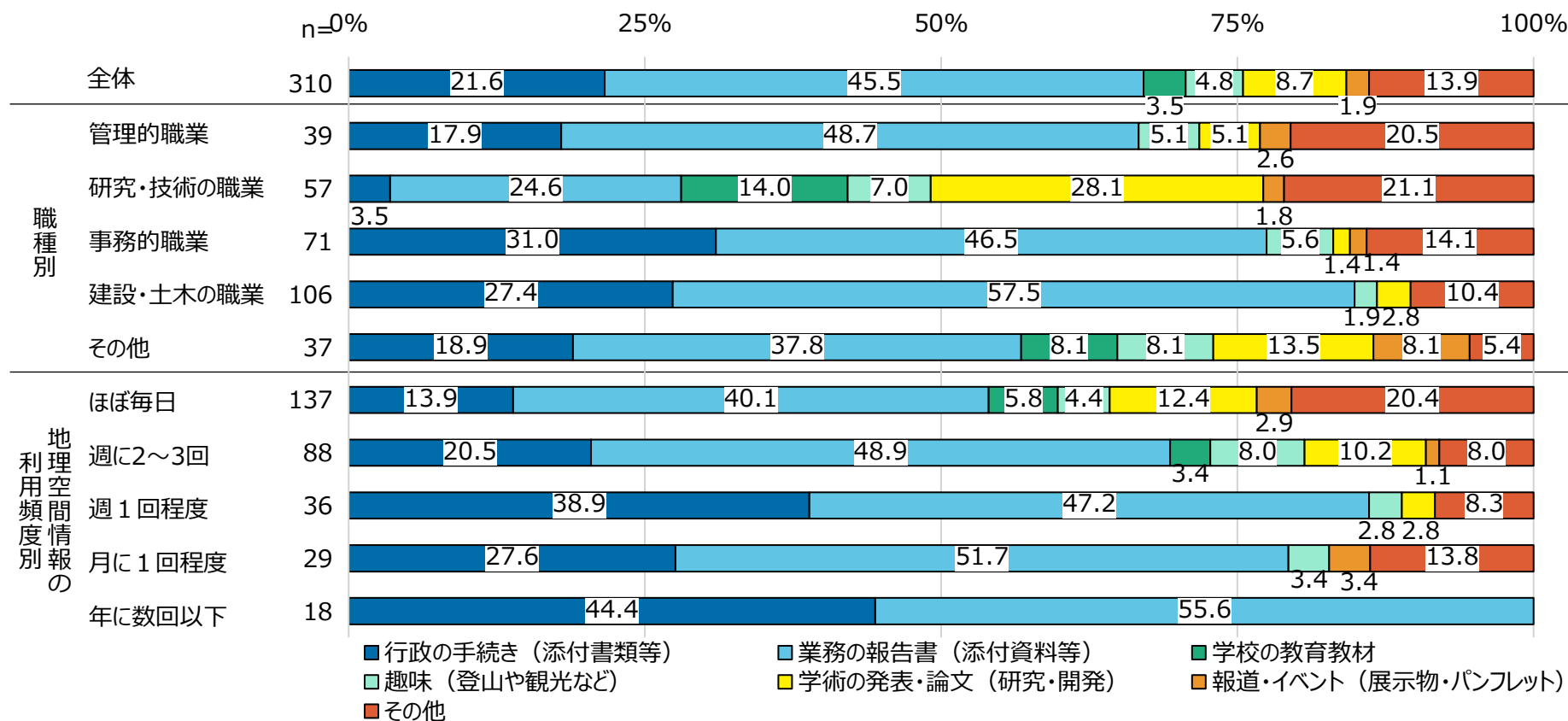
- 全体では、「業務の報告書（添付資料等）」が45.5%と最も高く、次いで「行政の手続き（添付資料等）」（21.6%）、「その他」（13.9%）と続く。
- 地域別では、中部で「業務の報告書（添付資料等）」が76.0%と他の地域と比べて高い。一方、東北、中国、近畿、四国では「行政の手続き（添付資料等）」が3割を超え、他の地域と比べて高い。



問12-4 上記の設問で選択した利用目的の内、最も利用する目的を1つ選んでください。

問12-4 国土地理院が提供している地図等の利用目的の内、最も利用する目的（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

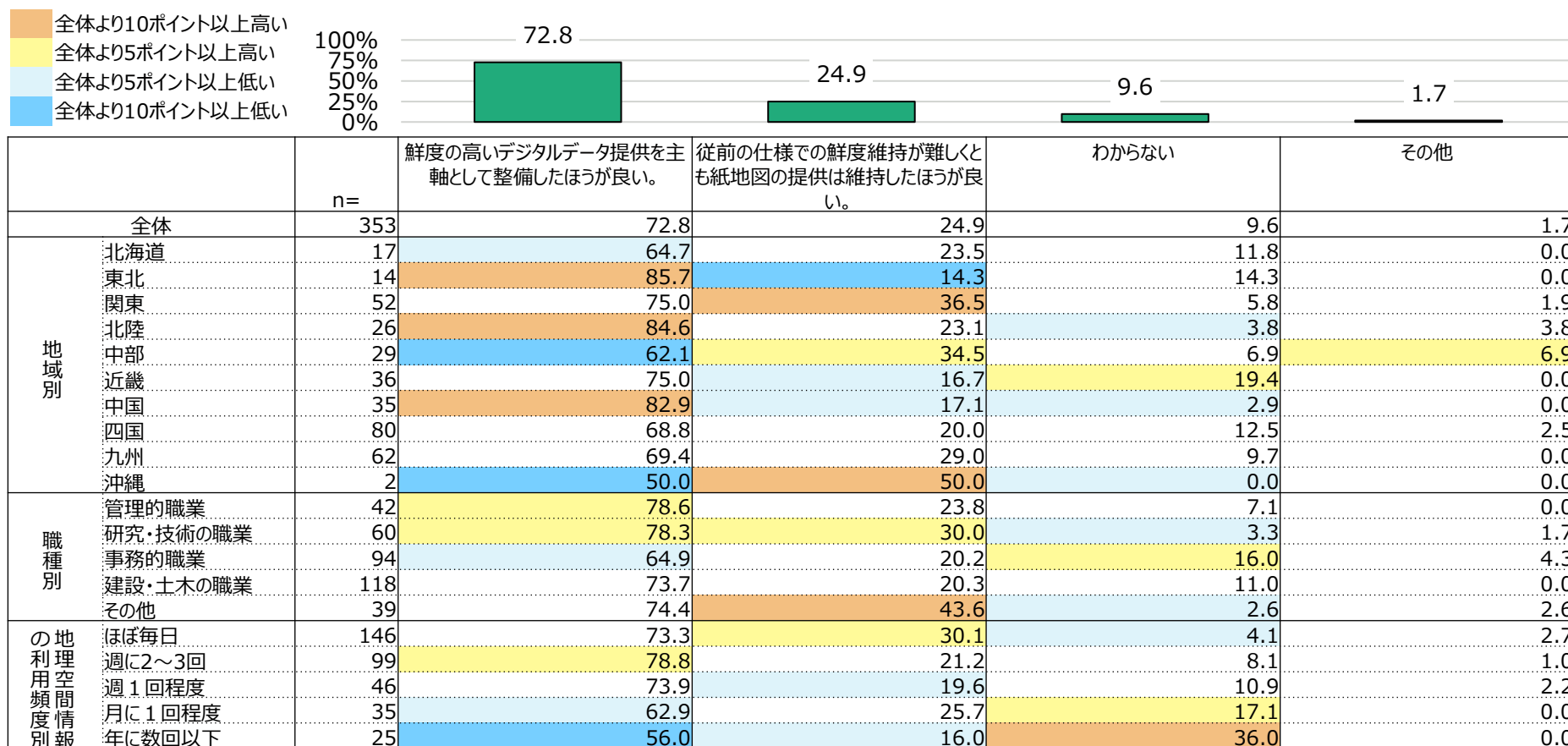
- ・ 職種別では、建設・土木の職業で「業務の報告書（添付資料等）」が57.5%と他の職種と比べて高い。
- ・ 職種別では、研究・技術の職業で「学術の発表・論文（研究・開発）」、「学校の教育教材」が他の職種と比べて突出して高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、利用頻度が下がるにつれて「業務の報告書（添付資料等）」が高くなっている。



問12-4 上記の設問で選択した利用目的の内、最も利用する目的を1つ選んでください。

問13 紙地図の今後の提供についてどのように考えているか

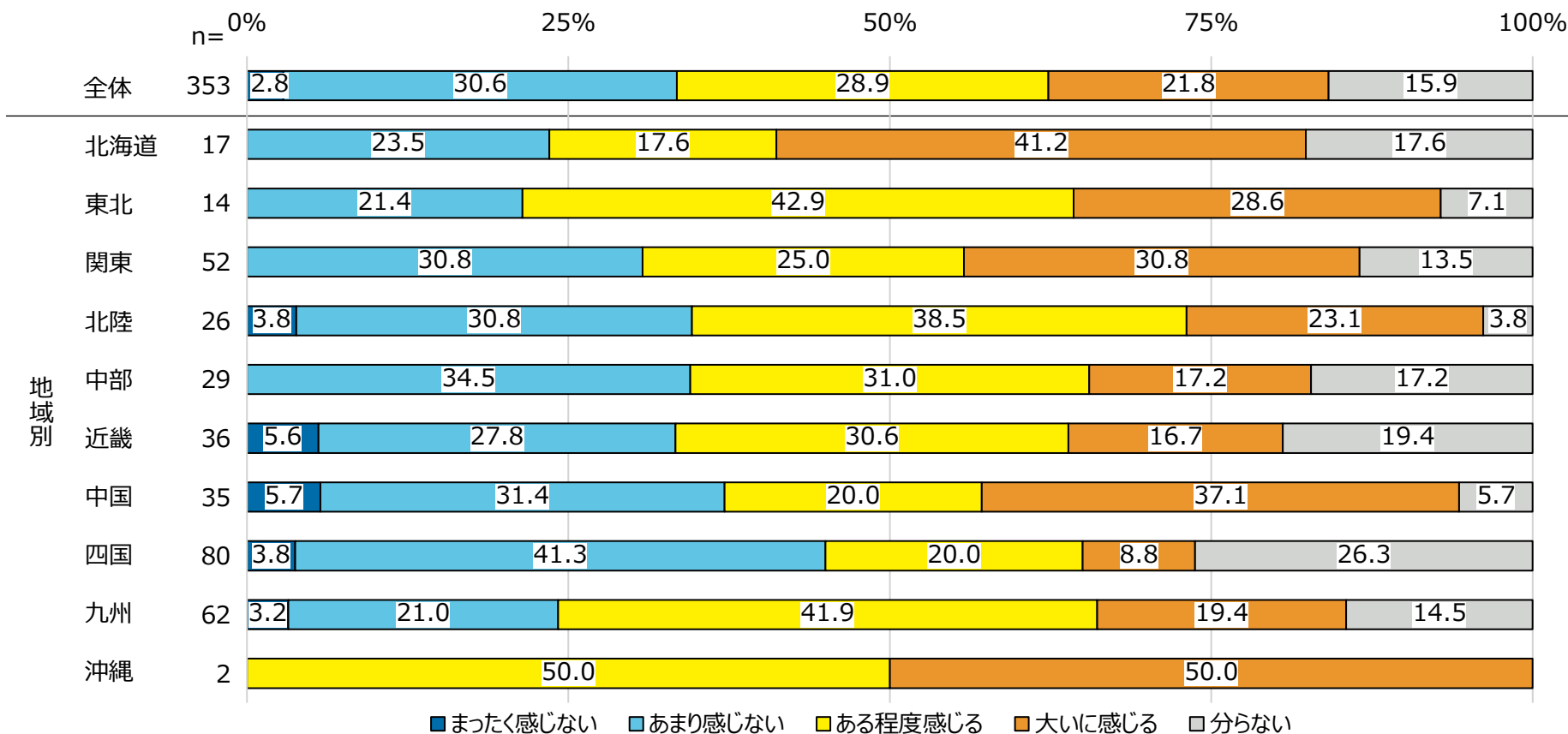
- 全体では、「鮮度の高いデジタルデータ提供を主軸として整備したほうが良い。」が72.8%と最も高く、次いで「従前の仕様での鮮度維持が難しくとも紙地図の提供は維持したほうが良い。」(24.9%)となっている。
- 地域別では、東北、北陸、中国で「鮮度の高いデジタルデータ提供を主軸として整備したほうが良い。」が8割を超え、他の地域と比べて高い。
- 職種別では、事務的職業で「鮮度の高いデジタルデータ提供を主軸として整備したほうが良い。」が64.9%と他の職種と比べて低い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「従前の仕様での鮮度維持が難しくとも紙地図の提供は維持したほうが良い。」が30.1%と他の利用頻度と比べて高い。



問13 ウェブ地図等に比較し、地図情報の鮮度において不利な紙地図の今後の提供についてどのようにお考えになりますか。(複数選択可)「その他」を選択した場合は具体的にお書きください。

問14 社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるか【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】（地域別）

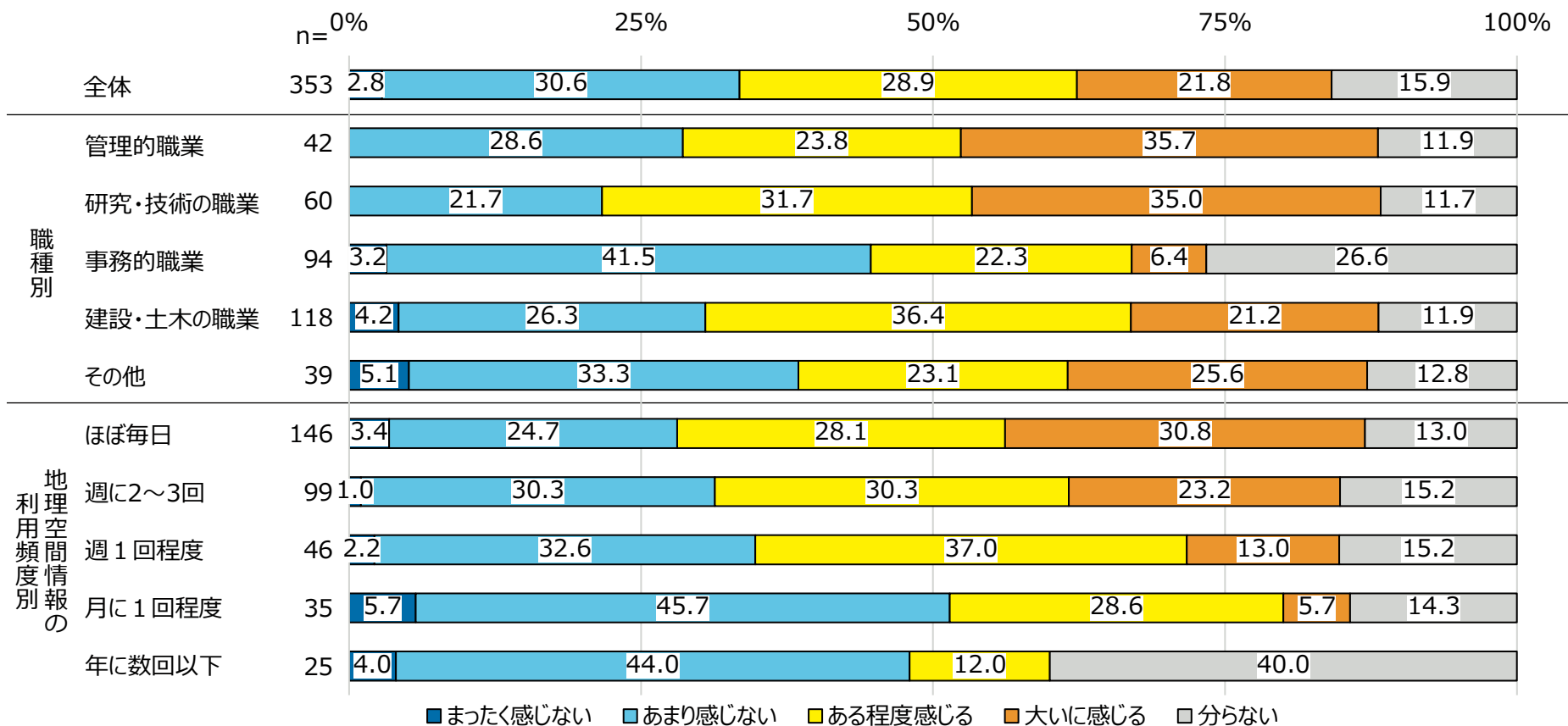
- 全体では、「あまり感じない」が30.6%と最も高く、次いで「ある程度感じる」（28.9%）、「大いに感じる」（21.8%）と続く。「まったく感じない」と「あまり感じない」を合計した“感じない”が33.4%であるのに対し、「ある程度感じる」と「大いに感じる」を合計した“感じる”は50.7%となっており、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じる割合の方が高い。
- 地域別では、四国で“感じない”が45.1%と4割を超え、他の地域と比べて高い。一方、東北、北陸では“感じる”が6割を超え、他の地域と比べて高い。



問14 スマート農業におけるロボットトラクターやドローンの活用、自動配送ロボットや空飛ぶクルマの運航など、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じますか。【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】

問14 社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるか【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

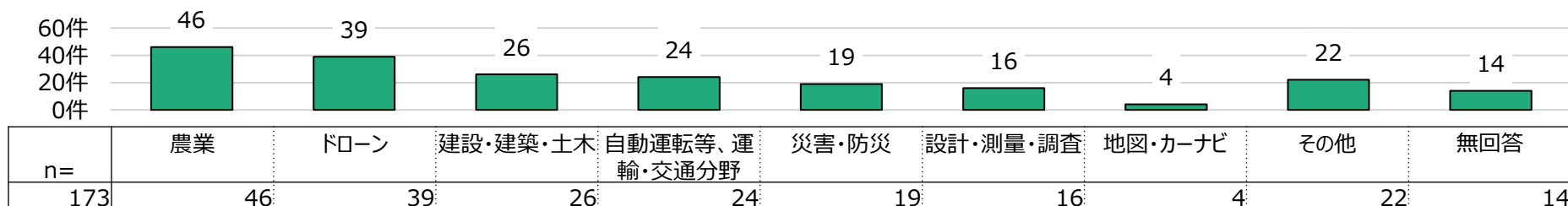
- ・ 職種別では、事務的職業で“感じない”が44.7%と4割を超え、他の職種と比べて高い。一方、研究・技術の職業では“感じる”が66.7%と他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、利用頻度が少ないほど“感じない”の割合が高くなる傾向がみられる。ほぼ毎日では「大いに感じる」が30.8%と3割を超え、他の職種と比べて高い。



問14 スマート農業におけるロボットトラクターやドローンの活用、自動配送ロボットや空飛ぶクルマの運航など、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じますか。【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】

問14-1① どの分野で、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるようになったか

- どの分野で、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるようになったかについて、自由回答で回答されたものを分類すると、「農業」が46件で最も多く、次いで、「ドローン」(39件)、「建設・建築・土木」(26件)、「自動運転等、運輸・交通分野」(24件) などとなっている。



分類	自由記述（原文のまま抜粋）
農業	- 農業農村整備 - スマート農業 - 大規模農業
ドローン	- ドローンの活用 - ドローンの衝突防止技術 - 遠隔地へのドローンを使用した物資輸送
建設・建築・土木	- 土木設計 - 建設分野 - 土木工事の I C T 施工
自動運転等、運輸・交通分野	- 車の自動運転 - 交通 - 自動配達ロボット

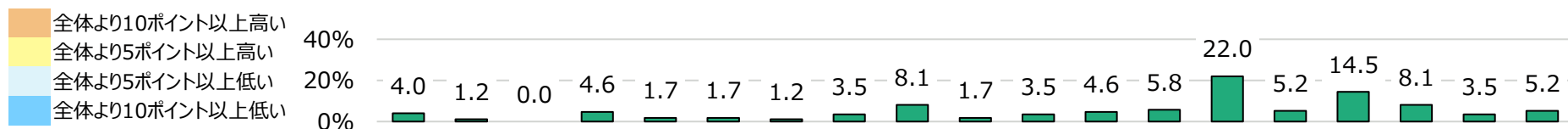
分類	自由記述（原文のまま抜粋）
災害・防災	- 防災分野 - 令和6年能登半島地震におけるISUTの利用など、防災におけるGISの活用が進んでいると感じる。 - 大規模災害査定
設計・測量・調査	- 測量分野 - 測量業務で三次元点群測量を行うようになってから - 設計・測量分野
地図・カーナビ	- カーナビ、スマートフォン - 行政が管理している地図
その他	- 都市計画、交通計画 - 港湾、森林、河川、道路 - バーチャルシティなど - 地理情報科学の教育研究分野

※複数の分類に該当する回答はそれぞれの分類に振り分けているため、各分類の回答数の合計が全体の回答数を上回っている。

問14-1①分野 上記の問いに感じると回答された方にお聞きます。おおよそ感じるようになったのは、どの分野で何年頃からですか。西暦でお答えください。

問14－1② 何年頃から、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるようになったか

- 全体では、「2020年」が22.0%で最も高く、次いで「2022年」（14.5%）、「2015年」、「2023年」（8.1%）となっている。
- 地域別では中国で「2020年」が他の地域と比べて高い。
- 職種別では事務的職業で「2023年」が全体と比べ10ポイント以上高い。

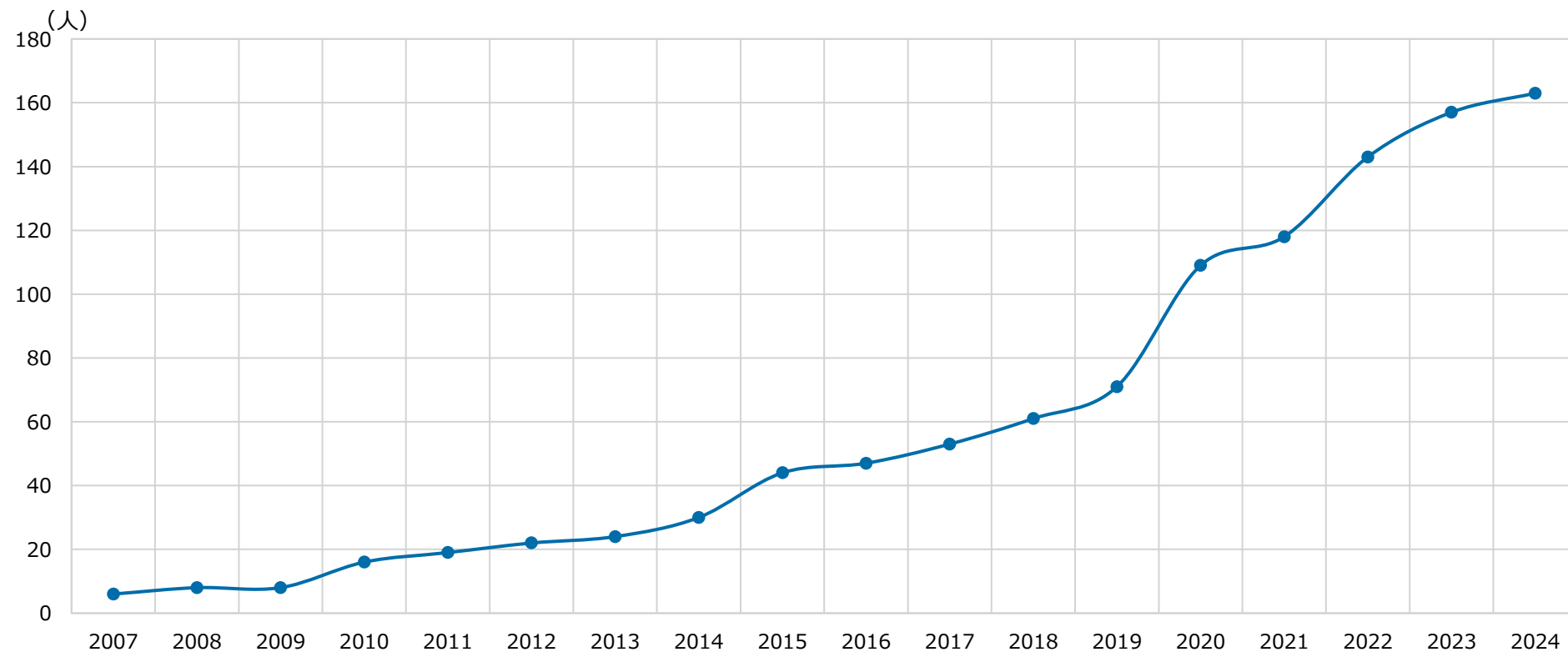


	n=	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	わからない
全体	173	4.0	1.2	0.0	4.6	1.7	1.7	1.2	3.5	8.1	1.7	3.5	4.6	5.8	22.0	5.2	14.5	8.1	3.5	5.2
地域別																				
北海道	10	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
東北	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
関東	27	3.7	0.0	0.0	7.4	7.4	3.7	3.7	3.7	7.4	0.0	3.7	3.7	0.0	14.8	3.7	7.4	7.4	3.7	18.5
北陸	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	26.7	6.7	20.0	13.3	6.7	0.0
中部	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	28.6	7.1	21.4	21.4	0.0	0.0
近畿	17	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	5.9	5.9	0.0	11.8	11.8	0.0	5.9	23.5	5.9	0.0
中国	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	55.0	0.0	10.0	0.0	10.0	5.0
四国	22	4.5	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0	9.1	0.0	22.7	4.5	31.8	0.0	4.5	0.0
九州	37	8.1	0.0	0.0	8.1	0.0	2.7	0.0	2.7	10.8	0.0	2.7	2.7	13.5	13.5	10.8	13.5	8.1	0.0	2.7
沖縄	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
職種別																				
管理的職業	25	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	12.0	0.0	24.0	8.0	16.0	8.0	4.0	8.0
研究・技術の職業	36	5.6	0.0	0.0	11.1	2.8	0.0	0.0	8.3	5.6	5.6	5.6	2.8	8.3	22.2	0.0	11.1	2.8	0.0	8.3
事務的職業	25	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	28.0	4.0	16.0	24.0	8.0	0.0
建設・土木の職業	68	4.4	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	1.5	11.8	1.5	4.4	1.5	8.8	22.1	7.4	16.2	5.9	4.4	4.4
その他	19	0.0	5.3	0.0	5.3	10.5	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	15.8	0.0	10.5	5.3	10.5	5.3	0.0	5.3
地理空間情報利用頻度別																				
ほぼ毎日	84	4.8	1.2	0.0	7.1	2.4	1.2	2.4	3.6	6.0	3.6	1.2	7.1	7.1	22.6	3.6	10.7	7.1	2.4	6.0
週に2～3回	49	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	4.1	0.0	4.1	12.2	0.0	8.2	2.0	6.1	24.5	4.1	16.3	10.2	0.0	4.1
週1回程度	23	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	4.3	13.0	13.0	21.7	8.7	8.7	4.3
月に1回程度	12	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	8.3	16.7	8.3	16.7	0.0
年に数回以下	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

問14－1② 何年頃から 上記の問いに感じると回答された方にお聞きます。おおよそ感じるようになったのは、どの分野で何年頃からですか。西暦でお答えください。

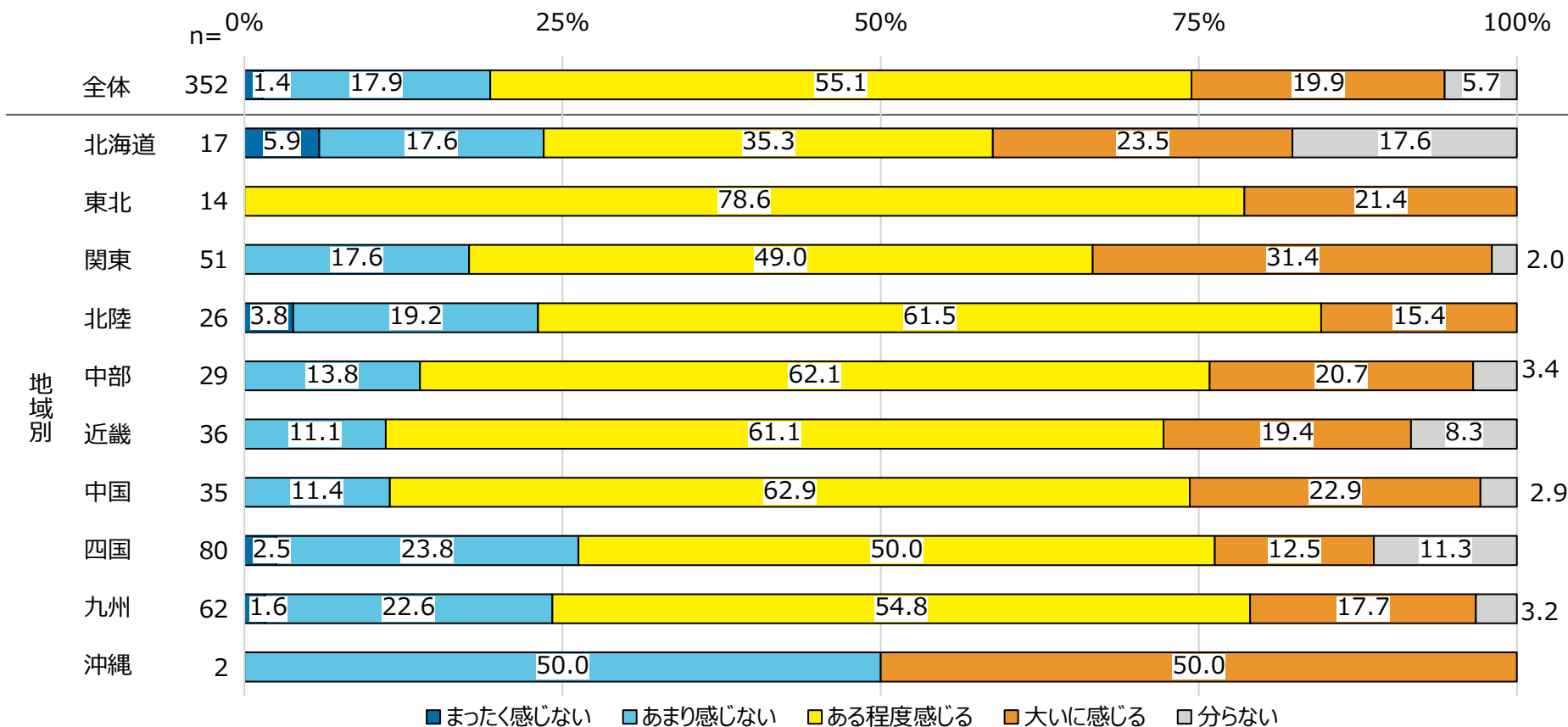
問14－1② 何年頃から、社会の中で地理空間情報が高度に活用されていると感じるようになったか

- 前ページで掲載した、年別の結果を積み上げグラフでまとめると下図のようになる。



問15 精度の高い地図など、必要とする地理空間情報に自由かつ安価にアクセスできると感じるか【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】（地域別）

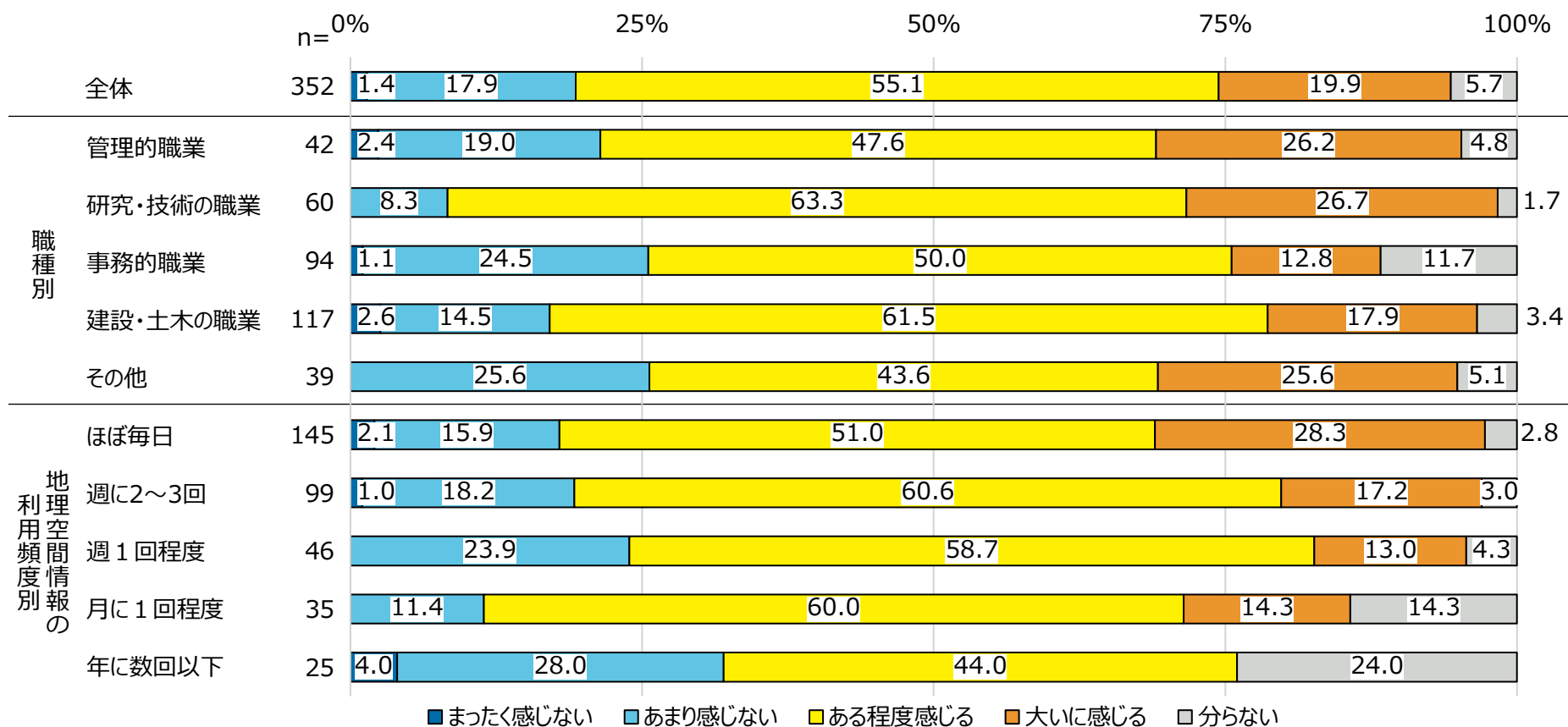
- 全体では、「ある程度感じる」が55.1%と最も高く、次いで「大いに感じる」（19.9%）となっており、合計すると“感じる”が75.0%と7割を超える。一方、「まったく感じない」（1.4%）と「あまり感じない」（17.9%）を合計した“感じない”は19.3%となっている。
- 地域別では、北海道、北陸、四国、九州で“感じない”が2割を超え他の地域と比べて高い。



問15 国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について、あなたが思っていることを教えてください。精度の高い地図など、必要とする地理空間情報に自由かつ安価にアクセスできると感じますか。

問15 精度の高い地図など、必要とする地理空間情報に自由かつ安価にアクセスできると感じるか【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について】（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

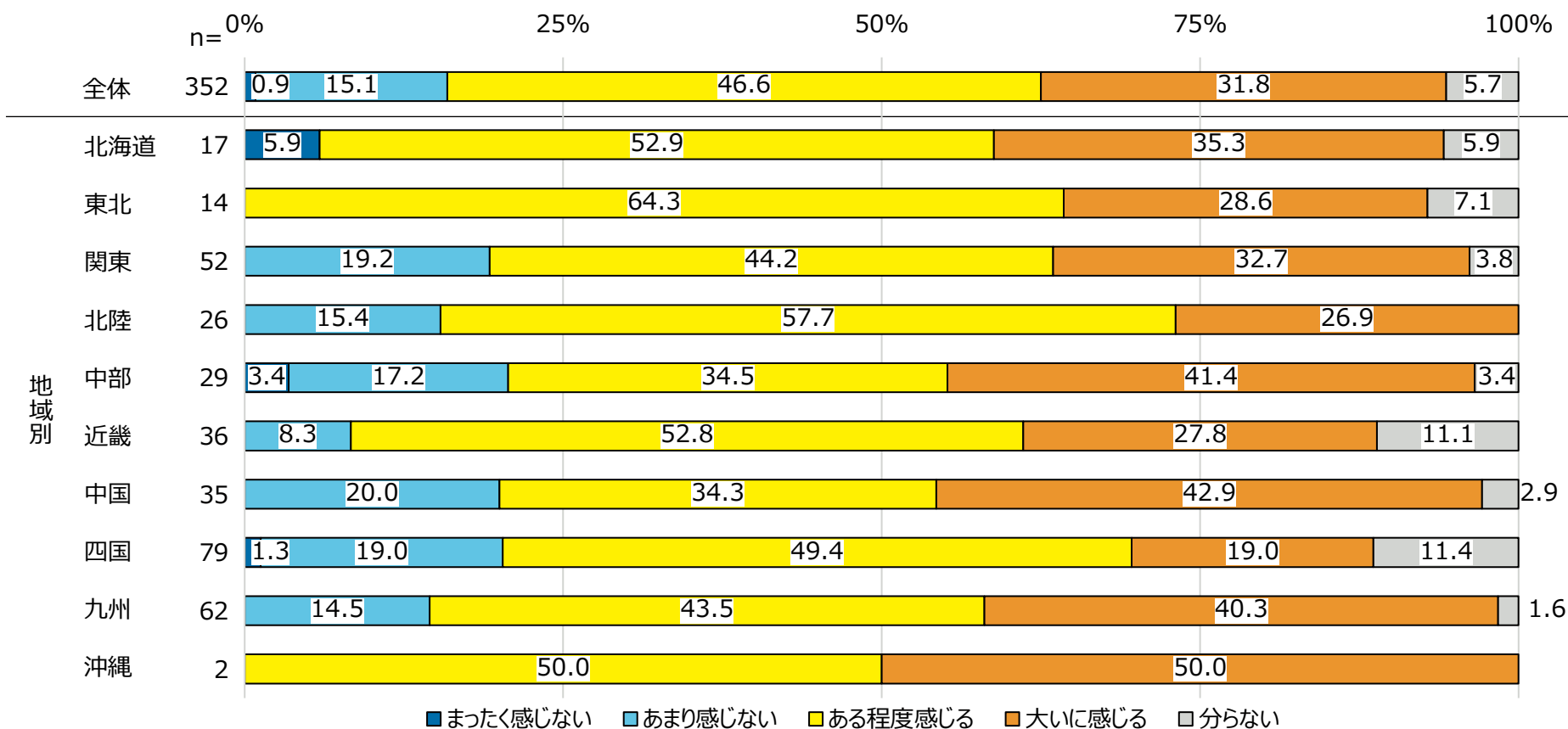
- ・ 職種別では、研究・技術の職業で“感じる”が90.0%と、他の職種と比べて高い。一方、管理的職業、事務的職業、その他では“感じない”が2割を超え、他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「大いに感じる」が28.3%と他の利用頻度と比べて高い。



問15 国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報について、あなたが思っていることを教えてください。精度の高い地図など、必要とする地理空間情報に自由かつ安価にアクセスできると感じますか。

問16 3年ほど前と比較して、インターネット上の地図や基準点データ等の地理空間情報を利用する機会が増えたと感じるか（地域別）

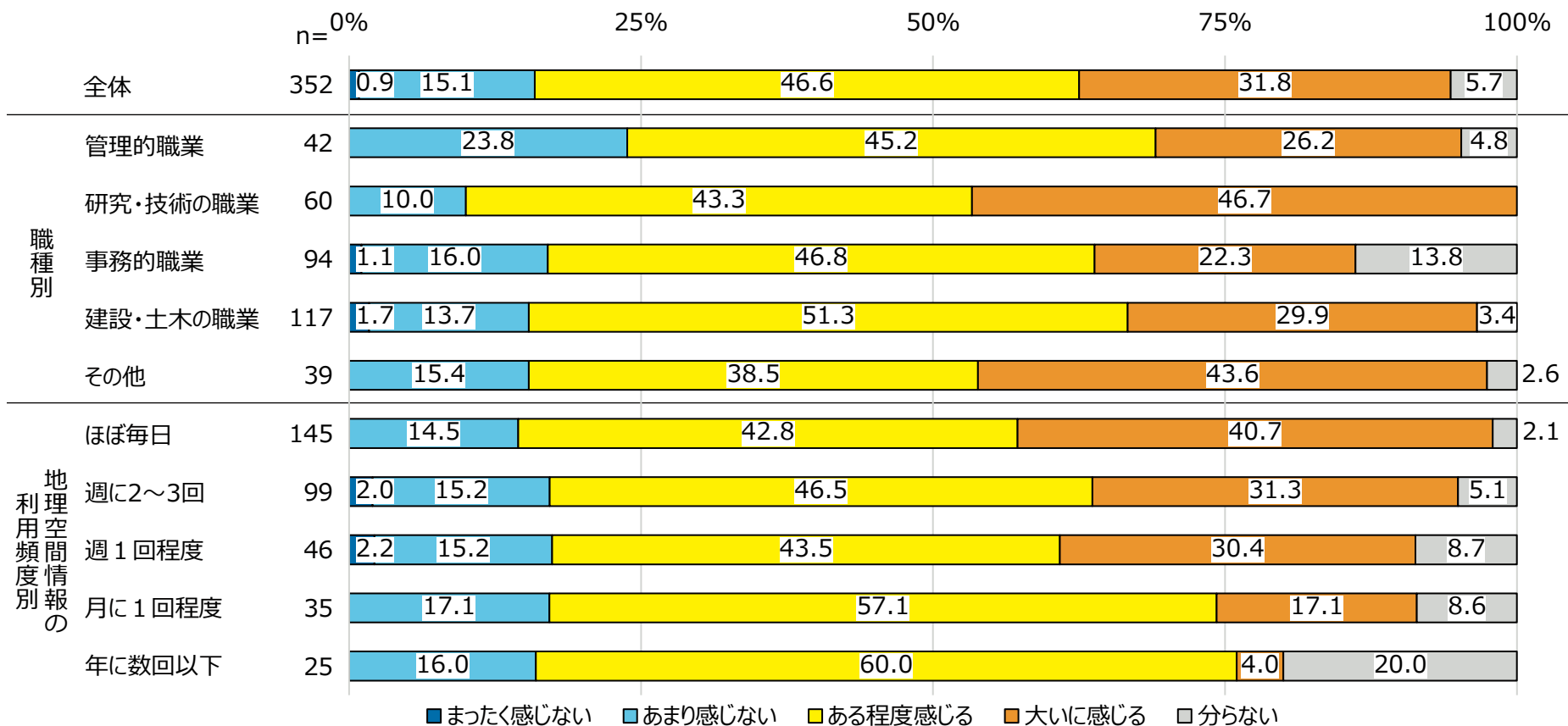
- 全体では、「ある程度感じる」が46.6%と最も高く、次いで「大いに感じる」が31.8%となっており、合計すると78.4%が“感じる”と回答している。一方、「まったく感じない」（0.9%）と「あまり感じない」（15.1%）を合計した“感じない”は16.0%となっている。
- 地域別では、北海道、東北、北陸、近畿で“感じる”が8割以上となり、他の地域と比べて高い。また、中部、中国、九州では「大いに感じる」が4割以上で、他の地域と比べて高い。



問16 3年ほど前と比較して、インターネット上の地図や基準点データ等の地理空間情報を利用する機会が増えたと感じますか。

問16 3年ほど前と比較して、インターネット上の地図や基準点データ等の地理空間情報を利用する機会が増えたと感じるか（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

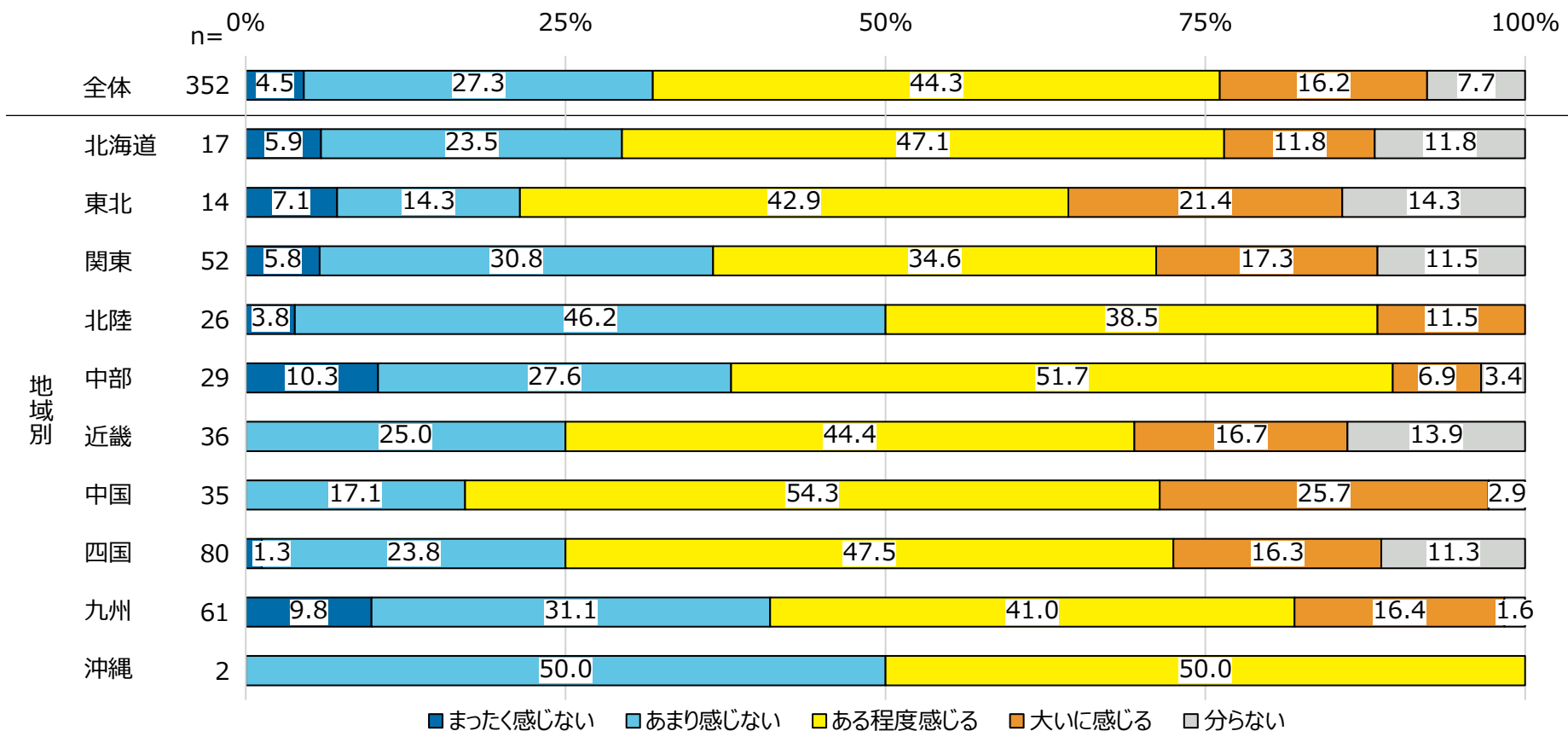
- ・ 職種別では、研究・技術の職業で“感じる”が90.0%と、他の職種と比べて高い。一方、管理的職業では「あまり感じない」が23.8%と他の職種と比べて高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、利用頻度が多いほど「大いに感じる」の割合が高くなっている。一方で、「まったく感じない」や「あまり感じない」の割合は利用頻度による差は小さくなっている。



問16 3年ほど前と比較して、インターネット上の地図や基準点データ等の地理空間情報を利用する機会が増えたと感じますか。

問17 3年ほど前と比較して、勤務先又は居住地の都道府県や市区町村の行政において、GISの活用が伸展していると感じるか（地域別）

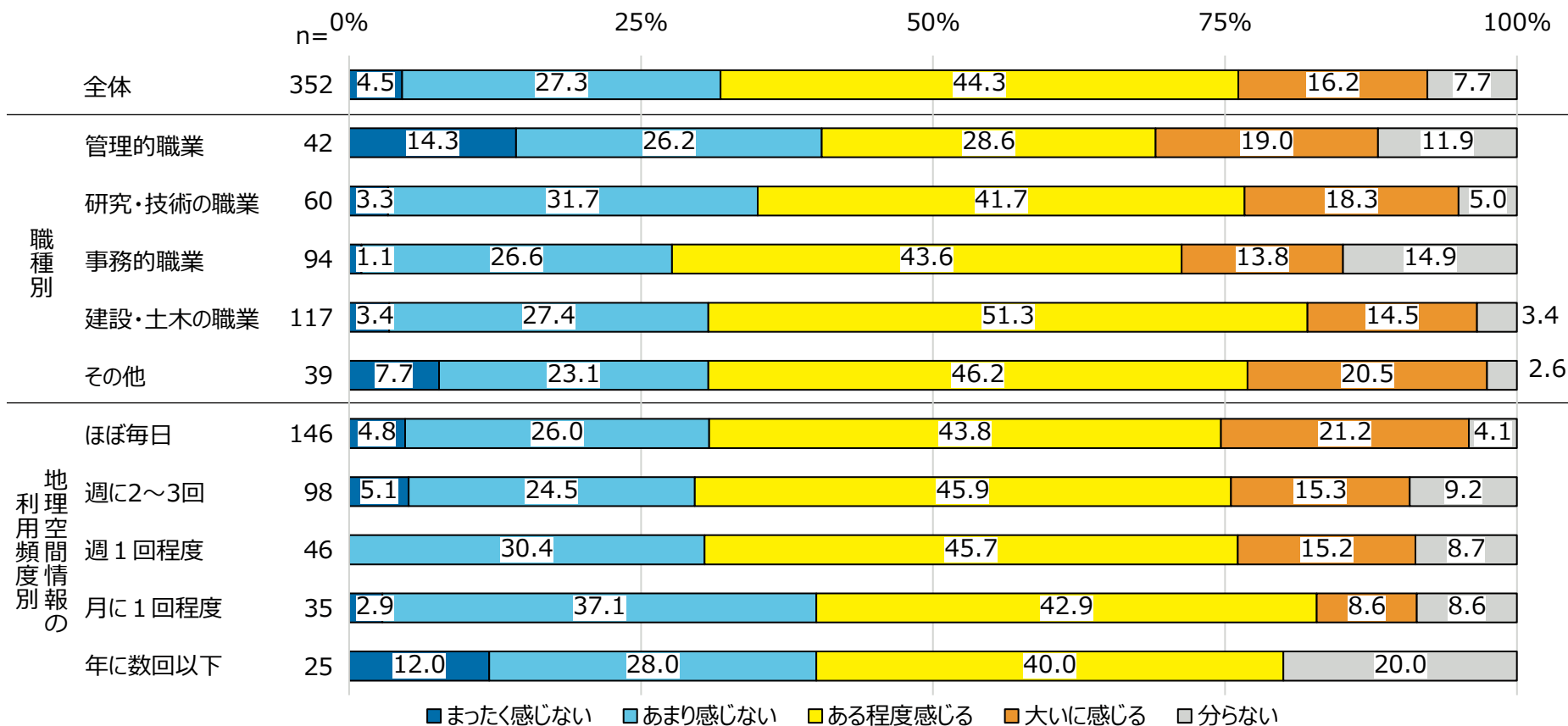
- 全体では、「ある程度感じる」が44.3%と最も高く、次いで「あまり感じない」（27.3%）、「大いに感じる」（16.2%）と続く。「ある程度感じる」と「大いに感じる」を合計した“感じる”は60.5%と約6割を占めるのに対して、「まったく感じない」と「あまり感じない」を合計した“感じない”は31.8%となっている。
- 地域別では、中国で“感じる”が80.0%と、他の地域と比べて高い。一方、北陸では“感じない”が50.0%と、他の地域と比べて高い。



問17 3年ほど前と比較して、勤務先又は居住地の都道府県や市区町村の行政において、GISの活用が伸展していると感じますか。

問17 3年ほど前と比較して、勤務先又は居住地の都道府県や市区町村の行政において、GISの活用が伸展していると感じるか（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

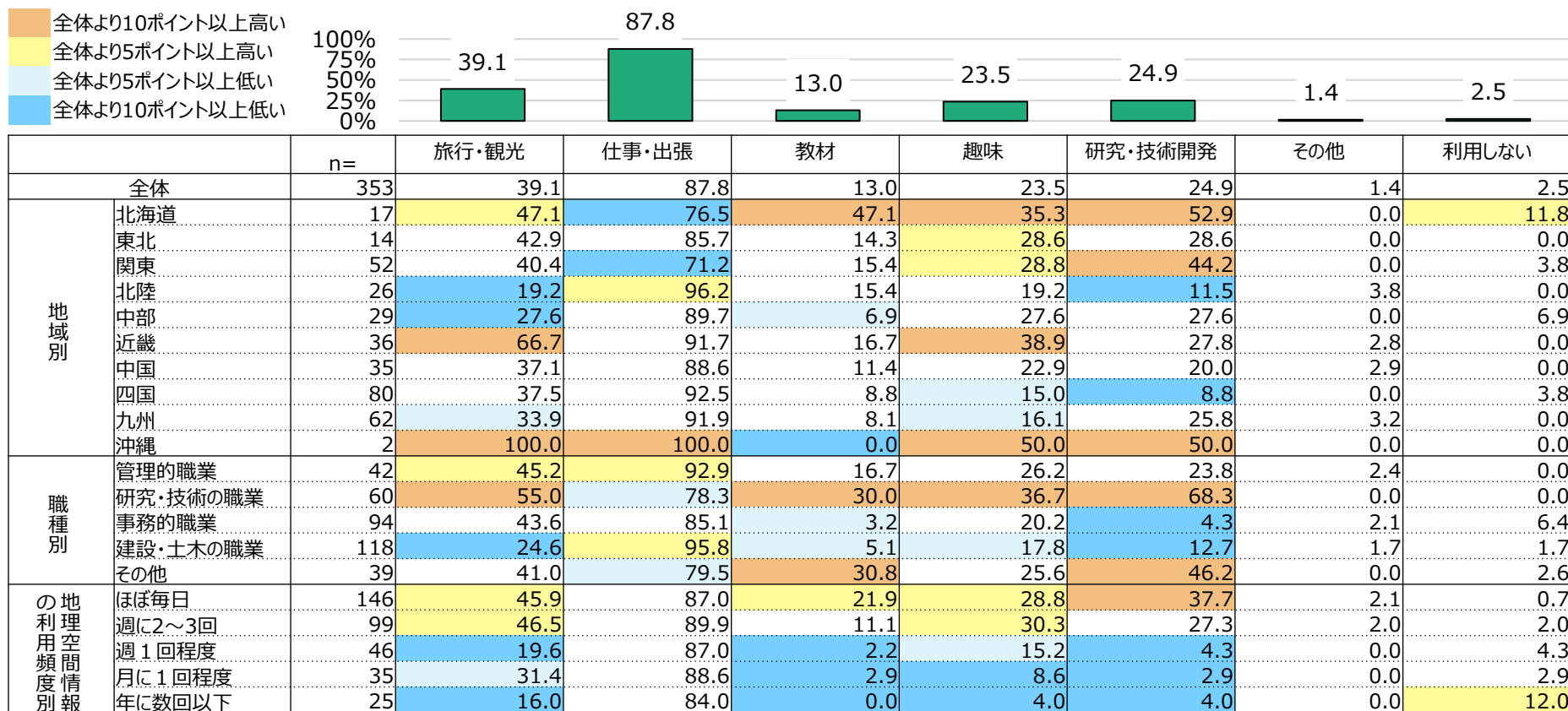
- ・ 職種別では、研究・技術の職業、建設・土木の職業、その他で“感じる”が6割以上となっており、他の職種と比べて高い。一方、管理的職業では「まったく感じない」が14.3%と、全体より9.8ポイント高い。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、週1回程度、月に1回程度で「あまり感じない」が3割を超え、週に1回程度以下の利用頻度と比べて高い。



問17 3年ほど前と比較して、勤務先又は居住地の都道府県や市区町村の行政において、GISの活用が伸展していると感じますか。

問18 地理空間情報の利用目的【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】

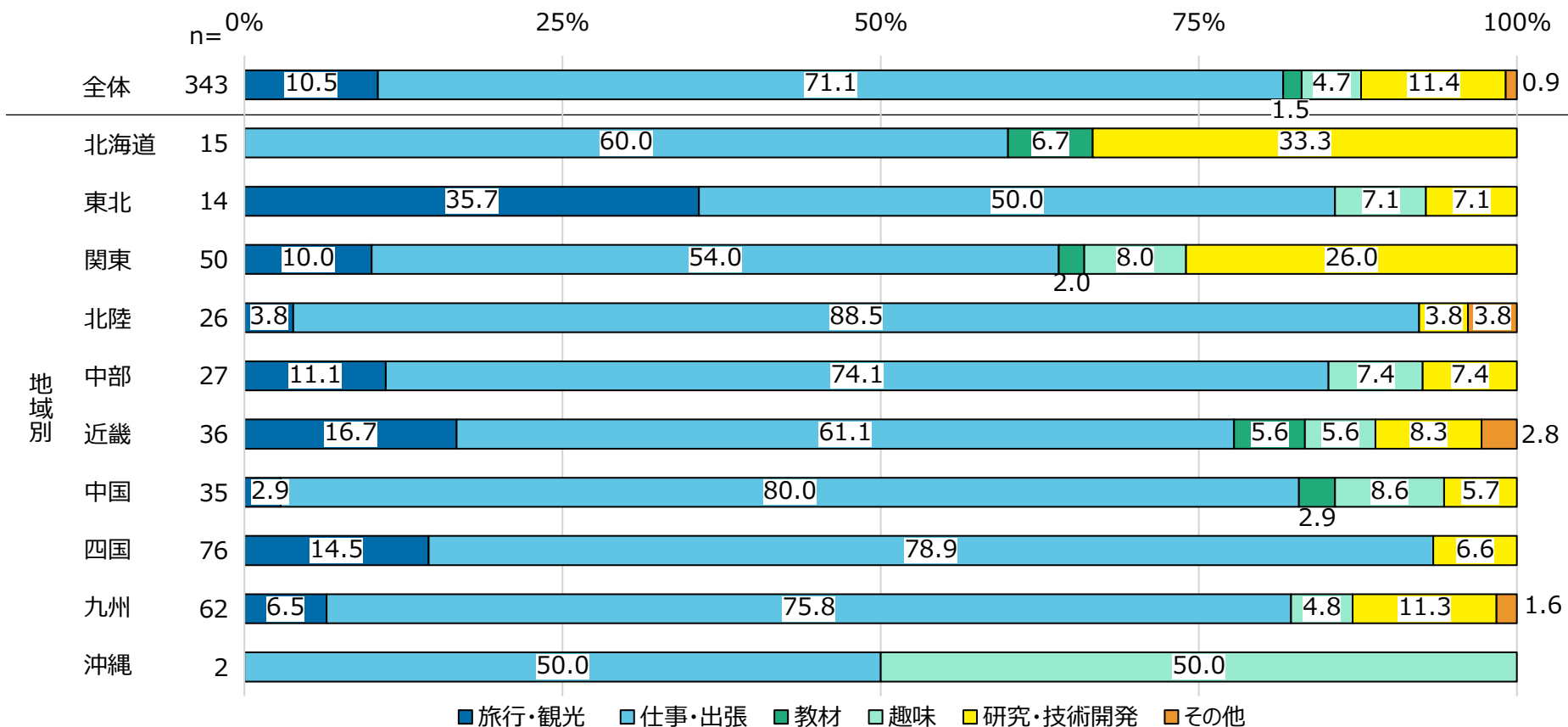
- 全体では、「仕事・出張」が87.8%と最も高く、次いで「旅行・観光」（39.1%）、「研究・技術開発」（24.9%）と続く。
- 地域別では、近畿で「旅行・観光」、「趣味」が全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、研究・技術の職業で「旅行・観光」、「教材」、「趣味」、「研究・技術開発」が全体より10ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「研究・技術開発」が全体より10ポイント以上高い。



問18 あなたは、どのような目的で地理空間情報を利用しますか。（複数選択可）【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】

問18ー1 地理空間情報の利用目的の内、最も利用する目的（地域別）

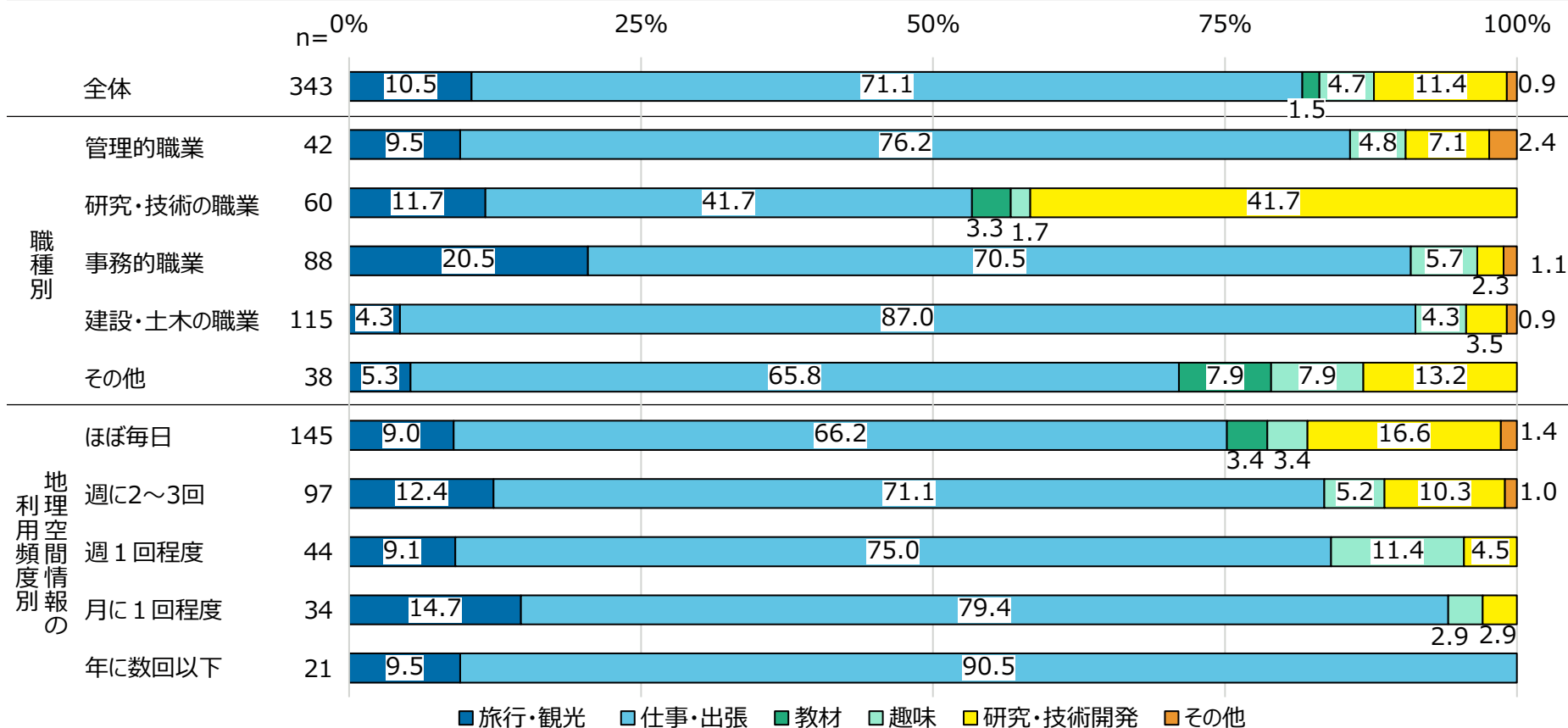
- 全体では、「仕事・出張」が71.1%と最も高く、次いで「研究・技術開発」（11.4%）、「旅行・観光」（10.5%）と続く。
- 地域別では、北陸、中国で「仕事・出張」が8割を超え、他の地域と比べて高い。北海道、関東では「研究・技術開発」が2割を超え、他の地域と比べて高くなっている。



問18ー1 上記の設問で選択した利用目的の内、最も利用する目的を1つ選んでください。

問18-1 地理空間情報の利用目的の内、最も利用する目的（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

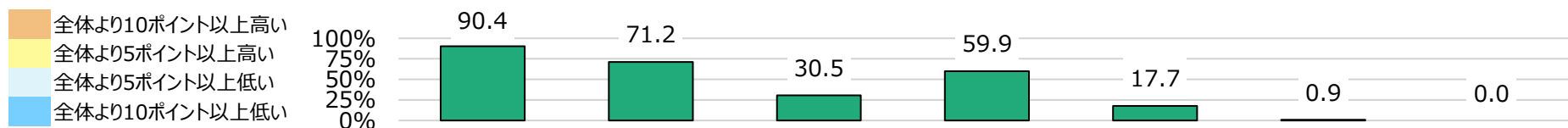
- ・ 職種別では、建設・土木の職業で「仕事・出張」が87.0%と8割を超え、他の職種と比べて高い。一方、研究・技術の職業では「研究・技術開発」が41.7%と他の職種と比べて高く、「仕事・出張」と同率となっている。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、利用頻度が少ないほど「仕事・出張」の割合が高くなっている。



問18-1 上記の設問で選択した利用目的の内、最も利用する目的を1つ選んでください。

問19 利用する地理空間情報の種類【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】

- 全体では、「ウェブ地図（PC使用）」が90.4%と最も高く、次いで「ウェブ地図（携帯端末使用）」（71.2%）、「カーナビ」（59.9%）と続く。
- 地域別では、北陸で「カーナビ」が80.8%と8割を超え、他の地域と比べて高い。
- 職種別では、研究・技術の職業で「ウェブ地図（携帯端末使用）」が81.7%と8割を超え、他の職種と比べて高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日で「カーナビ」が全体より10ポイント以上高く、「ウェブ地図（携帯端末使用）」が全体より5ポイント以上高い。

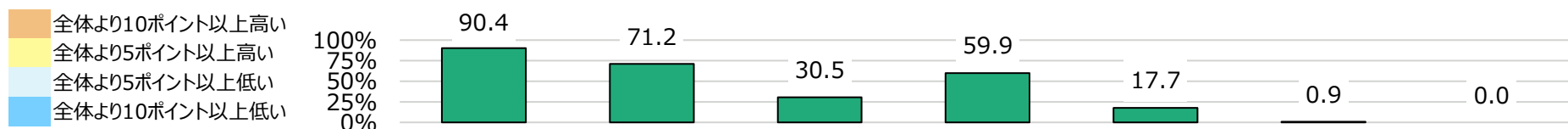


	n=	ウェブ地図（PC使用）」	ウェブ地図（携帯端末使用）」	紙面に印刷された地図（地図帳等も含む）」	カーナビ	案内標識板	その他	利用しない
全体	344	90.4	71.2	30.5	59.9	17.7	0.9	0.0
地域別								
北海道	15	93.3	80.0	40.0	60.0	33.3	0.0	0.0
東北	14	92.9	78.6	28.6	42.9	7.1	0.0	0.0
関東	50	92.0	74.0	40.0	66.0	16.0	0.0	0.0
北陸	26	96.2	73.1	38.5	80.8	19.2	3.8	0.0
中部	27	96.3	66.7	29.6	59.3	18.5	0.0	0.0
近畿	36	83.3	72.2	19.4	44.4	13.9	0.0	0.0
中国	35	94.3	77.1	20.0	54.3	22.9	0.0	0.0
四国	77	93.5	66.2	26.0	63.6	15.6	1.3	0.0
九州	62	82.3	67.7	33.9	58.1	17.7	1.6	0.0
沖縄	2	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
職種別								
管理的職業	42	92.9	66.7	21.4	54.8	7.1	2.4	0.0
研究・技術の職業	60	96.7	81.7	31.7	60.0	16.7	0.0	0.0
事務的職業	88	85.2	71.6	27.3	56.8	20.5	0.0	0.0
建設・土木の職業	116	90.5	64.7	30.2	62.1	17.2	1.7	0.0
その他	38	89.5	78.9	47.4	65.8	26.3	0.0	0.0
地理空間情報の利用頻度別								
ほぼ毎日	145	93.8	78.6	33.8	71.0	20.7	2.1	0.0
週に2～3回	97	90.7	76.3	36.1	57.7	16.5	0.0	0.0
週1回程度	44	90.9	72.7	18.2	54.5	13.6	0.0	0.0
月に1回程度	34	82.4	52.9	29.4	47.1	8.8	0.0	0.0
年に数回以下	22	77.3	22.7	9.1	27.3	22.7	0.0	0.0

問19 あなたは、どのような種類の地理空間情報を利用しますか。（複数選択可）【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】

問19 利用する地理空間情報の種類【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】（最も利用する利用目的別）

- 最も利用する利用目的別では、旅行・観光、教材、趣味、その他で「ウェブ地図（携帯端末使用）」が全体より10ポイント以上高い。
- 「ウェブ地図（PC使用）」は旅行・観光で80.6%と全体と比べ9.8ポイント低い。「ウェブ地図（携帯端末使用）」は仕事・出張で66.0%と全体と比べ5.2ポイント低い。

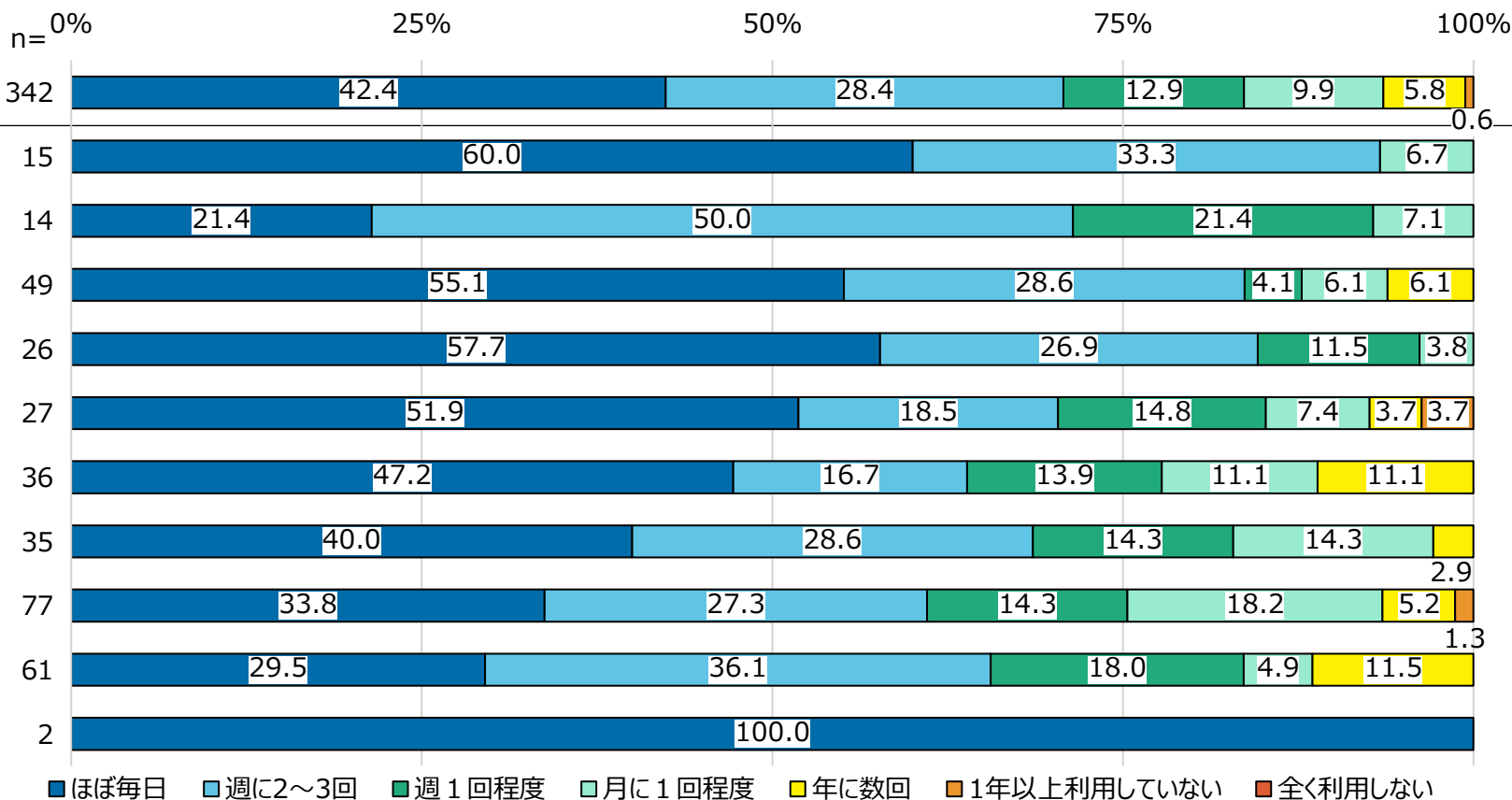


		n=	ウェブ地図 (PC使用)	ウェブ地図 (携帯端末 使用)	紙面に印刷さ れた地図（地 図帳等も含 む）	カーナビ	案内標識板	その他	利用しない
	全体	344	90.4	71.2	30.5	59.9	17.7	0.9	0.0
最も利用する 利用目的別	旅行・観光	36	80.6	91.7	27.8	61.1	11.1	0.0	0.0
	仕事・出張	244	91.0	66.0	27.9	61.1	17.2	0.8	0.0
	教材	5	100.0	100.0	60.0	60.0	60.0	0.0	0.0
	趣味	16	93.8	93.8	62.5	56.3	18.8	0.0	0.0
	研究・技術開発	39	92.3	71.8	35.9	56.4	23.1	0.0	0.0
	その他	3	100.0	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

問19 あなたは、どのような種類の地理空間情報を利用しますか。（複数選択可）【国土地理院の成果に関わらず一般的な地理空間情報に関連して】

問20 地理空間情報の利用頻度（地域別）

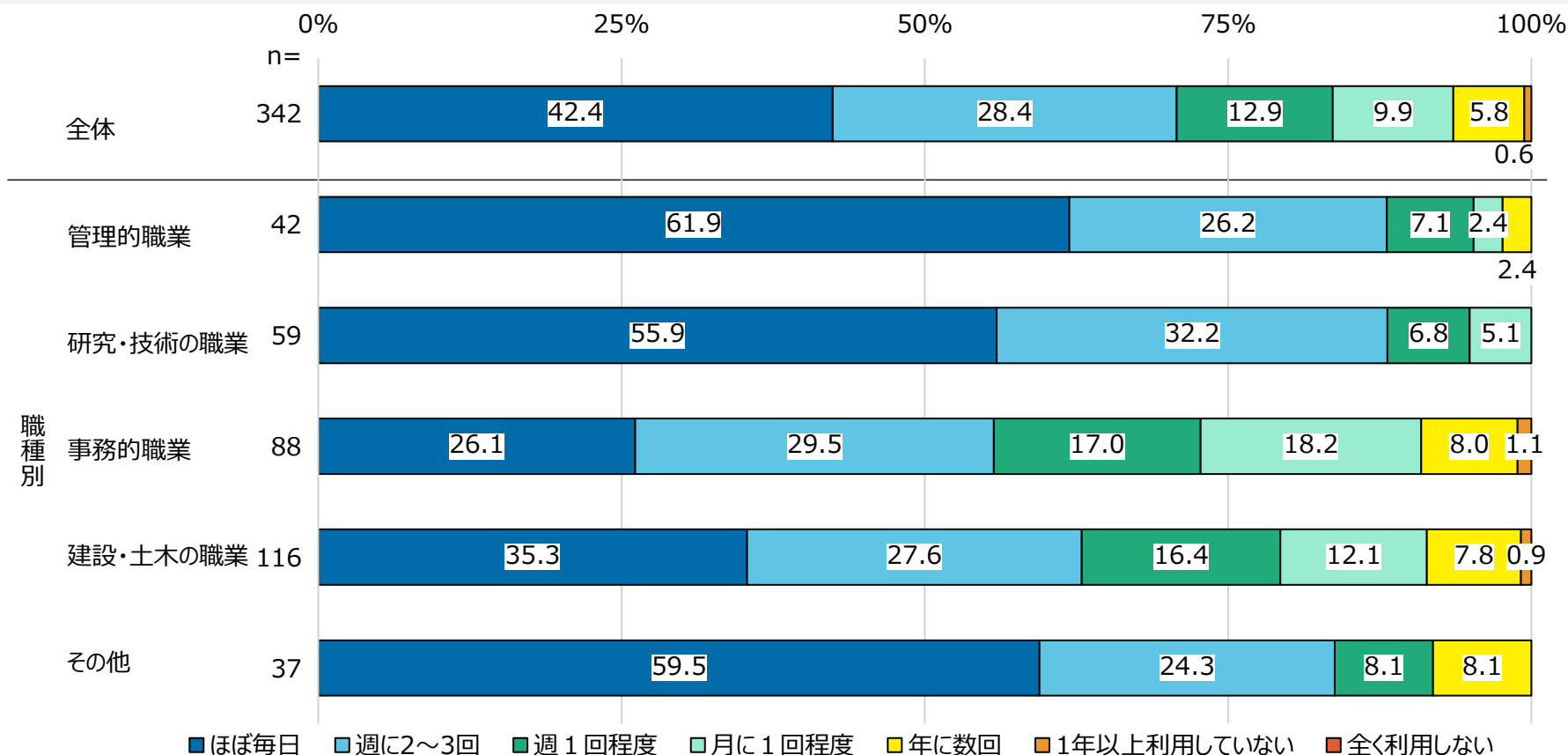
- 全体では、「ほぼ毎日」が42.4%と最も高く、次いで「週に2～3回」（28.4%）、「週1回程度」（12.9%）と続く。これらを合計すると83.7%となり、8割以上が“週に1回程度以上”地理空間情報を利用している。
- 地域別では、北海道、関東、北陸、中部で「ほぼ毎日」が5割を超え、他の地域と比べて高い。“週に1回程度以上”の割合は、北海道、東北、北陸で9割以上と高く、四国で75.4%とやや低い。



問20 あなたは、どのくらいの頻度で地理空間情報を利用しますか。

問20 地理空間情報の利用頻度（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

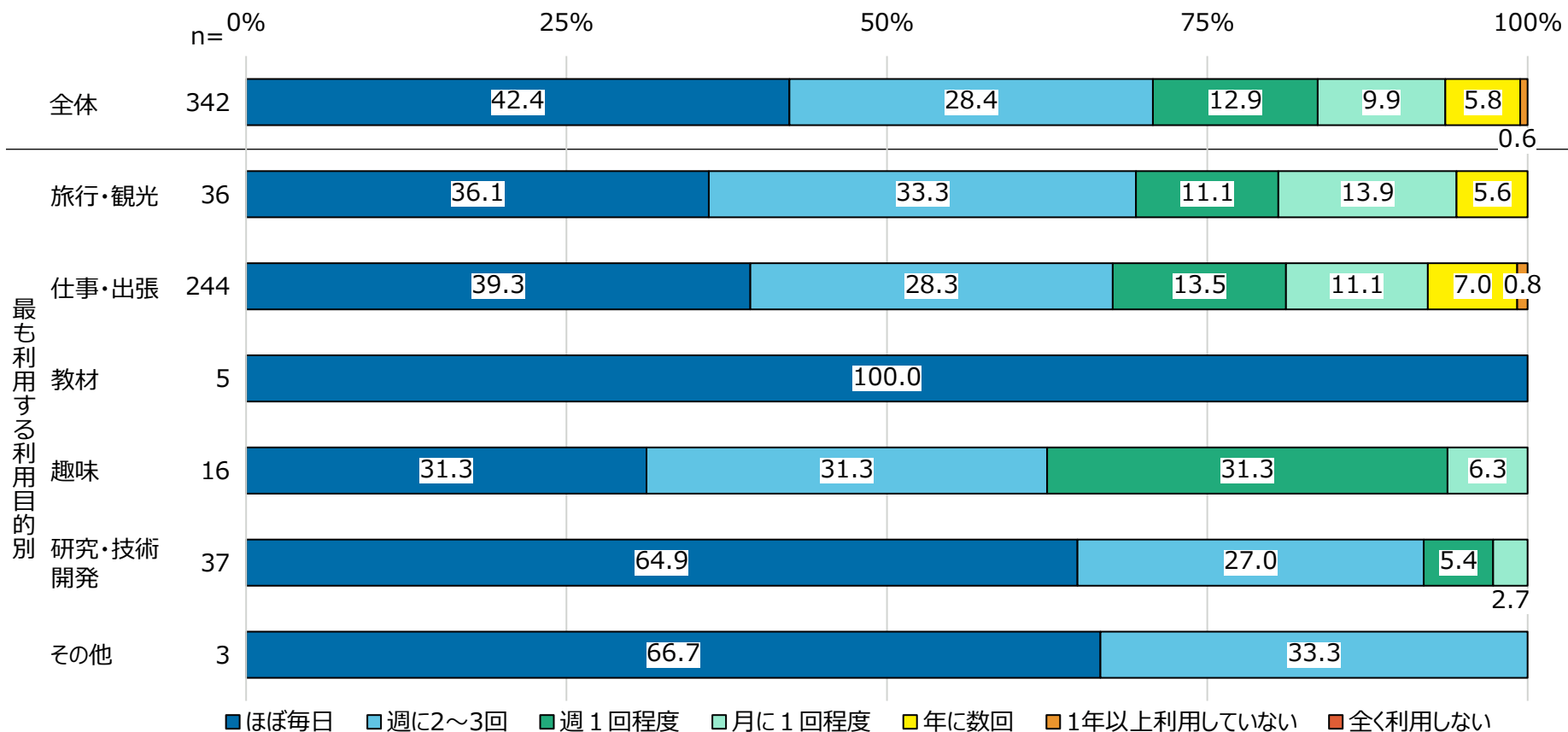
- ・ 職種別では、管理的職業で「ほぼ毎日」が61.9%と6割を超え、他の職種と比べて高い。「ほぼ毎日」は研究・技術の職業、その他でも5割を超えている。
- ・ 事務的職業、建設・土木の職業では“週に1回程度以上”がそれぞれ72.6%、79.3%と、他の職種と比べて低い。



問20 あなたは、どのくらいの頻度で地理空間情報を利用しますか。

問20 地理空間情報の利用頻度（最も利用する利用目的別）

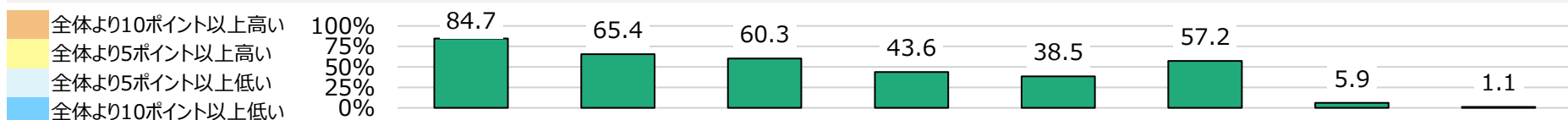
- 最も利用する利用目的別では、その他を除くと研究・技術開発で「ほぼ毎日」が64.9%と他の利用目的と比べて高い。旅行・観光、仕事・出張では、“週に1回程度以上”が8割程度とやや低い。



問20 あなたは、どのくらいの頻度で地理空間情報を利用しますか。

問21 地理空間情報に求める要件

- 全体では、「位置の正確性」が84.7%と最も高く、次いで「新しさ」（65.4%）、「操作の簡易性（データ仕様の使いやすさ）」（60.3%）と続く。いずれの地域、職種、利用頻度でも「位置の正確性」が7割を超え高くなっている。
- 地域別では、北海道、近畿で「費用」が全体より10ポイント以上高い。
- 職種別では、管理的職業、その他で「操作の簡易性（データ仕様の使いやすさ）」が全体より5ポイント以上高い。
- 地理空間情報の利用頻度別では、ほぼ毎日、週に2～3回程度で「新しさ」が全体より5ポイント以上高い。

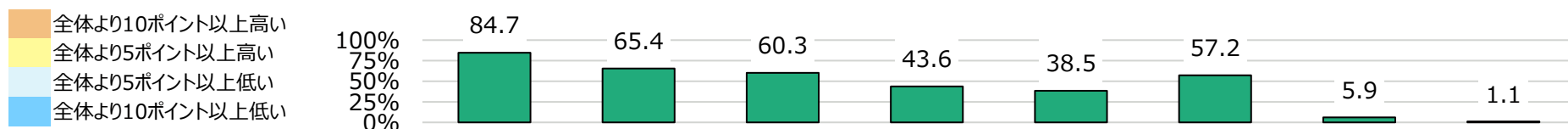


		n=	位置の正確性	新しさ	操作の簡易性 (データ仕様の使いやすさ)	豊富な情報量	費用	内容の信頼性	CCライセンスの明示	特に無い
地域別	全体	353	84.7	65.4	60.3	43.6	38.5	57.2	5.9	1.1
	北海道	17	76.5	70.6	52.9	47.1	58.8	58.8	35.3	5.9
	東北	14	100.0	42.9	35.7	28.6	14.3	35.7	0.0	0.0
	関東	52	78.8	57.7	55.8	34.6	44.2	59.6	3.8	0.0
	北陸	26	84.6	69.2	65.4	50.0	46.2	57.7	7.7	0.0
	中部	29	96.6	58.6	58.6	51.7	27.6	41.4	3.4	0.0
	近畿	36	83.3	69.4	69.4	47.2	52.8	69.4	13.9	0.0
	中国	35	74.3	71.4	57.1	48.6	17.1	57.1	0.0	2.9
	四国	80	85.0	63.8	62.5	41.3	37.5	58.8	1.3	2.5
	九州	62	88.7	75.8	66.1	46.8	41.9	56.5	6.5	0.0
職種別	沖縄	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	管理的職業	42	81.0	69.0	66.7	42.9	45.2	71.4	9.5	2.4
	研究・技術の職業	60	85.0	71.7	50.0	50.0	60.0	55.0	16.7	0.0
	事務的職業	94	85.1	62.8	60.6	37.2	41.5	57.4	3.2	2.1
	建設・土木の職業	118	87.3	62.7	61.0	43.2	23.7	51.7	2.5	0.8
	その他	39	79.5	66.7	66.7	51.3	35.9	61.5	2.6	0.0
の地理空間 利用頻度 情報別	ほぼ毎日	146	87.7	70.5	61.6	45.2	47.9	67.1	11.0	0.0
	週に2～3回	99	82.8	71.7	62.6	45.5	37.4	52.5	3.0	0.0
	週1回程度	46	93.5	65.2	63.0	52.2	28.3	50.0	2.2	0.0
	月に1回程度	35	74.3	45.7	48.6	31.4	25.7	48.6	2.9	2.9
	年に数回以下	25	72.0	36.0	56.0	28.0	20.0	44.0	0.0	12.0

問21 あなたは、どのような要件を地理空間情報に求めますか。（複数選択可）

問21 地理空間情報に求める要件（最も利用する利用目的別）

- 最も利用する利用目的別でも、回答数が少ない教材、その他を除いて「位置の正確性」が最も高い。
- 研究・技術開発では「新しさ」と「費用」が全体より10ポイント以上、「位置の正確性」、「内容の信頼性」、「CCライセンスの明示」が全体より5ポイント以上高い。
- 旅行・観光では「内容の信頼性」が全体より10ポイント以上高く、「操作の簡易性（データ仕様の使いやすさ）」、「豊富な情報量」、「費用」が全体より5ポイント以上高い。

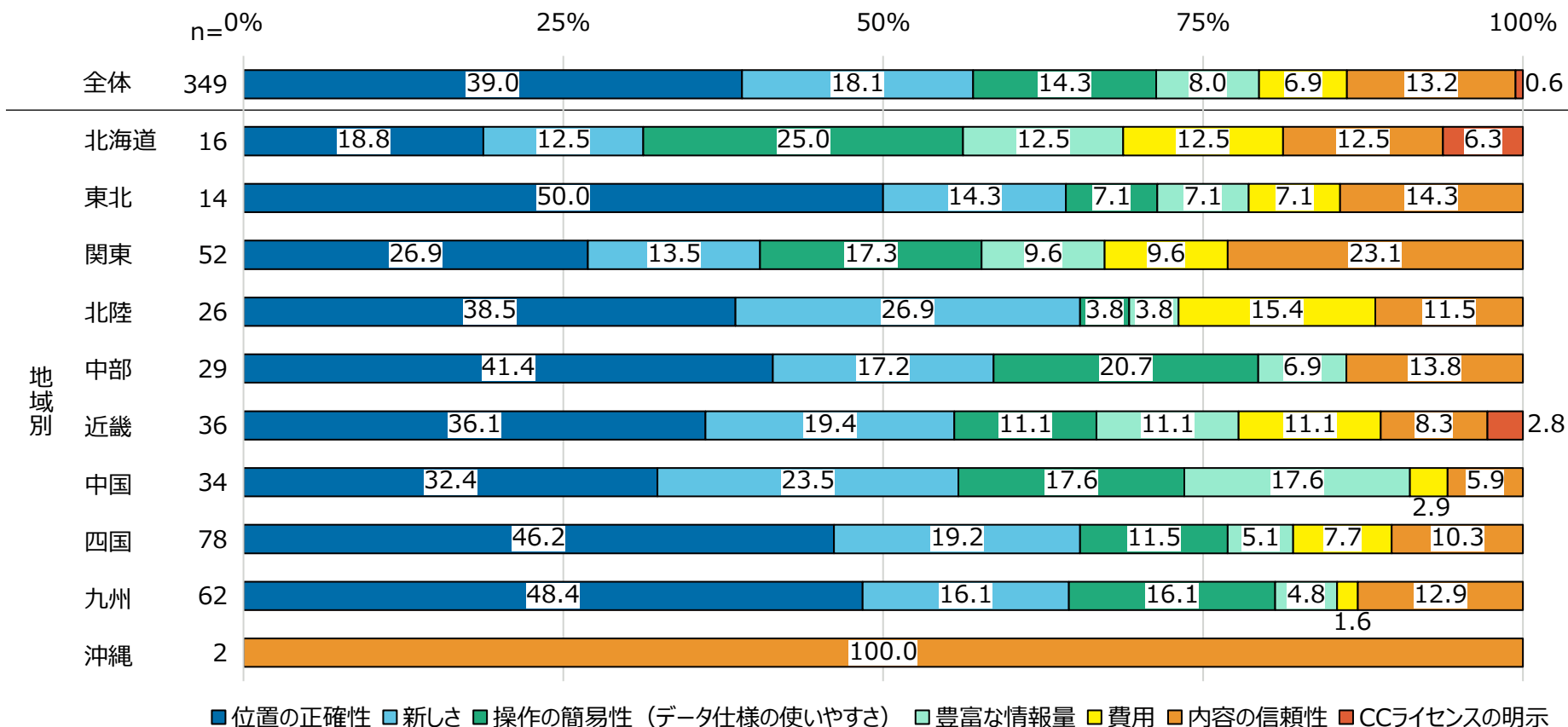


		n=	位置の正確性	新しさ	操作の簡易性 (データ仕様の 使いやすさ)	豊富な情報量	費用	内容の信頼性	CCライセンスの 明示	特に無い
全体		353	84.7	65.4	60.3	43.6	38.5	57.2	5.9	1.1
最も利用する 利用目的別	旅行・観光	36	77.8	50.0	69.4	50.0	44.4	75.0	2.8	0.0
	仕事・出張	244	85.2	65.6	63.1	44.3	34.8	54.1	4.5	0.4
	教材	5	80.0	100.0	80.0	80.0	60.0	80.0	20.0	0.0
	趣味	16	93.8	56.3	56.3	37.5	18.8	75.0	6.3	0.0
	研究・技術開発	39	89.7	79.5	41.0	38.5	69.2	64.1	15.4	0.0
	その他	3	66.7	100.0	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0

問21 あなたは、どのような要件を地理空間情報に求めますか。（複数選択可）

問21-1 地理空間情報に求める要件の内、最も重視する要件（地域別）

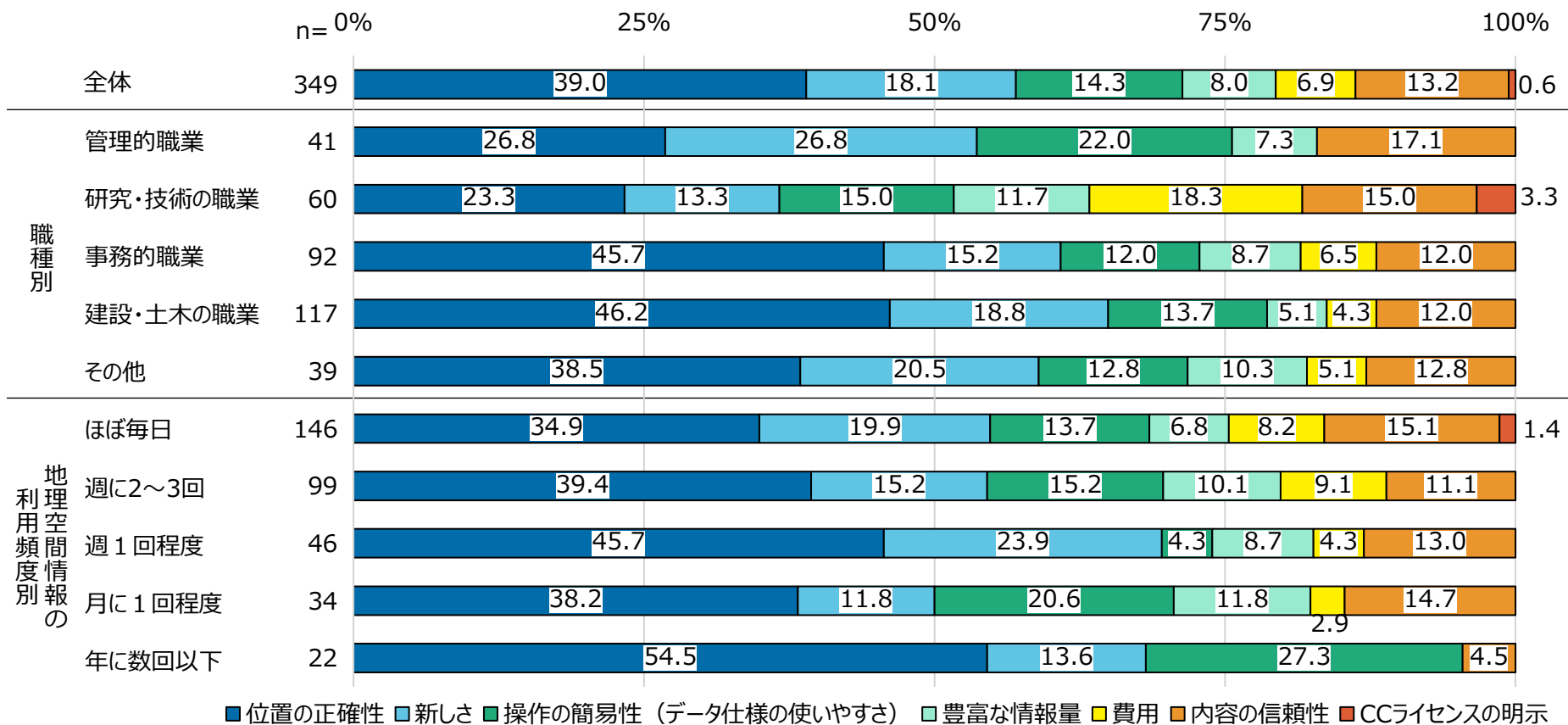
- 全体では、「位置の正確性」が39.0%と最も高く、次いで「新しさ」（18.1%）、「操作の簡易性（データ仕様の使いやすさ）」（14.3%）と続く。
- 地域別でも「位置の正確性」が高い地域が多く、中部、四国、九州では4割を超える。一方、北海道では「操作の簡易性」が最も高い。北陸、中国では「新しさ」が2割を超え、他の地域と比べて高い。



問21-1 上記の設問で選択した要件の内、最も重視する要件を1つ選んでください。

問21-1 地理空間情報に求める要件の内、最も重視する要件（職種別／地理空間情報の利用頻度別）

- ・ 職種別では、事務的職業、建設・土木の職業で「位置の正確性」が4割を超え、他の職種と比べて高い。一方、管理的職業では「新しさ」が26.8%と他の職種と比べて高く、「位置の正確性」と同率となっている。
- ・ 地理空間情報の利用頻度別では、週1回程度、年に数回以下で「位置の正確性」が4割を超え、他の利用頻度と比べて高い。ほぼ毎日では「内容の信頼性」や「CCライセンスの明示」が他の利用頻度と比べてやや高い。

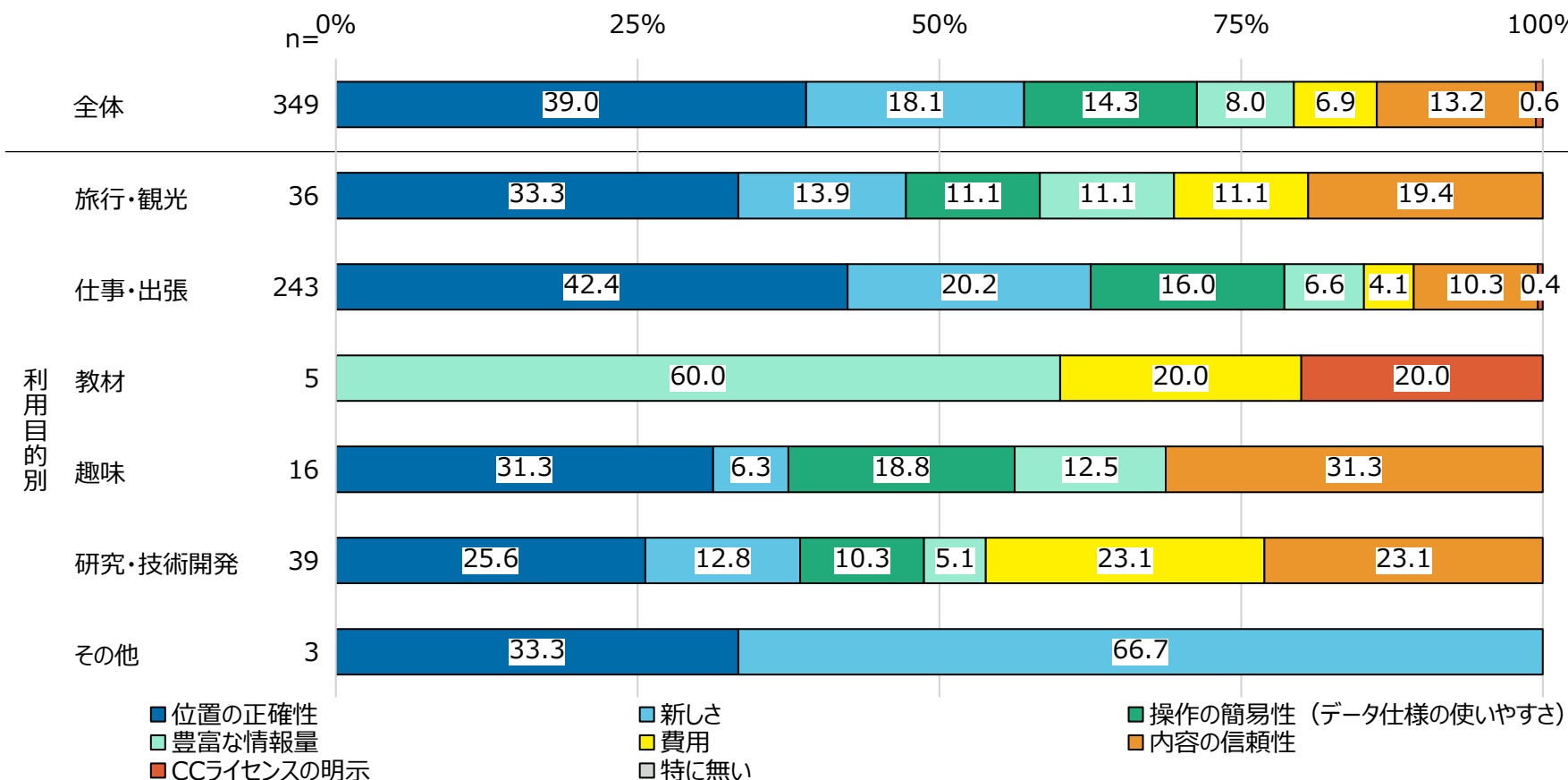


■ 位置の正確性 ■ 新しさ ■ 操作の簡易性（データ仕様の使いやすさ） ■ 豊富な情報量 ■ 費用 ■ 内容の信頼性 ■ CCライセンスの明示

問21-1 上記の設問で選択した要件の内、最も重視する要件を1つ選んでください。

問21-1 地理空間情報に求める要件の内、最も重視する要件（最も利用する利用目的別）

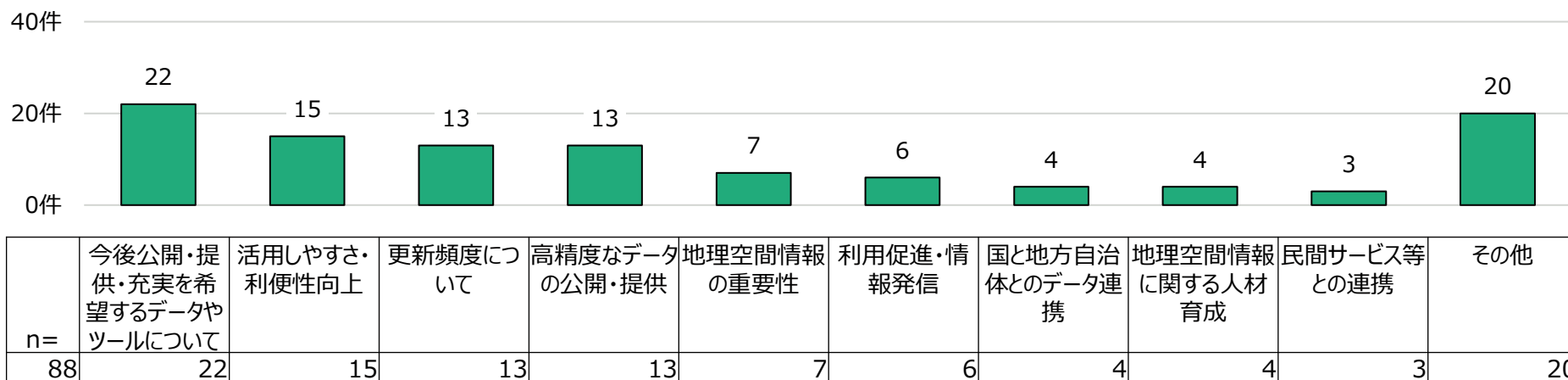
- 最も利用する利用目的別では、仕事・出張で「位置の正確性」が42.4%、「新しさ」が20.2%と他の利用目的と比べて高い。一方、研究・技術開発では「費用」が23.1%と他の利用目的と比べて高い。



問21-1 上記の設問で選択した要件の内、最も重視する要件を1つ選んでください。

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等

- ・ その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等について、自由回答の内容を分類すると以下のようになっている。
- ・ 「今後公開・提供・充実を希望するデータやツールについて」が22件で多く、次いで「活用しやすさ・利便性向上」が15件、「更新頻度について」と「高精度なデータの公開・提供」がそれぞれ13件などとなっている。



※複数の分類に該当する回答はそれぞれの分類に振り分けているため、各分類の回答数の合計が全体の回答数を上回っている。

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等がありましたら、回答欄にご記入ください。（例えば、地理空間情報を利用するにあたって、制約に感じることや、地理空間情報を高度に活用するにあたって必要となるものなどについて、記載してください。）

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等（続き）

- 下表では、地理空間情報の整備や活用に関する要望等について、分類項目ごとに回答を抜粋し掲載している。
- 今後公開・提供・充実を希望するデータやツールについては、具体的には「国が所有している多くのデータについて、オープンデータ化」などの意見がみられる。
- 活用しやすさ・利便性向上については、具体的な機能の要望の他、「スマホでの地図利用が圧倒的に増えているが、いまだPC利用を前提としたページ作りがなされていると感じている」といった意見がみられる。

分類	自由記述（原文のまま抜粋）
今後公開・提供・充実を希望するデータやツールについて	- 国が所有している多くのデータについて、オープンデータ化していただきたい。 - ベースレジストリーとして電子国土基本図が、三次元で更新頻度の高い地図として早期に確立して欲しい。 - 用途によっては、cm単位の精度を求められる場合があります。膨大なデータ管理が必要とは思いますが、今後、より高精度な地理空間情報の整備（三次元化）を期待しています。 - 今後は2次元だけでなく3次元データの活用が求められます。これには地理院地図の役割は大きく、地理院地図を主軸とした3次元の地理空間情報（点群・TIN・ポクセル）の整備や活用に期待しています。そのうえで、現在地方自治体が独自に進めているオープンデータ（2次元＋3次元）を、地理院地図に集約することができれば、日本国内の地理空間情報ツールとして確固なものになると感じております。これまでの枠にとらわれない、まったく新しいアプローチも含めて、地理院地図に大変期待しております。今後ともよろしく願いいたします
活用しやすさ・利便性向上	- 都市計画図（DM）、衛生写真、航空写真を容易に入手できれば利用頻度が上がると思います。 - 地理院地図（Vector版等）について、作画情報の保存が「画像として保存」しかできない。防災分野において、「道路被害情報（通行不可道路）」や「浸水エリア」などの情報オーバーレイをレイヤーとして利用し、他機関ともGISで共有したいので、作画情報をShape形式などでも保存できるようにしてほしい。 - パソコンやスマホで情報を得る場合、データ量が多いと画面表示に時間がかかる。取得データそのものの軽量化や、各個人で不要なデータを取得できないようにカスタマイズできるといいと考える。 - スマホでの地図利用が圧倒的に増えているが、いまだPC利用を前提としたページ作りがなされていると感じている。国土地理院などの公的機関があるべき基準を示すことができるようリードしていくべきではないか。 - 空間情報を活用する時に感じるのは位置正確度より主題属性の情報量が多いほうが便利さを感じました。 - 航空写真を年度にわけて、確認できるようにして欲しい。毎年は無理でも3年ごとに見れるようにしてもらいたいという利用できると思う。いつの年度の写真かわかりづらい。

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等がありましたら、回答欄にご記入ください。（例えば、地理空間情報を利用するにあたって、制約に感じることや、地理空間情報を高度に活用するにあたって必要となるものなどについて、記載してください。）

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等（続き）

- ・ 更新頻度、高精度なデータの公開・提供については、より高頻度の更新、高精度なデータの公開を求める意見がみられる。
- ・ 地理空間情報の重要性については、災害や安全保障分野と関連した意見がみられる。
- ・ 利用促進・情報発信については、「実務的なデータ活用のマニュアル」などを要望する意見がみられる。

分類	自由記述（原文のまま抜粋）
更新頻度について	・ 空間情報の更新頻度のアップと自治体での利用促進 ・ やはり情報更新頻度が早い方が使用しやすい。 ・ 空中写真の更新を早くしてほしい。（最新のデータでの比較がしたいため） ・ 今後も地理空間情報は新鮮なデータを維持していただきたい。
高精度なデータの公開・提供	・ 高さの情報にやや制約を感じます。地形起伏や建物のおおまかな高さの表現はできるようになってきていますが、特に高架建造物など道路に関する高さ情報とその表現が高度活用には不可欠ではないかと思えます。 ・ 基準点や境界などの位置精度の向上を是非期待したいと思います。 ・ 土砂災害危険区域設定の為に自治体が整備した微細地形データが全国にあるのではないかと思います。自治体ではデータ保有のみで終わってしまっており、利活用にはたどりつかない状況です。是非、国土地理院で集めてもらって、「標高タイル地図化」してもらったらどうかと思えます。1mより細かいメッシュのデータ整備できると思えます。
地理空間情報の重要性	・ 地球温暖化など、地球規模での防災対策のために「地理空間情報」の整備は必要と考えます。また、建設産業での人手不足や効率化のため、国土基盤情報の整備は、国家レベルで進めていただければと考えます。そのための方策の一つは、だれでも簡単に利用できる地理空間情報の整備は必要ではないでしょうか。 ・ 安全保障分野含めた3次元地図の需要は高まっていくと思うが、利用にあたっての費用やデータ量などの負荷について利用者に応じた選別ができるようになって欲しい。
利用促進・情報発信	・ 実務的なデータ活用のマニュアルのようなものがあると、更に理由が進むと思います。 ・ 地理空間情報の高度活用について、業務データを地図上に展開することで、業務データを可視化し、業務の効率化や精度アップにつながる。 ・ 国・都道府県・市町村で同じ地図を使用できるようになるとありがたいです。システムごとに地図が異なると見づらいので。

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等がありましたら、回答欄にご記入ください。（例えば、地理空間情報を利用するにあたって、制約に感じることや、地理空間情報を高度に活用するにあたって必要となるものなどについて、記載してください。）

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等（続き）

- ・ 国と地方自治体のデータ連携について、「地方公共団体が作成した地理空間情報は全てオープンで提供できるようにしてほしい」といった意見がみられる。
- ・ 地理空間情報に関する人材育成に関しては、学び直しの環境がないことや将来的な測量士不足を懸念する意見がみられる。
- ・ 「人流など主題に関するデータ」について、民間サービス等との連携を望む意見がみられる。
- ・ その他、AIによる利用の想定や、利用許諾について、紙地図についてなど、様々な意見がみられる。

分類	自由記述（原文のまま抜粋）
国と地方自治体とのデータ連携	・ 一部の地方公共団体では、地理空間情報のオープンなデータ開示が行われておらず、二次利用ができない場合がある。国をあげて、地方公共団体が作成した地理空間情報は全てオープンで提供できるようにしてほしい。
地理空間情報に関する人材育成	・ 地理空間情報を活用するための人材育成が足りない。とくに新卒は大学で学べるが、既卒が学び直してスキルを見つけられる環境が無い。「地理空間情報が活用できるとは？」という標準スキルセットが不明瞭。なにをもって活用できるといえるのか。 ・ 北海道においては、測量士を輩出する学校が少なくなり、測量士を目指す人が激減しているため、将来的に地理空間情報の精度の担保が難しくなるだろうと思っている。あと何年かで地方では測量会社を高齢化による人材不足のため、維持できなくなる危険性がある。また、公教育分野の地理教育でGISや地図の利活用が始まったが、対応できる教員が少ないので、不十分になっていると思われる。よって、地理空間情報の整備や活用を強化するために、測量士も含めた人材育成を強化すべきである。高度ICT人材育成と連携する必要がある。
民間サービス等との連携	・ 人流など主題に関するデータがあると、他の基盤情報の活用が進むと思います。もちろん民間企業のデータであることは承知していますが、コロナ前後に公開しているように、一定程度の精度や内容で使えるものでもありがたいです。
その他	・ 土地利用の流動化が著しい昨今においては、現況の把握により労力を要することから、さらなる把握の簡単化に向けた技術の進展を望む。 ・ AIによる利用や地理情報によるAIの制御（AGIによる応用）等を想定した構造化を考慮した方が良いと思う。 ・ 国土交通省国土地理院様には日頃より感謝申し上げます。特に制約等は感じておりません、大変助かっております。 ・ 利用許諾のグレーゾーンが広いと利用をためらう。許可申請が必要な項目について、しっかり明記されてあるものを利用したい。 ・ 紙地図はぜひ残してもらいたい。

問22 その他、地理空間情報の整備や活用に関する要望等がありましたら、回答欄にご記入ください。（例えば、地理空間情報を利用するにあたって、制約に感じることや、地理空間情報を高度に活用するにあたって必要となるものなどについて、記載してください。）